

広げよう可能性！ 近づけよう姫路と世界！



公益財団法人
姫路市文化国際交流財団

HIMEJI CULTURAL AND INTERNATIONAL EXCHANGE FOUNDATION

目 次

ごあいさつ	1
第1章 姫路市の海外姉妹都市・姉妹城交流について	2
第2章 海外姉妹都市交流「派遣事業」について	5
韓国・昌原市コース	8
派遣生紹介・滞在スケジュール		
ダイアリー		
派遣生レポート		
フランス・シャンティイ城／ベルギー・シャルルロア市コース	16
派遣生紹介・滞在スケジュール		
ダイアリー		
派遣生レポート		
中国・太原市コース	23
派遣生紹介・滞在スケジュール		
ダイアリー		
派遣生レポート		
オーストラリア・アデレード市コース	32
派遣生紹介・滞在スケジュール		
ダイアリー		
派遣生レポート		
アメリカ・フェニックス市コース	40
派遣生紹介・滞在スケジュール		
ダイアリー		
派遣生レポート		
プログラムを越えた交流	47
姫路市交換学生OB会の活動／派遣生OBからのメッセージ	48
第3章 海外姉妹都市交流「受入事業」について	50
アメリカ・フェニックス市コース	51
中国・太原市コース	55
オーストラリア・アデレード市コース	63
プログラム講師からのメッセージ（1）	69
韓国・昌原市コース	70
プログラム講師からのメッセージ（2）	75
ホストファミリー報告会およびアンケート	76
新聞に掲載されました	78

ごあいさつ

公益財団法人姫路市文化国際交流財団は、文化国際都市姫路を構築するため、市民の文化活動事業の振興と地域ぐるみの国際交流事業を推進し、魅力ある地域文化の創造と国際社会の発展に寄与することを目的としています。財団の主な事業の一つであるこの青少年相互派遣事業は、次代の国際交流の担い手を育てるものとして、昭和 55 年(1980 年)にフェニックス市へ 10 名の高校生を派遣したことから始まります。

今年度は、5 都市・1 城に 32 名の中高生を派遣しました。生徒たちはみな、それぞれ貴重な体験をし、一回り成長して帰国しました。11 月に開催した報告会「広げよう可能性！近づけよう姫路と世界！」では、それぞれのコースごとに工夫を凝らした発表を行いました。事前研修、派遣、事後研修、報告会などを通じて多くの友情を育み、自身の可能性を広げた生徒たちの達成感に満ちた笑顔が輝いて見えました。

親善大使として活躍した生徒たちが、自身が体験したことをもとに視野を広げ、積極的に行動し、姫路と世界をつなぐ国際的な舞台で活躍する人材に育っていくことを期待しています。

また、合わせて 27 名の生徒が姉妹都市から来姫し、姫路でのホームステイを体験しました。生徒たちを温かくお迎えいただいたホストファミリーの方々や、この事業のためにご尽力いただいた関係者の皆様のおかげで、日本で過ごした時間は彼らの一生の財産となることでしょう。

他方、派遣生 OB からなる「姫路市交換学生 OB 会」は、派遣説明会や報告会でのボランティア、また来姫学生のための交流会開催などを通じて、今年度も青少年交流事業を力強くサポートしてくださいました。この事業をきっかけに始まった姉妹都市との交流や世代を超えた交流が、広く深く続していくことを願っております。

事業の実施にあたって、ご理解、ご助力くださった保護者の方々をはじめ、関係者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、未来の姫路市の担い手である生徒たちのために、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願ひ申し上げます。

公益財団法人 姫路市文化国際交流財団
理事長 三宅知行

現在、姫路市には海外に 6 つの姉妹都市と 2019 年 10 月に新たに姉妹城提携した英国・北ウェールズのコンウェイ城を含め 2 つの姉妹城があります。青少年海外姉妹都市交流は、1980 年、フェニックス市に 10 名の高校生を派遣してから 40 年にわたり、徐々に交流の輪を広げてきました。これまでに姫路市から姉妹都市に派遣された中高生は 1,385 名、姉妹都市から姫路市を訪れた中高生は 1,066 名にのぼります。

今年は、昌原市に中学生 8 名、シャンティイ城／シャルルロア市に中学生 6 名、太原市に中高生 9 名、アデレード市に高校生 5 名、フェニックス市に高校生 4 名、計 32 名を派遣しました。また、姉妹都市からは、夏にフェニックス市より高校生 4 名、太原市より中高生 10 名、秋にアデレード市より高校生 5 名、冬に昌原市より中学生 8 名、計 27 名が姫路に滞在しました。

●青少年交流の開始時期

アメリカ・フェニックス市	1980 年
オーストラリア・アデレード市	1983 年
フランス・シャンティイ城	1990 年
中国・太原市	1991 年
ベルギー・シャルルロア市	1993 年
ブラジル・クリチーバ市	1996 年
韓国・昌原市（旧馬山市）	2000 年



フェニックス市（アメリカ）



フェニックス市はアメリカ南西部アリゾナ州の州都であり、全米第 6 位の大都市です。年間 300 日を超える快晴に恵まれ、夏には 40 度を超える日が続くことがあります。湿度は低く、日本とは対照的な気候です。市内には芸術・文化施設が多く、有名なメジャーリーグ・チーム、ダイヤモンドバックスの本拠地もあります。派遣生は、滞在中、様々なイベントに参加しながら、世界中から集まるフェニックス市の姉妹都市の高校生との交流を深め、多様な価値観に触ることができます。

アデレード市（オーストラリア）



アデレード市は南オーストラリア州の州都で、オーストラリア南部の海岸沿いに位置している、緑に囲まれた美しい町です。町の中心部には近代的なビルと 19 世紀の面影を残す建物が美しく調和しています。滞在期間中はオーストラリアの大自然に触れたり、ホストの生徒と一緒に現地の学校に通ったりします。姉妹都市の学校生活を体験できるのが大きな特徴です。オーストラリアの人々の温かさ、陽気さに触れ、大自然に囲まれた生活や文化を存分に楽しむことができます。

シャンティイ城（フランス）



シャンティイ市は、パリの北東約 40 キロ、車で約 1 時間の森に囲まれた自然豊かな小さな町です。町の中心には市のシンボルともいえる、名城の誉れ高いシャンティイ城があります。ルネッサンス期の壮麗な建築様式で、広大な敷地と周囲を取り囲むシリヴィー池があります。城内にはボッティチエリやラファエロの絵画を含む膨大な数の美術品を持つコンデ美術館があり、中世そのままの生活空間が残されているため、一歩足を踏み入れると、まるでおとぎの国に迷い込んだような気分になります。

太原市（中国）



太原は山西省の省都で、北京から南西へ約 500km、飛行機で約 1 時間の所にあります。石炭・製鉄・機械・電力・化学等が発展した重化学工業都市であるとともに、農業も盛んです。高い建物を両脇に従えた大通りは人と車でいっぱい、大都市の活気を感じる一方、郊外に出ると自然の中にたたずむ寺院に心がなごみます。滞在中は、中国が誇る歴史文化財を訪れ、現地の生徒と交流を深めることができます。また日々の生活のなかで豊かな食文化にも触れることができます。どこへ行っても歓迎され、人々の大らかさと温かさが伝わります。

シャルルロア市（ベルギー）



シャルルロア市は、ベルギーの首都ブリュッセルの南 60km に位置しています。市庁舎前の噴水広場を中心に町が開け、一歩郊外へ出ると美しい大自然が広がります。市庁舎の脇の鐘楼は世界遺産に登録された鐘楼群の一つです。また、街のあちこちでベルギー漫画のキャラクター像を見ることができます。滞在中は、市庁舎内の見学や、お菓子作りなどを行います。フランス語が主言語で、派遣生は事前研修で覚えたフランス語や英語を使いながらホストファミリーと交流します。

クリチーバ市（ブラジル）



クリチーバ市は、ブラジル南部の巴拉ナ州の州都です。『微笑の街』という異名を持ち、優雅な雰囲気に満ちたブラジル有数の教育文化都市です。画期的な緑化やごみ処理により、良好な自然環境が保たれ、世界でも都市計画の進んだ街として知られています。また、画期的な緑化やごみ処理により、良好な自然環境が保たれています。平成 24 年より青少年交流は休止しています。

チャンウオン 昌原市（韓国）



姫路から一番近い姉妹都市、昌原市。2010 年 7 月に隣接する 2 市（馬山市、鎮海市）と国内初の行政合併を実施し、東南広域経済圏第一の成長拠点としてさらなる発展が期待されています。派遣生は、滞在中に韓国の伝統文化を体験し、韓国料理を味わい、K-POP ダンスやハングルアートなど新しい文化にも触れます。ホスト生徒とは、覚えたての韓国語や英語、日本語で会話をしながら、言葉を超えた友情を育みます。互いの芸能、文化にも関心が高く、共通の話題で盛り上がります。

コンウェイ城（英国・ウェールズ）



コンウェイ城は英国・北ウェールズのコンウェイにあり、1287 年に、イングランド王エドワード 1 世が築いた城です。自然の防御壁となったコンウェイ川と背後は山に囲まれ、さらに旧市街は 3 キロにも及ぶ城壁と 21 塔の強固な塔に囲まれています。1986 年には「グウィネズのエドワード 1 世の城群と市壁群」として世界遺産に登録されました。

2019 年 10 月に姫路城と姉妹城提携の調印式を行いました。

第 2 章

海外姉妹都市交流「派遣事業」について

第 2 章

1. 青少年派遣事業の目的

海外姉妹都市派遣事業は、姉妹都市でのホームステイを通して異なる文化を理解し、お互いの違いを認めながら共生できる次世代を担う青少年を育成することを目的としています。

2. プログラムの流れ（2019年度の内容）

派遣プログラムを大きく分けると、派遣生の募集から選考まで、事前研修から派遣まで、事後研修から体験報告までの3つに分かれ、派遣生として選ばれてから終了するまで、約6か月のプログラムとなっています。

◆派遣生の募集から選考まで

4月14日（日）	派遣生募集説明会
4月24日（水）～30日（火・休）	願書受付（今年度から生徒が受験申込書を持参）
5月6日（月・休）	筆記試験（英語）
5月18日（土）・19日（日）	面接試験（英語・日本語）
5月下旬	派遣生決定

◆事前研修から派遣まで

6月2日（日）	手続き説明会 （旅行の手続きや派遣生の心構えについて説明） 第1回事前研修 オリエンテーション、姫路について、プレゼンテーション作成など
6月9日（日）・ 6月16日（日）	第2回・第3回事前研修 派遣国の都市・文化・マナーの研修、異文化理解ワークショップ、現地語研修、ホームステイに必要な英語の研修、調べ学習について、プレゼンテーションやパフォーマンスの準備など
6月16日（日）・ 6月30日（日）	出発前説明会 現地の様子や旅行の行程、必要な準備についての説明
7月20日（土）～ 8月12日（月）	姉妹都市へ派遣 コースごとに姉妹都市でホームステイ

※フェニックス市・シャンティイ城・シャルルロア市コースは5月26日（日）から研修を開始。

※コースによって上記以外にも集まってパフォーマンス練習を実施。

◆事後研修と体験報告

8月22日（木）	姫路市長帰国報告 24名が参加。各コースの代表が報告
8月25日（日）	第1回事後研修 課題提出、事後研修・報告会についての説明、報告会資料作成
9月16日（祝）～ 10月14日（祝）	第2・3回事後研修 報告会発表資料作成
10月20日（日）	発表・意見交換会

10月27日（日）	ひめじ国際交流フェスティバルにて体験報告 各コース代表がスピーチ形式で体験発表
11月3日（日）	派遣報告会リハーサル
11月4日（月・休）	派遣報告会「広げよう可能性！近づけよう姫路と世界！」 イーグレひめじ3階あいめっせホールで一般市民向けの報告会を実施 ※海外姉妹都市交流写真展同時開催（10月23日～11月5日）

3. 派遣生選考について

選考試験は、英語力を客観的に判断するための筆記試験（リスニングを含む）と英語と日本語による面接試験（英語のスピーチを含む）を行い、総合的に選考しました。

4. 事前研修について

オリエンテーションで、姫路市の青少年親善大使として、姉妹都市に派遣される時の心構えを学んだ後、現地の生活に適応できる能力の育成を目指し、右の3つのテーマについて研修を実施しました。

(1) 異文化理解ワークショップ

日本の多くの中高生がホームステイ中に抱えそうな問題をケーススタディとして取り上げ、それを自分の身に置き換えて考えることで、問題解決能力を養うことを目的に実施しました。

(2) 姫路の紹介

姉妹都市に派遣される中高生には、姫路市の親善大使として、姫路をPRする役割もあります。この研修では、日本や地域の基本的な情報と、紹介の仕方や派遣生としての心構えなどを学びました。姫路について知り、それを積極的に発信していくことで、ホストファミリーとのコミュニケーションの手段を増やすことにもつながりました。



(3) ホームステイ英語

どの姉妹都市においてもコミュニケーションの手段となるのは主に英語であるため、ホームステイで必要な英語のフレーズやコミュニケーションの取り方、自己紹介の仕方、さらに病気などの緊急時に備え、体調や健康状態についての表現などを学びました。



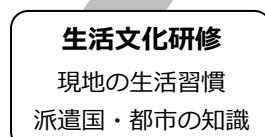
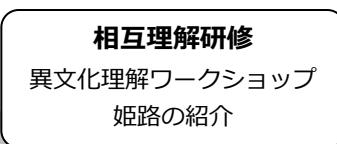
(4) 現地語研修

姫路市の姉妹都市は英語圏以外にもあります。韓国、中国、フランス、ベルギーについては、現地で役に立つ簡単な挨拶や感謝の言葉、依頼表現、質問の仕方、体調を伝える表現などを学びました。



(5) 現地生活習慣及び派遣国・都市の知識

派遣生は姉妹都市滞在中、様々なプログラムに参加し各都市の文化や歴史などに触れます。そのため、事前に各国の文化や都市の歴史、町の雰囲気や礼儀・マナー、人々の考え方などについて学び、現地での体験がより充実したものになるよう知識を深めました。



●事前研修プログラムの骨子●

語学研修

ホームステイ英語
現地語研修

(6) 英語プレゼンテーションの準備

フェニックス市とアデレード市に派遣される高校生は、現地で行う姫路市紹介のプレゼンテーションの準備をしました。まず、それぞれが姫路の概要や、祭り、学校、食文化などのテーマを選び、スライドと英語原稿を作成しました。その後、ネイティブの講師から英語のチェック、発音やスピーチの流れ、声の出し方など、プレゼンテーションの仕方についての指導を受けました。

5. 派遣

次ページより各コースの滞在スケジュールや個人レポートを掲載しています。

6. 事後研修と体験報告について

派遣生は、姉妹都市での体験や感想を帰国後の事後研修でまとめ、その成果を市民に報告します。帰国後の8月22日に24名の派遣生が市長を表敬訪問し、親善大使としての務めを果たしたことを報告しました。派遣都市滞在中のホームステイ体験



や現地での様子は各自の滞在日誌を基に作成し、財団ホームページ (<http://www.himeji-iec.or.jp>) に掲載しています。また、各コース代表による国際交流フェスティバルでの発表、ラジオ出演（9月16日、23日）など、様々な方法で広く市民の皆さんに報告を行いました。

7. 海外姉妹都市派遣報告会「広げよう可能性！近づけよう姫路と世界！」

11月4日（月・休）にイーグレひめじ3階あいめっせホールで、海外姉妹都市派遣報告会を開催しました。派遣生は、それぞれが興味を持って調べたことなどをまとめ、壇上で発表しました。来場者にクイズに



挑戦してもらったり、現地のじゃんけんを紹介して皆さんにも一緒にしてもらったりと、コースごとに工夫を凝らした発表で、来場者からは「貴重な経験をしたことが伝わってきて面白かった」「現地の様子がよく分かり、行ってみたくなった」「この経験を活かし、今後も頑張ってほしい」などのコメントが寄せられました。

また、10月23日から11月5日までイーグレひめじ1階で開催した海外姉妹都市交流写真展では、多くの方が足を止めて興味深く見入っておられました。

8. 派遣事業のまとめ

今年度は全5コース32名を派遣しました。今年は、シャンティイ城と姉妹城締結30周年の記念すべき年で、テロの影響による休止後、昨年再開したシャンティイ市への派遣を継続することができたことは、大変意義深いことでした。また、派遣時期は日韓関係があまり良好ではない時期でしたが、韓国・昌原市への派遣生は現地で歓待を受け、交流を楽しんで帰国しました。

「テレビや新聞などで報道されているニュースだけでは事実はわからない」、「自分の目で見、聞くことが大切だと感じた」など、生徒が派遣中にそれぞれ現地で感じたことです。それまで持っていた偏見や概念を覆す経験や体験ができたことを聞き、このプログラムの意義を改めて考えさせられました。

また、派遣中には予期せぬできごとに困惑する場面もありました。捉え方を変えて文化の違いを楽しんだり、周りに相談したり、自らが解決に向けて行動を起こすことで成長につながりました。これからも国際交流に興味を持ち続け、今回の経験を活かして将来に役立ててくれることでしょう。

最後に、プログラムの運営に際し、保護者、学校関係者、講師の先生方、「姫路市交換学生OB会」の皆さんなど、多くの方々に支えられていることに心から感謝申し上げます。

韓国・昌原市コース

昌原市派遣生

	学校名	学年
青木 乃杏	姫路市立安室中学校	2
●岸下 樹	姫路市立飾磨東中学校	3
木下 莉緒	姫路市立夢前中学校	2
小原 里奈子	賢明女子学院中学校	3
田村 凜	賢明女子学院中学校	3
中村 藍子	姫路市立白鷺小中学校	8
山下 純	姫路市立網干中学校	2
○弓岡 加奈	賢明女子学院中学校	3
引率者（公財）姫路市文化国際交流財団 長嶋 瑞奈		

(○:リーダー／●:サブリーダー)



滞在スケジュール

7月23日(火)～7月29日(月)

日時	内容
7月23日	関西国際空港発、昌原市へ ホストファミリー対面式
7月24日	市長表敬訪問、書道体験
7月25日	鎮海海洋公園、自転車センター見学
7月26日	スカイウォーク、伝統衣装体験、 歓送会
7月27日	ホストファミリーと過ごす
7月28日	ホストファミリーと過ごす
7月29日	釜山空港発 関西国際空港着

7月23日（火）

いよいよ今日から韓国です！昼過ぎに釜山に着きました。空港から出て、まず最初に思ったのが「暑い！」です。派遣生みんなが驚くくらい暑かったです。

昼食を食べ、いよいよ対面式！韓国に行く前からメールでやり取りをしていましたが、初めて会うのすごく緊張しました。ペアごとに名前を呼ばれて、前に出てハグをしました。その時に、ホストシスターから“Welcome to Changwon！”と書かれた手作りのボードをもらいました。すごくうれしかったです。そして、パフォーマンスを披露しました。緊張したけれど、ホストファミリーの皆さんのが手拍子をしてくれたので、とても楽しく終えることができました。これから1週間、ホストシスターと派遣生のみんなと頑張ります！



7月24日（水）

初めて韓国の家庭に泊まった翌日の朝食は、韓国風海苔巻きのキンパとスイカでした。事前にホストマザーから辛いものは大丈夫かと尋ねられ、“No”と答えていたので辛くない朝食を用意してくれました。

午前中はTシャツとトートバッグにハングル文字のデザインをし、午後は作ったばかりの世界に1つだけのTシャツを着て昌原市長に挨拶に行きました。アメリカとベトナムからの派遣生も来ていて、昌原市がいろんな国と姉妹都市交流をしていることを実感しました。



その後、ホストシスターとその友達と一緒に夕食に出かけました。「何が好き？」と聞かれ、トップキを食べに行きました。そのお店はバイキング形式で、カルボナーラ味やみそ味など5種類くらいあり、辛くないトップキを初めて食べました。とてもおいしかったです。中学生だけで出かけたので一気に仲良くなりました。

7月25日（木）午前

午前中は、バスに乗って鎮海（ちね）海洋公園へ行きました。鎮海海洋公園の展望台は地上120メートルの所にあり、床がガラス張りで透明だったので怖くて足が震えました。天気はあいにくの曇りでしたが、海の景色がとても綺麗でした。



その後、歩いて水族館へ行きました。ドクターフィッシュの体験や魚の餌やりをしました。魚の餌やりは、手のひらに餌を置いてゆっくり水の中で手を開きました。どちらも口でつつかれる感覚が気持ち良かったし、とても楽しかったです。

次に工芸体験で棚を作りました。ホストシスターが釘を打つ時に押さえてくれて、お互い協力しながら作ることができました。昨日よりもっと仲良くなれたと思いました。

工芸体験が終わり、ヌビザセンターに行きました。ヌビザとは姫路の姫チャリのような自転車のシェアシステムです。ヌビザセンターにはたくさんの種類の自転車が置いてありました。日本はないような自転車もあり、ほとんど全てに乗りました。みんなで一緒に乗って、笑いが止まらないくらいとても楽しかったです。



家では、私が持て行った日本のお菓子を食べました。舌の色が変わるガムを食べて、たくさん話しました。その後、バドミントンをしました。最初は普通に打って遊んでいましたが、ホストファーザーが勝負をしようと言ったので試合をして、私は決勝まで勝ち進み、チャンピオンになりました。家に戻って私が食べたかったチキンとチーズボールを食べました。ホストファミリーとすごく仲良くなることができました。

7月
26日
(金)

今日はバスで、スカイウォークという床がガラス張りの橋に行きました。橋からの眺めはとてもきれいでいた。昼食は辛いしゃぶしゃぶでしたが、ライスペーパーを巻いて食べると辛さが和らぎ、とてもおいしかったです。

午後からは、楽しみにしていた韓国の民族衣装「チマチョゴリ」の着付け体験でした。いろいろな色があり、レースや刺繡が施されていました。生地は少し分厚かったですが、日本の着物とは違い、苦しくなかったです。チマチョゴリを着たまま移動するのは難しかったですが、韓国の伝統的な家、建築様式を見て回りました。男女で建物が区分されていたと聞き、驚きました。

夜は歓送会を開いていただきました。ホストシスターたちや派遣生みんなと囲んだ夕食はおいしかったです。

7月
27日
(土)

今日は釜山に連れて行ってもらいました。釜山は私の好きなアイドルの出身地でもあり、屋台の食べ物がおいしいと友達に聞いていたので、行くのを楽しみにしていました。ロッテ百貨店に行き、BT21 ショップでグッズをたくさん買いました。その後、コスメのお店に行き、母へのお土産を買いました。日が暮れてくる頃、屋台でスンデという韓国のおでんを食べました。脱出ゲームもしたのですが、難しかったです。ヒントは韓国語の長い文でしたが、1問自分で解くことができ、とても嬉しかったです。ホストシスターとは、英語でも話して頑張りました。

最後に日本でいうプリクラを撮りました。韓国のプリクラは加工なしで日本とは違う楽しみ方があり、可愛く変装できるように被り物を無料で借りることができます。変装ができ、楽しかったです。充実した1日で、時間が過ぎるのが一瞬に感じました。

7月
28日
(日)

今日は、昌原から車で1時間くらいの慶州にある「慶州ワールド」という遊園地に行きました。思っていた以上に広くて、ジェットコースターやお化け屋敷などのアトラクションや、レストラン、お土産屋さんなど、たくさんのお店がありました。お化け屋敷の中のお化けは、全て機械だったので、あまり怖くありませんでした。

夜にはK-POPのコンサートがありました。たくさんの人が来歩いて、立ち見の人も多かったです。今日は長かったようでとても短かったです。ホストファミリーと一緒に過ごせる時間が終わってしまうのは、とても悲しいです。

7月
29日
(月)

今日は最後の日です。荷物を整理した後、ホストファミリーと最後の買い物をして、昼食を食べに行きました。その後、昌原市庁に集合し、ホストファミリーとお別れをしました。空港までのバスはみんなホストシスターと1週間の思い出話などを盛り上がっていましたが、空港に着いてホストシスターとハグをした時、もうお別れなどと実感しました。みんな涙を流して、手荷物検査の入口を通った後もずっと手を振っていました。飛行機の中では、他の派遣生と思い出話をしたり、写真を見せ合ったりしました。姫路駅に着くと家族が迎えに来ていて、とても安心しました。とても充実した1週間でした。



昌原市引率者感想 長嶋 璃奈

はじめは人前に出るのが恥ずかしいと話していた派遣生たちが、このプログラムを通して、目に見えて積極的になっていった姿がとても印象に残っています。滞在中、日に日に日本人同士ではなく、ペアの昌原市の生徒と話す時間が増え、帰国日に行った面談では、1時間半で全員の面談が終えられなかったほど、ペアの生徒との楽しかった思い出を話してくれました。事前研修では「他の誰かがしてくれるだろう」といった様子が見られたこともありましたが、滞在中や帰国後の事後研修などでは、率先して物事を担当してくれるようになり、派遣生たちの変化を実感しました。

今年は日韓関係がメディアで頻繁に取りざたされる中での派遣でしたが、派遣生たちはそれを全く感じさせないほどにペアの生徒と良好な関係を築いていました。このような時期に派遣されたからこそ、携わる人すべてが青少年交流の意義をより実感できたことでしょう。派遣生たちは自分たちが担った役割に自信を持って、将来につなげてほしいと思います。



昌原市長と



コンウェイ城（英国・ウェールズ）と姉妹城提携



10月29日に姫路城西の丸広場において、姫路城とコンウェイ城の姉妹城提携締結書調印式が行われ、コンウェイ市のゴロニー・エドワード市長と姫路市の清元秀泰市長が姉妹城提携の締結書に調印しました。この姉妹城提携は、平成29年7月に（公財）兵庫県国際交流協会を通じて、同じ世界遺産というつながりから、姫路城とコンウェイ城との姉妹城提携を念頭に相互交流を行いたいと、英国ウェールズ政府日本代表の方から提案されたことがきっかけとなり実現しました。

コンウェイ城は、英国のウェールズ北部にある世界遺産で、13世紀に築かれ、英国にある城塞の中でも保存状態が良いことで知られています。また、「天空の城ラピュタ」に登場する要塞のモデルになったとも言われています。

11月には、清元市長を団長とする公式訪問団がコンウェイ城のあるコンウェイ市を訪ね、さらに友好を深めました。今後、観光をはじめ、教育、文化、芸術、産業など、さまざまな分野での2城間の相互交流が期待されています。

韓国の姉妹

姫路市立安室中学校 2年生 青木乃杏

私はK-POPなど韓国文化に興味を持っていたので、昌原市への派遣が決まり、とても楽しみに出発しました。

同じ年のホストシスターのスンヒとは事前に連絡先を交換し、カカオトークというアプリでやり取りをしていたので、韓国語は話せませんが何の心配もありませんでした。初めて会った時も、事前に写真を見ていたこともあり、緊張せずにすぐに仲良くなりました。

「귀엽다 キヨッタ（かわいい）」と「かわいい」はいつも2人で使っていた言葉です。同年代の韓国人の生活は、私が日本の友達と放課後に遊ぶのと変わりなかったことに驚きました。

距離が近い分、生活も似ているのかと思ったのですが、食事をする時に食器を持ち上げるのが韓国のマナーで、日本と逆でした。また、トイレとお風呂と洗面所が全て一箇所にあったので、トイレに行こうとしても誰かがシャワーを使っていると入れなかったり、湯船がないところは日本と違い、似ているようで違う文化を感じました。

楽しみにしていたプログラムでは、伝統衣装のチマチョゴリを着ました。チマチョゴリは日本の着物と同じようなもので結婚式などの時に着るそうです。私たちが成人式で振袖を着るのと似ていると思いました。女性用の上着は短く、下は袴と似ているのかと思っていましたがスカートみたいで洋服のようでした。

今回の体験を通し、私は姫路市の親善大使として、旅行では経験できない韓国の生活などを学び、その国に合わせて柔軟に対応することの大切さを学びました。この経験を生かし、何事にもチャレンジしていきたいです。携わってくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、学んだことを次に広めたいと思います。

タシ カゴシプタ

다시 가고싶다. (また行きたい)

姫路市立飾磨東中学校 3年生 岸下樹

私は、K-POPや韓国という国が好きで韓国語を勉強していたので、韓国への青少年派遣があるということを知ったとき、とても興味がわきました。ホストシスターが決まった時はすぐにメールを送り、カカオトークのIDを交換して対面式の日まで毎日連絡を取り合っていました。実際に初めて会ったときは、私もホストシスターのヒョンソもすごく緊張していました。ヒョンソが、事前に食べたい物や嫌いな食べ物、韓国でしたいことなど、たくさんのアンケートを用意してくれたので困ることはませんでした。1週間、日本語、韓国語、翻訳機を使い、夜遅くまでたくさんのこと語り合い、すごく仲良くなることができました。ヒョンソも日本語を勉強し、お互いに言語の面や生活面で大きく成長できたと思います。

ホストファミリーは本当に優しく、「またいつでもおいで」と言ってくれました。最終日、ホストマザーとは昼食を食べてから少し早くお別れをして、その時に「もう帰るのか」と実感し、とても悲しくなりました。空港までのバスの中でも、ヒョンソとももうすぐお別れだと思うと涙が出そうで、空港でのお別れは本当にみんな涙でいっぱいでした。

テレビや新聞では日韓問題がたくさん取り上げられていますが、実際にはホストファミリーはもちろん、お店の人人が日本語で話しかけてくれたり、韓国の人人はすごく温かかったです。また、私はこの派遣を通して自分の意見をはっきり伝える大切さを学びました。そして昌原市長表敬訪問では、姫路市からの派遣生の代表として話す機会をいただき、今まででは人前で話すことが苦手でしたが、少し克服できました。



宝物になった 1 週間

姫路市立夢前中学校 2年生 木下莉緒

私はこの海外姉妹都市派遣に参加し、実際に韓国の家庭でホームステイをすることにより日本では経験できない「本当の韓国」を知ることができたと思います。

1つ目は、家族の絆の強さです。プログラムでホストシスターと一緒にさまざまな場所を訪問しましたが、プログラムが終わって家に帰るときには、家族全員が迎えに来てくれました。そして家に帰るとみんなで食事をし、その日のできごとをたくさん話しました。ホストシスターも普段から家族とよく話をしているみたいで、みんな仲がいいのだと感じました。また、夜遅くからでもホストファミリーの親戚やホストシスターの友達が来て一緒に話をするなど、すぐにみんなが集まっていました。

2つ目は、韓国人はみんな友好的であることです。道に迷った時には、誰に話しかけてもすぐに道を教えてくれました。行く前は、日本と韓国の関係が良くないというニュースを見て不安に思うこともありました。実際にやってみると日本を批判するような看板や雰囲気は見られませんでした。日本人と分かっていても優しくしてくれる方々も多く、日本人の私を受け入れてくれたことがとてもうれしかったです。また、街中にいる多くの韓国人が、韓国語が上手に話せない私には英語で話をしてくれました。少しでもわかるようにと、一生懸命教えてくれました。

私は派遣生となり、国際交流でしか得られない人の温かさを感じることができました。言語や文化の違いはあっても、笑顔で接することが大切だと私は考えます。今回は1週間だけでしたが、もっともっと韓国について知りたいと思うようになりました。私がもっと深く学びたい、知りたいと思うようになったのも、温かく笑顔で迎え入れてくれたホストファミリーと姫路市文化国際交流財団の皆さんのおかげです。心から感謝します。本当にありがとうございました。



最高の出会い・最高の思い出！

賢明女子学院中学校 3年生 小原里奈子

海外姉妹都市派遣生として昌原市へ行くことができて本当に嬉かったです。事前研修で韓国について学びましたが、初めてのホームステイだったので期待と不安が入り混じる中、日本を出国しました。しかし、対面式ではホストシスターのイエムンが会ってすぐハグをしてくれたり、フレンドリーに話してくれたので不安が一気に飛びました。イエムンは日本語が上手だったので、滞在中は簡単な韓国語の単語以外は日本語で話していました。ホストファミリーとの会話も、ほとんどイエムンが通訳してくれました。しかし、韓国語を教えてもらったり、反対に関西弁を教えてあげたりして、行く前より韓国語を話せるようになったと思います。

この1週間で素晴らしい体験をできたのは、ホストファミリーや引率者、一緒に行ったメンバー、家族の支えがあったからこそだと思います。私の大好きなホストファミリーは、常に「ケンチャナ（大丈夫）？」と気にかけてくれたり、カタコトの韓国語も一生懸命聞いてくれたり、とても優しくて感謝の気持ちでいっぱいです。空港へ向かうバスに乗る前、オンマ（お母さん）、アップ（お父さん）とは最後のお別れだったので、みんなで写真を撮ったりハグしているときに「里奈子は家族だからいつでも帰ってきてね」と言ってくれて涙が止まりませんでした。

この派遣を通して、笑顔は万国共通だということ、言葉が分からないからという理由で自分の意見を言わずに臆病になってしまいけないこと、伝えたいことはカタコトの言葉やジェスチャーなどを使ってでも一生懸命伝えることが大切だということを学びました。



成長した 1 週間

賢明女子学院中学校 3年生 田村凜

韓国に派遣される前、韓国語は全然できないし、英語も得意ではないし、日韓関係あまり良くないときで、1週間やっていけるかとても不安でした。

しかし、実際に韓国へ行ってみると、ホストファミリーは韓国語とその意味を教えてくれたり、分からなかつたら通訳アプリを使って教えてくれたり、とても親切でした。店の人やホストファミリーの知り合いの人達は、私が日本人と知っても笑顔で話しかけてきてくれて安心しました。

私はとても人見知りなので、ホストシスターとの対面式の時はとても緊張していました。しかし、ちょうど正面に座っていたホストシスターのチェウンとお父さん、お母さんが笑顔で手を振ってくれていたので、緊張が解け、解散した後からすぐに打ち解けて韓国の制服やアイドルの話などをたくさんしました。

私はこのプログラムを通して、日本と韓國のお風呂の違いや、普段食べるものの違いなどを知ることができました。そして、たとえ言葉が通じなくても笑顔でいると乗り越えられるということを学びました。

韓国で過ごした1週間は、毎日韓国のこと学べるプログラムばかりでとても楽しく、充実していました。最初はハングルばかりの生活で違和感があったけど、時間が経つにつれて慣れていき、最終日には韓国、ホストファミリーと離れるのがとても悲しくなるぐらいでした。

私は、今回経験したこと将来的自分への自信にしようと思いました。このプログラムに携わってくださった人達には本当に感謝しています。そして、チェウンが日本に来るまでに韓国語の勉強をして、日本で安心して過ごせるようにしてあげたいです。



韓国で学んだこと

姫路市立白鷺小中学校 8年生 中村藍子

私が韓国での生活で特に日本と違うなと感じたことは、道路を走っている車やバスのスピードです。なぜなら、日本で走っている車やバスのスピードよりもとても速くて、バスも車と同じスピードで走っていたからです。バスのドアが閉まるのも速くてとても驚きました。

私が一番韓国で驚いたことは、日本のお菓子やゼリーがとても人気があることです。ホストファミリーへのお土産にした日本のゼリーやかりんとう、スナック菓子は、とても喜んでもらえたので、嬉しかったです。日本では辛いお菓子が人気ですが、韓国のホストファミリーの家には辛いお菓子が無く、ホストファミリーに聞いたところ、普段辛い食べ物を食べているので、お菓子などは辛くない物（ヨーグルト、フルーツなど）をよく食べているそうです。



ホストファミリーのおかげで、新しい食べ物に出会えたこと、今まで食べたことの無かったトッポキやとても辛いキムチなどの韓国料理にチャレンジしたことは、私の貴重な経験になりました。また、ホストファミリーと好きな物をたくさんおいしく頂けた楽しい時間は、最高の思い出となりました。

この経験を通して、普段知ることのできない違いを知ることができたのでとても良かったです。これからはもっと積極的に他国の文化を知りたいと思いました。また、他国の人と関わる時、相手の持つ文化を尊重し、多様性を受け入れることがこれからの国際社会で必要ではないかと思い、私はこのことをいつも心に刻んで接していくたいと思います。

韓国に行って感じたこと

姫路市立網干中学校 2年生 山下絆

この1週間、私が韓国の人と関わって感じたことは、コミュニケーションを大切にしているということです。対面式が終わった後、ホストファミリーの家に行く途中、ホストファミリーのみんなが「あなたに早く会いたかった」や「みんなあなたのことを待っていたんだよ」など、温かい言葉をかけてくれました。私は緊張していましたが、その言葉を聞いてすごく安心しました。

滞在中、ホストファミリーは主に英語でいろんな話をしてくれました。そして、その話をただ聞かせるだけでなく、「あなたはどう思う?」「何が食べたい?」など、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれて、私の言葉に耳を傾けてくれました。そのたびにいろんな反応をしてくれたので、自分の英語が伝わっているのが感じられてすごく嬉しかったし、英語を話すことが楽しいと思うようになりました。自分の英語に少し自信が持てたし、自分から話すこともできました。



韓国人と日本人とでは、人との接し方に違いがあるように感じました。日本では、初めて会う人には自分から話しかけられない、内気な人が多いと思います。でも、韓国の人々は、積極的に話しかけてくれました。日本人にも積極性が必要だと思いました。

韓国の人々は、気持ちの伝え方や感情の表現の仕方がすごく上手でした。私はそこが韓国人の良いところだと思いました。言葉が違う国で生活していて、一番安心するのは、相手の表情を見ることでした。表情を見ることによって、相手が理解してくれているのがわかりました。

1週間、韓国の人々の人の柄や、文化に触れることが出来ました。これは旅行ではできないことです。私はこれから、韓国の人々の気持ちの伝え方、感情の表現の仕方を見習い、初対面の人々や友達、日本語が分からぬ人々にも安心感を与え、楽しいと思ってもらえるようにしていきたいです。

親のありがたみ

賢明女子学院中学校 3年生 弓岡加奈

韓国には祖父が昔、仕事でよく行っていた影響もあり、幼い頃から関心がありました。韓国ドラマをはじめ、韓国の歴史にも関心があったため、このプログラムを通して韓国についてもっと知りたいと思い、参加しました。1週間親元を離れ、日本を離れ、韓国という異国之地に行くことに対して、正直、最初は大丈夫だと思っていた。韓国語も単語や短い文などは分かっていたつもりでしたが、現地では緊張してあまり使うことができず、これからもっと勉強しようという今後の目標が見つかりました。

韓国に着くと、バスで昌原市に向かいました。対面式で初めてホストファミリーと会いました。対面式を終えてホストファミリーの家に帰り、その後、夕食を食べに行き、私はちゃんぽんを頼みました。想像とは違い、真っ赤ないいにも辛そうなちゃんぽんが来たのでびっくりしました。



2日目から本格的に昌原市のプログラムに参加しました。チマチョゴリ体験や書道体験など、さまざまな貴重な体験をしました。ホストシスターがずっと一緒にいてくれて心強く、1週間を通して仲良くなれました。

自分1人では出来ないことがたくさんあり、韓国に行けたことも、毎回の食事や送り迎えなど、当たり前になってしまふことも、しっかり感謝の気持ちを持ちたいと思います。韓国に行って、親のありがたみを改めて強く感じました。自分1人では何もできないことを改めて思い知り、私ができることは何でも手伝おうと思いました。このプログラムに参加できたのはたくさんの方の支えあってのことなので、感謝しています。

フランス・シャンティイ城／ベルギー・シャルルロア市コース

シャンティイ城／シャルルロア市派遣生

	学校名	学年
●池田 菜乃	姫路市立城乾中学校	1
○岩見 采奈	姫路市立東光中学校	2
尾崎 未菜	姫路市立増位中学校	3
小松 ゆう	姫路市立琴陵中学校	2
中塚 彩葉	賢明女子学院中学校	3
濱田 かのん	兵庫県立大学附属中学校	2
引率者（公財）姫路市文化国際交流財団 森脇 好香		

(○:リーダー／●:サブリーダー)



滞在スケジュール

7月20日（土）～7月29日（月）

日時	内容
7月20日	関西国際空港発、シャンティイ市へ
7月21日	シャンティイ城見学 馬の博物館見学
7月22日	副市長表敬訪問、シャルルロア市へ
7月23日	ホストファミリーと過ごす
7月24日	Tシャツ作り、マカロン作り体験
7月25日	市内観光、ガラスワークショップ、 マドレーヌの行進見学
7月26日	落書きワークショップ
7月27日	ホストファミリーと過ごす お別れパーティー
7月28日	パリ国際空港発
7月29日	関西国際空港着

7月
20日
(土)

ようやく私たちが待ち焦がれていた旅立ちの日がやってきました。11時間も飛行機に乗り、フランスのパリに着きました。ずっと前から憧っていたフランス！空港からシャンティイ市に行くまでの車窓は、一面に広がる田園風景で、美しい景色でした。

ホストファミリーと合流した後、みんなで夕食を食べました。少し前に機内食を食べていたのでお腹がいっぱいでしたが、珍しい料理がたくさんあり、みんなチャレンジしていました。その後は、それぞれのホストファミリーの家に行きました。フランスは夜の10時頃まで明るいのでびっくりしました。家に帰ったのは夜遅くで、深夜2時くらいに寝ました。明日はどんな日になるのかな？



7月
21日
(日)

シャンティイ城と馬の博物館の見学をしました。お城はとても大きく美しく、感動しました。室内の装飾には金が多く使われていて、豪華で綺麗でした。中には美術館や図書館がありました。美術館に飾られている絵は有名画家の作品も多く、見応えがありました。部屋一面にたくさんの絵が飾られていて迫力がありました。どの部屋も雰囲気が違い、見学はとても楽しかったです。お姫様になったみたいでした。図書館は古い本がたくさん並んでいて映画の世界にいるようでした。

馬の博物館や馬のショーはとても立派に見えました。馬たちはすごく可愛かったです。

良い天気で青空が広がり、とても楽しく素晴らしい1日になりました。



7月
22日
(月)

シャンティイ市の副市長に挨拶に行きました。緊張しましたが、優しくしてくださり、安心してお話を聞くことができました。そしてフランスでの最後の食事をして、バスで約4時間かけてベルギーに行きました。

ベルギーに着き、ホストファミリーと夕食を食べました。庭のグリルで焼いたウインナーにサラダやトマト、チーズ、ジャガイモを食べました。ジャガイモを丸ごと1個食べることが無かったので、出てきたときはびっくりしました。庭で食べると、蜂が来て少しパニックになりましたが、ホストファミリーが日本についての質問やベルギーの文化などたくさんお話ししてくれて、とても楽しい夕食になりました。



7月
23日
(火)

とても暑い日だったので、昼食にそうめんを作りました。するとホストマザーが、「こんなに簡単に作れて、冷たくておいしい食べ物があるなんて、日本はすごいね。日本のお母さんは料理が簡単になっていいね」と、すごくほめてくれました。そうめんを食べた後、ブリュッセルに向かいました。

ブリュッセルでは、ベルギー発祥のチョコレート屋に行ったり、Quick と言うファーストフード店で夕食を食べたり、小便小僧を見に行ったりしました。チョコレート屋には、キャンディーも売っていました。小便小僧は、思ったより小さかったです。ホストマザーが、「みんな、実物を見るまでは、大きい像だと思っているよ」と言っていました。



7月
24日
(水)

派遣生とホストファミリーでTシャツとマカロンを作りに行きました。

Tシャツはたくさんのデザインの中から自分の好きなものを選び、自分に合ったサイズを選んで作りました。首の部分がVになっているものと、Uになっているものがあり、私はUの方にしました。出来上がったTシャツは、それぞれみんなの個性が出ていてとても可愛かったです。

昼食はQuickで食べました。どのハンバーガーも、日本のものよりひと回り大きく、食べても食べても減りませんでした。

午後は、みんなでマカロンを作りに行きました。日本では、マカロンの中にクリームのようなものが入っていますが、ベルギーでは中にトロトロのソースが入っていて、とても印象的でした。

7月
25日
(木)

午前中に、シャルルロア市の観光をしました。いろんなところを散策し、楽しかったです。一番印象に残ったものは、大きな教会です。教会の中はとても静かでひんやりとしていて、まるで別世界に迷い込んだようでした。天井がとても高く、エコーがかかっているかのように話し声が響いていました。荘厳な雰囲気が印象的でした。

午後はガラス作りの見学をしました。初めにガラス作品を見た後、実際にガラスでビーズのようなものを作ることを見ました。その後、ガラスのコップに花柄の模様を削りました。ドリルがガラスの上ではよく滑るので、とても難しかったです。

夜は、みんなでマドレーヌのお祭りに行きました。射的をしたり、アトラクションに乗ったりしました。最後は花火を見ました。何発も打ち上がり、とても迫力がありました。

7月
26日
(金)

午前中に壁に絵を描きました。プロの人に下書きとデザインを考えてもらって、“HIMEJI”と大きく書きました。みんなで頑張って描いたので、すごく達成感がありました。周りにはドクロやいろいろなインパクトがある絵が描かれていきました。

午後からはフリータイムだったので、ホストファザーにお願いして、他の派遣生と昼食を食べました。そのあと買い物に行き、H&Mに寄りました。ベルギーではH&Mのことをフランス語読みで“ッシュエム”と言うそうです。

朝のアクティビティーで靴が汚れたけど、とても楽しい1日になりました。

7月
27日
(土)

午前中に、ホストファミリーが1時間近くかけ、大きなショッピングセンターへ連れて行ってくれました。これまで時間があまり無くて買えていなかったお土産を買うことができました。この時点でホストシスターとかなり仲良くなっていたので、2人だけでショッピングをしました。チョコレートを買いたいと言ったら、レオニダスというベルギーの中でも有名なチョコレート屋に連れて行ってくれました。姫路にはないお店なので、お土産にぴったりでした。

午後7時頃から、フェアウェルパーティーに行きました。次の日にはもうお別れだったので、最後の思い出を作るために、思う存分楽しむことができました。パーティーは12時過ぎまで5時間以上あったのですが、とても短く感じました。

ベルギーの最後の日は最高でした。



7月
28日
(日)
①

前日の夜、飛行機でよく寝られるように徹夜して荷造りをしました。

朝、ホストファミリーにフランス語で書いたお礼の手紙と折り紙を渡すと、とても喜んでくれたので書いて良かったと思いました。

バスに乗る時には、私もホストシスターも泣くのを我慢するのに必死でしたが、私が“See you again!”と言うと、とても喜んでくれて、とても嬉しかったです。バスの中ではずっと涙が止まりませんでした。絶対にまた会いに行くと約束をしたので、今度はもっとフランス語を勉強して会いに行きたいと思います。



7月
28日
(日)
②

いよいよホストファミリーとお別れです。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。思いつく限りの感謝の気持ちを伝え、空港行きのバスに乗りました。途中で休憩のためにサービスエリアに寄ったので、ワッフルやマグネットを買いました。

行きの飛行機はみんな席がバラバラでしたが、帰りは他の派遣生と隣同士で嬉しかったです。飛行機の中ではフランスとベルギーのさまざまな経験を思い出したり、他の派遣生と思い出話をしたりしました。フランスとベルギーにできた家族に会うために、また行きたいと思いました。



シャンティイ城／シャルルロア市引率者感想 森脇 好香

今年度は6名の派遣生たちとヨーロッパの2都市を訪問しました。多感な派遣生たちにとって、現地の文化や習慣を体感できた貴重な機会になったことと願っています。私も今回初めて非英語圏でホームステイをし、派遣生たちと同じ状況でした。意思疎通がスムーズにいかず、大きくて分厚い英仏蘭語辞書を交換しながら会話したことは、良い思い出です。言葉の違いは大変でしたが、温かく迎え入れてくれたホストファミリーには大変感謝しています。派遣生たちにもホストファミリーとの関係を大切にしてほしいです。

引率者として一番近くで派遣生たちと接し、滞在中の驚きや発見を共有できたことを喜しく思います。この経験が派遣生たちの価値観や固定概念に大きな刺激を与え、世界とつながりを持つ楽しさや、異文化の魅力に気づく機会になり、前途洋々たる人生に活かされることを期待しています。



シャルルロア市担当者と

初めてのホームステイ

姫路市立城乾中学校 1年生 池田菜乃

私は好き嫌いが激しいので、行く前は食事に対しての不安が大きかったです。その反面、外国の食事の方が合うかも知れないと少し期待もありました。

フランスでは老夫婦の家にお世話になりました。翌朝、早速食文化の違いを経験しました。その家庭では、布のナプキンを膝の上にかけて食事をしていましたが、私の分のナプキンを手作りで用意してくれていたので嬉しかったです。その後、フランスで何度か食事をしましたが、一番おいしくて印象に残っているのは朝食のパンです。

フランスからベルギーに移動する日、優しいフランスのホストファミリーと離れるのは寂しかったですが、ベルギーのホストファミリーも、出発前に連絡を取ったときに、私の訪問を楽しみにしていると言ってくれたので、ワクワクもしていました。

ベルギーでは、朝食は家の中で食べましたが、昼食や夕食は庭で食べました。庭は空気が綺麗で、外で取る食事はおいしく感じました。夕食後は必ずデザートがあり、私はそれがとても楽しみでした。ホストマザーはベトナム人だったので、アジア料理がよく出ました。生春巻きの作り方を教えてもらい、自分で作っていました。まさかベルギーでベトナム料理が食べられるとは思っていませんでした。これも面白い経験になりました。また、お世話になったお礼に、そうめんを作りました。ホストファミリーは喜んでくれたので嬉しかったです。

ベルギーのホストファミリーも優しく、いつも私を気遣って声をかけてくれました。また、色々な所に連れて行ってくれたので、食べ物以外の海外の楽しみも感じることができました。首都のブリュッセルは東京とは違い、古い建物に囲まれた街で、異国を感じました。

最後に、一緒に行った5人の派遣生がいたから私は寂しさや不安を紛らわすことができたし、楽しさが倍増しました。いい仲間との出会いや今回お世話になった全ての人々に感謝しています。



ベルギーでの思い出

姫路市立東光中学校 2年生 岩見采奈

私が今回の派遣で一番印象に残ったことは、ベルギーのホストファミリーとの交流です。理由は、フランスよりも滞在期間が長かったし、同じ年のホストシスターと、とても仲良くなれたからです。毎日夜遅くまで話しても、話し足りないほどでした。友情に国境はないのだと感じました。

滞在中、何度かホストシスターの友達に会う機会がありました。ホストシスターの友達は、皆とてもフレンドリーでした。日本人は初対面では自分を抑えがちですが、ベルギー人は初めから自分の性格や明るさを出すことができるので、より早く相手を理解できるということが良いと思いました。私は、これが日本とベルギーの人々の一番の違いだと思いました。

そして、ホストシスターの友達は、フランス語とは別に、英語も話しました。そのため、私はその友達全員と会話をすることができます。そこで、私は英語の重要性を痛感しました。フランスでも、ベルギーでも、現地の方々との共通語は英語でした。今まで一番、英語を勉強していく良かったと思いました。言葉が通じれば、世界中の誰とでも、より理解を深め合えると思いました。もっと語学の勉強をして、世界中のさまざまな人々との交流を通して彼らの文化を学び、より視野を広げたいと思いました。

私は今回の滞在で、大学ではフランス語の勉強をしようと思いました。そして、またホストファミリーたちに会いに行き、フランス語でコミュニケーションを取りたいです。近いうちに日本を訪れたいと言ってくれたホストシスターのために、英語で姫路を紹介できるよう、勉強を続けようと思いました。



新しい出会いと新しい夢

姫路市立増位中学校 3年生 尾崎未菜

私は小さい頃からバレエを習っていて、ヨーロッパには興味があり、行ってみたいと思っていた。実際にやってみると、おしゃれで可愛い雰囲気で、街並みやインテリアなど全てが素敵でした。そして、温かく接してくれる国でした。

私は自信をもって外国の方と交流ができるようになりたいと思い、この派遣プログラムに挑戦しました。フランスとベルギーのホストファミリーは、一緒に生活する中でそれぞれの国の文化を私にいろいろ教えてくれました。お互いの言語について話したり、伝統的な料理と一緒に作って食べたりしました。巻き寿司を作った時は、涙を流して喜んでもらえたことに私は感動しました。他にも、ゲームをしたりピクニックに行ったり映画を見たりして楽しく過ごしました。特に嬉しかったのは、ホストファミリーのおばあさんのお誕生日会に参加させてもらえたことです。親戚がたくさん集まり、パーティーをしました。私が日本から作って持つて行ったアルバムを使って、ホストマザーがみんなに私のことを紹介してくれました。言葉は通じなくても親戚の人たちと交流することができ、この日が一番の思い出になりました。

最初は言葉がうまく通じるのか不安でしたが、コミュニケーションは言語だけではなく、「伝えようとする気持ち」と「感じ取る心」が大切だと気付きました。海外で交流ができるようになったり、ずっと前向きでいられたりしたことは自分にとって大きな成長です。今回の経験で、私の見える世界を広げることができました。ホストファミリーとの交流を続けて、また会いに行くことが私の新しい夢です。



シシ
ヤヤ
ルン
ルテ
ロイ
アイ

Merci, ホストファミリー

姫路市立琴陵中学校 2年生 小松ゆう

私は学校で配られたチラシを見て、このプログラムに参加してみようと思った。応募する前は自分が試験に合格できるか、1人で10日間も海外で過ごすことができるか、とても不安でした。海外はもちろん、飛行機に乗ることも初めてでしたが、試験に受かったときには嬉しさと緊張が入り混じった気持ちでした。フランスに着いた時、飛行機から見た街の景色も、周りを歩く人々も、何もかもが違う世界でとても感動しました。

フランスでの朝食はバゲットでした。それにたくさんのジャムを付けます。私はその中でもバナナのジャムが好きで、屋外で風にあたりながらホストマザーと食べる朝食はとても気持ちが良かったです。

ベルギーではホストファミリーの家が山に囲まれていて、馬や羊、ロバが放し飼いされていました。その周りにある、アントワープやブリュッセルといった大きな街にホストシスターと一緒にきました。そこで、私は念願だったベルギーワッフルを食べました。日本のワッフルとは違って、中がとろとろで、とてもおいしかったです。みんなにおいしいワッフルは生まれて初めて食べました。

ホストシスターはフランス語も英語も日本語も話せて、私もあんなふうに話せるようになりたいと心の底から思いました。今度はフランス語も英語も、もっともっと話せるようになって会いに行きたいです。

私はこの海外姉妹都市派遣プログラムを通して、日本とは違う国の文化に触れ、フランスやベルギーの美しい街並みや建物を見ることができ、本当に貴重な体験ができたと思います。このプログラムに挑戦することを応援してくれた両親や、いろいろなことを指導してくれた財団の方々、私を快く受け入れて優しくしてくださったホストファミリーの皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

この10日間は私の一生の宝物になりました。本当にありがとうございました。



フランス、ベルギーと日本の違い

賢明女子学院中学校 3年生 中塚彩葉

私はフランス、ベルギーに行って日本と違うなと思ったことが3つあります。

1つ目は挨拶の違いです。日本では礼をしたり、「こんにちは」と言葉で挨拶を交わしますが、フランス、ベルギーでは、言葉の代わりにハグをしたり、キスをしたりします。最初は戸惑いましたが、ホストシスターが教えてくれたので、私もできるようになりました。

2つ目は食事の違いです。日本では室内で食べることが多いですが、フランス、ベルギーでは、夏は太陽が夜の9時まで沈まず、とても明るいこともあります、庭で食べることが多かったです。また飲食店に行った時には、ほとんどの店でパンが置かれています。飲み物を頼むと全て瓶で出てきて、それをグラスに注いで飲みます。飲み物は少し量が多いと感じました。どの店もとてもおいしかったです。また、日本にあるチェーン店もありました。日本と同じ名前でも日本で見るものとは少し違ったものがあり、クレープなどは日本のようにクリームなどを包んでおらず、クレープ生地にソースをかけたものでした。

3つ目は建物です。私のベルギーでのホームステイ先や、周辺の家は全て同じ形をしていました。庭の面積などもほぼ同じで、柵で隣の家の庭が見える状態でした。

他にも日本と違う部分や、反対に同じだなと思う部分もあり、どんどん気になるものが出てきました。これはその場所に行って、その国の人たちと一緒に生活をしたからこそ体験できた、味わえた感動だと思います。その感動を忘れず、何事にも好奇心を持って積極的に挑戦して将来につなげていきたいと思います。



国を越えた家族

兵庫県立大学附属中学校 2年生 濱田かのん

このプログラムに参加する前は、まさか海外に私が「家族」と呼べる人たちができるとは思っていませんでした。フランスとベルギーのどちらのホストファミリーも、とても優しく私を迎えてくれました。

ベルギーのホストシスターとは、行く前から何度もメールでやり取りしていました。お互いハリーポッターが大好きだったので、その話で意気投合し、出発がますます待ち遠しくなりました。初めてホストファミリーの家に行ったとき、ホストシスターが私の使う部屋にたくさんのハリーポッターグッズのプレゼントを用意してくれていました。とてもびっくりして嬉しかったです。

私がホストファミリーと過ごすときに心がけたことが1つあります。家の中ではできるだけ、“Hello”ではなく“Bonjour”、“Thank you”ではなく“Merci”を使うようにしたことです。ホストファミリーで英語を話すのはホストシスターだけだったので、少しでも早く家族に溶け込めるようにと、私なりに心がけました。ホストファミリーはとても仲が良く、食事の準備や後片付けを家族みんなでしていたので、私もその中に入り一緒に準備や片付けをすることで家族の一員になれた気がしました。

ホストファミリーと過ごした最後の日に、買い物に行きました。ホストシスターがハリーポッターのお店や書店に連れていってくれたので、英語のハリーポッターの本を買いました。そして念願のベルギーワッフルも食べました。本場のワッフルは、大きくて甘くて最高においしかったです。

帰国前には日本へのお土産にと、ホストファミリーがたくさんのベルギーのお菓子を持たせてくれました。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。フランスとベルギーに家族ができたので、また絶対に会いに行きたいです。

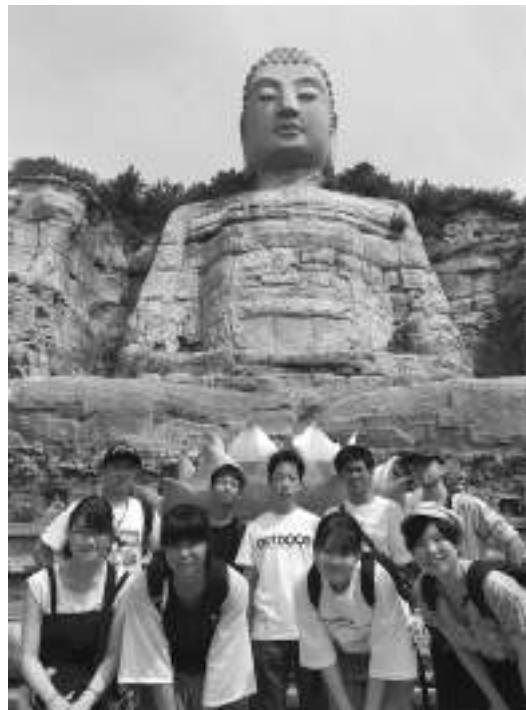


中国・太原市コース

太原市派遣生

	学校名	学年
以倉 毬子	岡山白陵中学校	3
岡井 咲樹	岡山白陵高等学校	2
●揖川 優太郎	兵庫県立福崎高等学校	1
○小林 譲士	淳心学院高等学校	1
佐野 萌々霞	兵庫県立姫路工業高等学校	3
竹田 将和	淳心学院高等学校	2
中道 七海	岡山白陵高等学校	1
西田 大連	淳心学院高等学校	1
横尾 侑眞	姫路市立安室中学校	2
引率者（公財）姫路市文化国際交流財団 前田 久美子		

(○:リーダー／●:サブリーダー)



滞在スケジュール

8月1日（木）～8月7日（水）

日時	内容
8月1日	関西国際空港発～煙台経由～太原市着 ホストファミリーと対面
8月2日	太原市外国語学校訪問、歓迎会、 学校見学、授業参加
8月3日	ホストファミリーと過ごす
8月4日	ホストファミリーと過ごす
8月5日	平遥古城、晋祠見学
8月6日	蒙山大仏、山西省博物院見学
8月7日	太原空港発～煙台経由～関西国際空港着

8月1日（木）

海外へ行くのが初めての派遣生や、中国へ行くのが初めての派遣生がいて、みんな不安と緊張を持って姫路を出発しました。まず、関西空港から乗継地の烟台空港に向かいました。今までの旅行では経験しなかった入国カードの記入など、色々なことを初めて経験しました。長いフライトを終え太原空港に着いた頃には、夜もかなり遅い時間でしたが、ホストファミリーが総出で待っていました。外に出て、ホストファミリーの車に乗るとき、振り返って空港を見ると、とても明るくて驚きました。街中も、高層ビルから橋の下まで電飾が施されていてとても綺麗でした。街の景色に圧倒されながらレストランへ向かい、そこで中国伝統の辛い鍋をみんなで食べました。とてもおいしかったです。



太原

8月2日（金）

みんなで現地の学校へ行きました。中高一貫校の上、どの学年も生徒が多いため、建物がとても大きくて驚きました。校長先生をはじめ先生方に表敬の挨拶をした後、英語の授業に参加しました。間違いを恐れずに積極的に発表する生徒が多く、感心しました。先生は終始英語を用いていたので、私にも授業の内容がわかりました。授業内容はとても充実していると思いました。また、日本語の授業では、みんなで映画「ズートピア」の主題歌「トライ・エブリシング」のダンスを披露しました。緊張して顔が引きつってしまったけれど、拍手がもらえて嬉しかったです。その後は水墨画や切り紙、中国結び作り等中国の文化を体験しました。初めての経験あまり上手くできなかっただけ楽しかったです。



8月3日（土）

今日はホストファミリーと過ごしました。午前は晋阳湖（じんやんこ）という湖で散歩をしました。湖はとても大きく、外周が8 kmほどあるそうで、歩き疲れました。

昼食は、1つの鍋の真ん中に仕切りがあり、2種のスープが楽しめる鍋料理を堪能しました。辛いスープと辛くないスープを頼んでくれたので、辛くない方のスープで、いろいろな肉や野菜をたくさん食べました。辛い方も試そうと、ほんの少し食べてみましたが、とても辛く、水を飲んでも収まらず、3分間静止していました。中国の鍋料理は辛さを除くとおいしかったです。夜は、ショッピングモールに行きました。「ユニクロ」「ピザハット」など、日本でも有名な店が並んでいました。友人や家族にお土産をたくさん買いました。



8月4日（日）

今日は、他の派遣生とそのホストブラザー、ホストシスターたちと一緒に過ごしました。午前は山西省地質博物院と山西省科学館に行きました。博物院には孔子のオブジェや墨絵、版画、書道などが展示されていました。どれも簡体字で書かれていたのですが、ホストシスターが日本語で説明してくれたので、中国や山西省について詳しく学ぶことができました。

午後は大きなショッピングモールへ行きました。日本人にもなじみの店がたくさんあり、とても親近感がわきました。また、夕食のレストランの店員さんたちは、帰るときに日本語で「さようなら」と言ってくれるなど、優しい対応をしてくれました。ホストブラザーやホストシスターは受験のために勉強しないといけないので、1日中付き合ってくれて感謝しています。



8月5日（月）午前

今日は、世界遺産の平遥古城（へいようこじょう）へ行きました。午前中は、その街並みを見学しました。移動は電動カートを使いましたが、すごく速くて、建物ぎりぎりを走るとスリル満点で、楽しかったです。昔の街並みがそのまま残っていて、まるで映画の中にいるようでした。日が照っていて、街がとても綺麗に見えました。



昼食は、平遥古城で食べました。山西省の名物の刀削麺が出てきました。すごくおいしかったです。また、店の前で刀削麺の生地を大きな鍋に削って入れるところを見ました。麺をナイフで削るスピードと、鍋に麺を削り入れる正確さに感動しました。日本にはない中国の文化を肌で実感できて、とても有意義でした。

8月5日（月）午後

午後は、太原市郊外の晋祠（しんし）を訪れました。晋祠にあるお寺は900年ほど前に建てられたそうですが、なんと釘を1本も使わずに木を組み合わせて作られたそうです。昔の人の技術はこんなにも素晴らしいのかと驚かされました。また、境内には大昔から京劇をずっとしている場所があって、歴史があるなと思いました。



その後、太原市の教育局長をはじめ、太原市役所の方々との夕食会がありました。どの料理も初めて食べるものばかりで最初は少し不安でしたが、実際に食べてみるとどれもおいしかったです。一番印象に残っているのは、ようかんのように甘い料理です。デザートではなかったので驚きました。また、太原市役所の方々は皆さんフレンドリーで、楽しい時間を過ごすことができました。

8月6日（火）午前

午前中は、日本の歴史の教科書にも載っている有名な蒙山大仏（もうざんだいぶつ）を見に行きました。蒙山大仏は山の上の方にあったので、途中まではバスで行き、残りは歩いて登りました。大仏は下から見ると、ほとんどが木に覆われていて頭の一部しか見えませんでした。そばまでいくのに、すごく長い階段を上りました。途中で休憩しながら登りましたが、結構しんどかったです。



大仏の全身を見た時、目を薄く開けているところや髪型、耳たぶは奈良の大仏に似ていると思いました。蒙山大仏は6世紀に造られたそうです。奈良の大仏ができる前の大仏の姿を見ることができて良かったです。

8月6日（火）午後

派遣生全員とそのホストブラザー、ホストシスターたちと一緒に山西省博物院に行きました。現地の中国人ガイドさんの説明を聞きながら、中国の夏、殷、西周、春秋・戦国時代の石器や土器、青銅器を見て、その時代の特色を知ることができました。



また、時代が進むにつれて、少しずつ無色の土器から黒陶、彩陶へ、それから青銅器へと進化していき、祭りなどにも使われていくようになったことも知ることができました。

さらに、中国から日本に大乗佛教が伝来していったことから、中国の仏像と日本の仏像は非常に似ていることなども、目で見て、ガイドさんの話を聞いて体感することができました。山西省博物院に行って、学校で習った世界史の授業の内容を改めて理解することができました。

8月7日（水）

まだ太陽が昇っていない静かな街並みを、ホストファミリーの車の中から眺めながら太原空港に向かいました。7日間お世話になったホストファミリーともお別れの時間です。空港まで送ってくれたホストファミリー一人一人と熱い抱擁を交わし、みんなで記念撮影をしました。出発口ぎりぎりまで見送りに来てくれたので、僕もぎりぎりまで手を振り続けました。

そこから太原空港で朝食をとりました。乗り継ぎの煙台空港で飛行機が遅れたことにより、2時間ほど足止めになりましたが、派遣生のみんなと仲良くトランプなどをしながら楽しく過ごすことができました。そして日本に到着したとき、「うわ～文字が読める～」とテンションが上がったのは内緒です。



太原市引率者感想 前田 久美子

太原市コースだけが中学生と高校生、男女混合のコースになったので、事前研修が始まったばかりの頃は、皆が一致団結できるかが一番の懸念事項でした。しかし、心配をよそに、9人の派遣生たちは、研修を重ねるごとに打ち解けていってくれました。

現地では、私も派遣生と同じように中国人家庭にホームステイすることで、メディアからだけではわからない中国人の生活を垣間見たり、彼らの優しさを感じたりすることができ、実に有意義な時間を過ごしました。引率者がそう感じたのだから、多感な中高生には本当に刺激的な1週間だったと思います。この出会いを大切にし、今後もホストファミリーと交流を続けていってくれることを願うとともに、9人がそれぞれ現地で気づいたこと学んだことを忘れずに、この経験を将来に役立ててほしいと思います。



中国で学んだこと

岡山白陵中学校 3年生 以倉毬子

私は、海外姉妹都市派遣プログラムで中国に行きました。海外へ行くのは初めてだったので、不安と期待が入り混じった気持ちでした。実際にやってみると、私の想像とは異なることが多く、数え切れないくらいの発見と驚きがあり、すごく充実した7日間を過ごすことができました。

この滞在で、心に残っていることが3つあります。まず1つ目は、街がとてもきれいだということです。市内には高層マンションや図書館などの建物が立ち並び、夜はそれらの建物がすべて鮮やかな光を放ち、とてもきれいでした。また、車や人の数がすごく多かったですが、道路では清掃車が掃除をしていて、ゴミは落ちていませんでした。



2つ目は、街の雰囲気がとても明るいということです。昼間は公園におじいさんやおばあさんが集まっておしゃべりをしながら体を動かし、夜は若い人や小さい子どもが集まってダンスを踊ったり合唱をしたりしていました。みんなが公園に集まり、コミュニケーションを取ることはとても良いことだと思いました。近所に知り合いを多く作ることができるこういった場所が、日本ではありませんので羨ましいと思いました。

3つ目は、みんながすごく親切だということです。私のホストファミリーは、たくさんの親戚の人たちを集めて夕食を食べるという歓迎をしてくれました。みんなは私が日本人だということを知っていたので、「こんにちは！」と日本語で気軽に話しかけてくれました。そして私が何か料理について聞くと、英語や翻訳アプリなどすごく親切に説明してくれました。

海外に行ってみなければ分からぬないことがたくさんあること、さまざまな文化や考え方を知ること、そして知るために一步踏み出すことがどれだけ大切なことを肌で実感した日々でした。

私の経験

岡山白陵高等学校 2年生 岡井咲樹

このプログラムを通して、私は中国でさまざまな文化を体験したり、独特の興味深い事実を知ったり、日本と似ている部分を見つけたりしました。文化については中国結び作り、水墨画、書道（隸書）、切り紙等は私にとって初めての経験でした。不慣れだったのであまりうまくできなかつたけれど、楽しく文化を知ることができました。



体験以外では、世界遺産の平遥古城に行ったときに電動カートに乗って城内を移動したことが、スピードが速くスリル満点で強く印象に残っています。また、餃子を皮から自分たちで作ったことも、とても良い体験でした。餃子には黒酢をつけて食べました。私が中国で食べた物の中で一番おいしかったです。

また、私が中国独特だと思ったことは、信号無視した人への処罰についてです。太原市では信号無視した人に対して、その信号の横の電光掲示板にその人の顔写真、名前、IDが表示されます。私も実際、3人ほど見ました。強制的にルールを守らせようとする姿勢が中国ならではだと思いました。他にも、地域ごとに地形を生かした異なる発電方法があること、お湯を使った暖房設備のこと、博物館のロッカーが顔面認証だったこと等、日本とのさまざまな違いに気づきました。それは、最先端技術だと感心することもあれば不思議に思える部分もあり、大変興味深かったです。日本と同じ点に関しては、マクドナルドやタピオカ店の「貢茶」が存在すること、学校では外国語を少なくとも1つは学んでいること、法隆寺のような、釘を使わない木造建築があることなどたくさんありました。それでもやはり、日本と違うことのほうが多い印象でした。中国に行ったことは、私にとって貴重な経験となりました。偏見や想像ではなく、中国の事実を認識することができたと思います。

中国と日本の違い

兵庫県立福崎高等学校 1年生 指川倫太郎

僕は、中国に行って日本と違うと感じたことが3つあります。

1つ目は買い物についてです。中国では電子決済化が進んでいて、店だけでなくタクシーや博物館、屋台でもWeChatというアプリの機能を使ってお金を払っていました。日本でも電子決済がもっと普及すれば便利だと思いました。また、中国では、1つの店で買えば買うほど割引をしてくれるそうです。その場で値引きしてくれる仕組みを日本でも取り入れてほしいと思いました。

2つ目は学校についてです。まず、中国の学校は朝が早いと思いました。授業は多い日には11時間目まであり、勉強熱心だなと思いました。また、僕たちが訪ねた学校は12階建てでした。生徒数が5,000人と多い分、日本のような校舎だと広い土地が必要ですが、建物1つを高層にした校舎なので、上手に作られていると思いました。

3つ目は街並みです。太原市には一軒家が少なく、ほとんどの人はマンションに住んでいました。人口が多いからだと思いました。高層ビルもたくさんあり、多くのビルにはイルミネーションが付いていました。プロジェクトマッピングで広告を建物に映し出しているビルもあり、活気がある街だと感じました。

中国へ行って、自分が今まで持っていた中国に対するネガティブなイメージはなくなり、中国が好きになりました。日本よりも優れているところもたくさんありました。いつか、また中国を訪ね、まだ知らない町を訪ねたり、新たな日本との違いを発見したいです。



太原市派遣で感じたこと

淳心学院高等学校 1年生 小林謙士

今年の夏、姫路市の親善大使として太原市に派遣されて思ったことが2つあります。

1つ目は、経済活動は国境を越え、世界をつなげるということです。中国では、日本のコロロやフエラムネといったお菓子を見かけたり、日本食専門店で日本食を食べたりしました。また、日本のアニメは中国で非常に人気があり、日本人の派遣生と中国人の派遣生が仲良くなるきっかけになっていたり、日本の歌手の米津玄師は中国でも大変人気があると聞いたりしました。逆に日本では、四川の麻婆豆腐を食べることや中国のゲームをすることができます。さらに、多くの服飾品は“MADE IN CHINA”というタグがついています。このように、急速に進行しているグローバル化が世界を経済的、文化的に結合させることで、私達が異文化交流をしやすくなっていると思いました。



2つ目は、たとえ国籍、文化、言語、習慣が異なっても、人と人は互いに心を通わせることができるということです。ホストファミリーの皆さんには、私にとても親切してくれました。私が「This dish doesn't really sound good. (この料理はあまり口に合いません)」と言うと、「Do not worry. (気にしないで)」と言ってくれました。また、ホストブラザーと一緒にゲームをしている時、ゲームクリアと同時に「We won the game! (ゲームに勝った!)」と2人で叫び、ハイタッチをしたり、ホストブラザー、ホストシスターとボイフレンド、ガールフレンドの話をして大笑いしたりしました。このように、積極的にコミュニケーションを取ったことで、たどたどしくも母国語ではない言語で心を通わせることができました。

私は将来外国で働きたいと思っています。今回の経験は、この先さまざまの人とコミュニケーションを取るとき、大きな自信になると思います。また、私が外国で働く時にこの経験を活かせると確信しています。

好きです、中国

兵庫県立姫路工業高等学校 3年生 佐野萌々霞

私は中国の太原市でたくさんのこと学びました。その中で一番私の心に焼き付いているのは、派遣生仲間とそのホストファミリーたちと一緒に餃子を作ったことです。皮から作ることに驚きましたが、包み方の違いも興味深かったです。日本では蛇腹折をして具を包むのが主流ですが、中国ではとても簡単にできるのに見た目はきれいな包み方をしていて、私はとても気に入りました。来年調理学校に進学する私にとって、とても勉強になり、印象深い体験でした。中国では水餃子が主流ですが、ホストマザーは日本で主流の焼き餃子も作ってくれたので、心から私たちを歓迎してくれていることが伝わりました。その時食べた餃子が中国滞在中に食べた料理の中で一番おいしかったです。



私には、「中国人は大きな声で話すので騒がしい」という中国人や中国に対する思い込みがありました。しかし、ホストファミリーに中国語を教わった時、似ている言葉が多いために大きくはっきり発言しないとうまく伝わらないと知りました。「中国人は騒がしい」かもしれないけど、それは相手にはっきりと伝えるためであり、今までのイメージは私の偏見だったと気付きました。他にも中国に対してあまりよくない思い込みがありましたが、それらはいつの間にか私に刷り込まれたさまざまな情報が作りあげたのだと思いました。このプログラムに参加し、中国はみんな親切で楽しく、愛があふれている国だと感じ、中国へのイメージが大きく変わりました。中国での滞在を通して、偏見を持たず、自分の目で見て考えることが大切だということがわかりました。

中国で学んだこと

淳心学院高等学校 2年生 竹田将和

以前から中国へ行きたいと思っていましたが、メディアから伝わる日中関係の情報や偏見などがあり、中国に対して持っていたのは良い印象だけではありませんでした。しかし、「百聞は一見に如かず」ということわざがあるように、体験もせずに勝手に決めつけることは良くないと想い、派遣に臨みました。行く前は言葉や食事、文化の違いに不安を感じていましたが、滞在中にそれらの不安や偏見は全て解消されました。



まず、言葉に関しては、自分のうろ覚えの中国語が通じるのか、言葉の違いが原因でトラブルにならないか不安でした。しかし、7月にホストブラザーが来姫中に会ったとき、流ちょうな日本語で話してくれたので不安は半減しました。派遣中にホストブラザーの学校に体験入学したとき、日本語クラスの生徒は日本語授業が週に4回あるなど、流ちょうな日本語の理由を知ることができました。また、他の授業にも参加してみて、現地の学校の教育は日本よりさらに先へ進んでいて、とてもレベルが高いと感じました。食事に関しては、中国の伝統料理や朝食に少し不安がありました。しかし、それは不要な心配でした。伝統料理の鍋料理、ホストブラザーにもらった駄菓子など、どれもおいしかったです。最後に、文化の違いによるトラブルが起こらないか不安でしたが、ホストファミリーにいろいろな中国文化を教えてもらい、とても助かったし、見聞も広がったと思います。また、ホストブラザーは日本のアニメに詳しく、一緒に観たりしました。サブカルチャーの分野で日本の文化が浸透しているなと思いました。滞在中に文化の違いを肌で感じ、メディアからは伝わらない中国を知ることができたことで、交流が重要であると強く実感しました。

太原市で学んだこと

岡山白陵高等学校 1年生 中道七海

太原市に到着してまず感じたのは建物の高さが姫路に比べてかなり高いということです。その理由を聞いてみると、太原市だけでも300万人が住んでいるので、一軒家だと土地が足りないので高層マンションが多いということでした。

次の発見は、信号機が日本では赤、黄、青の3つしか付いていないのに、中国はそれに加えて乗り物マークと人のマークの合計5種類あることです。それに、進む時間も止まる時間も両方99秒もあることには驚きました。他にも日本与中国では箸の形状が少し違うことで持ち方も異なることや、焼肉は牛肉と羊肉だけで豚肉は食べないこと、トイレットペーパーは水に流さずゴミ箱に捨てるこども知りました。



私が最も感銘を受けたのは、中国では電子マネーが想像以上に普及していることです。人々は現金を使わず、ほぼ電子マネーだけで便利に生活していて、日本との違いは歴然でした。しかも、非常に短期間で高い普及率を成し遂げたそうで、中国の発展力を感じた瞬間でした。

このように、生活の随所に日本との大きな違いを発見したのですが、本やネットで調べた情報より、実際に現地に行って自分の足で探して発見した方が、同じものを知ったときでも印象や感動が全く違うと思いました。今回の派遣で私は中国の伝統や文化、これまでの自分では想像もできなかったことを知り、日本人とは異なる考え方を学びました。そして何よりも「知る」ために自分から積極的に行動することの重要性を実感できたことが大きな収穫です。知らない国へ行き、知らない人に話しかける。そんなチャレンジ精神を自分の将来に役立てたいと思いました。

かけがえのない経験「謝謝」

淳心学院高等学校 1年生 西田大連

僕はこのプログラムに参加し、人生で初めて中国本土に行きました。僕は事前研修のころから全くと言っていいほど不安を感じていませんでした。なぜかと言うと、出発前からすでにホストブラザーとWeChatという日本のLINEに相当するチャットアプリでたくさんやり取りをしていたからです。しかし、現地に着くと緊張てしまい、初日はホストブラザーとホストブラザーの友人としか、ちゃんと意思の疎通を図ることができませんでした。しかし、ホストファミリーは僕がなじみやすいようにいろいろと働きかけてくれました。例えば、食事のときに「いただきます」や「ごちそうさま」のような日本語の挨拶をしてくれました。そのおかげで、2日目からは少しずつ慣れてきてホストブラザー以外のホストファミリーとも積極的にコミュニケーションを取ることができました。ホストファミリーの気遣いには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



ホストブラザーとその友人はアニメが大好きで、夜は毎日一緒にアニメを見ました。中国と日本の放送の時差は1週間ほどなので、ブームは重なっていました。僕たちはアニメと一緒に見ることでテンションの高い日々を過ごし、毎日が新鮮で楽しかったです。

このプログラムを通して、僕はコミュニケーションを積極的に取れば、仲良くなれない人はいないということを学びました。今回経験したことを活かして、積極的にいろんな人に話しかけていきたいと思います。

海を越えて

姫路市立安室中学校 2年生 横尾侑真

僕は今年の夏、姫路市青少年派遣生として、中国の太原市へ行きました。中国に行く前から、ホストファミリーと何度かメールでやり取りをして期待を膨らませていました。僕のホストブラザーは日本語がとても上手でした。だから、僕がホストマザーやホストファーザーとの会話で困ったときは、ホストブラザーに説明してもらいました。しかし、頼りすぎるのも良くないと感じた僕は、持参した紙にペンで簡単に絵を描き説明したりもしました。

太原市では日本車が多く見られました。僕はトヨタが多いのかなと思っていましたが、実際は日産やスズキが多かったです。日本車以外にもポルシェやベンツなどの高級車も見られました。

また、驚いたことと言えば、中国の人々は自由であるということです。滞在中、横断歩道を渡らずに渡りたいところで自由に道路を横切る人をたくさん見ました。事故が起きないのは運転手が譲っているからだろうと思い、これもまた中国の良さかなと思いました。

中国の人々は本当に明るく気さくな人が多かったです。中国と日本は、文化や生活環境に違いはあっても人々の優しさや温かさは同じだと感じました。

この7日間は本当にあつという間で、とても充実した日々を送ることができました。このような機会を与えてくださった財団の皆さんや家族、そして太原市のホストファミリーに感謝したいです。ありがとうございました。



海外姉妹都市・姉妹城との交流

シャンティイ城

今年度は、フランス・シャンティイ市のシャンティイ城との姉妹城提携30周年を記念し、11月に姫路市から清元市長を団長とする公式訪問団がシャンティイ市を訪問しました。

現地では、市長表敬、シャンティイ城などの視察を行いました。記念懇談会が開催され、両市間の交流が続いてきたことを祝うと同時に、姫路市からの派遣生をホストファミリーとして受入れてくださっているシャンティイ市民の方々とも交流しました。今後も未永く交流が続くことを願います。



クリチーバ市

ブラジル・クリチーバ市との青少年交流は、平成24年度以降休止しています。しかしながら、クリチーバ市出身で日本の学校に国費留学している4名の学生が、1月に姫路市を2泊3日の行程で訪問し、姫路城や好古園を見学しました。

来姫中は、一般家庭にホームステイしました。ホストファミリーとは、書写山に行ったり一緒に料理したりと、お互いにとって貴重な時間となったようです。短い滞在ではありましたが、クリチーバ市と姫路市との絆を再確認することができました。4名には、ぜひ今後もホストファミリーとの交流を続け、いつか姫路を再訪してほしいと思います。



オーストラリア・アデレード市コース

アデレード市派遣生

	学校名	学年
○市村 遥	兵庫県立姫路東高等学校	1
●伊藤 陽香	賢明女子学院高等学校	1
岡山 未来	姫路市立琴丘高等学校	1
木下 ひなた	兵庫県立姫路東高等学校	1
菅原 遥香	兵庫県立姫路東高等学校	1
引率者（公財）姫路市文化国際交流財団 スコット 基子		

(○:リーダー／●:サブリーダー)



滞在スケジュール

7月30日(火)～8月12日(月)

日時	内容
7月30日	関西国際空港発～香港経由
7月31日	アデレード空港着後、ホストファミリーと過ごす
8月1日	授業（学校案内、姫路・日本文化紹介、体育、アボリジナルアート）
8月2日	市長表敬訪問、市庁舎見学 市内観光（セントラルルマーケットなど）
8月3日	ホストファミリーと過ごす
8月4日	ホストファミリーと過ごす
8月5日	授業（アボリジニについて） バスケットウィービング体験
8月6日	バス旅行（ビクター・ハーバー、ウリンビラ自然保護公園、グラニット島散策）
8月7日	ブラックウッド小学校訪問（姫路・日本文化紹介） 授業（オーストラリアの歴史）
8月8日	アデレード市内観光
8月9日	授業（家庭科） お別れパーティー
8月10日	ホストファミリーと過ごす
8月11日	アデレード空港発～香港経由
8月12日	関西国際空港到着

7月
30日
(火)

朝過ぎにバスで姫路を出発し、関西空港から香港空港に向かいました。飛行機からの景色は、雲がいろんな表情をしていて、とても綺麗でした。香港空港に着いた頃には、日本の家族のことを少し忘れるほど、オーストラリアでの滞在が楽しみで仕方なかったです。香港空港に着いたのは、夜中の12時だったので、眠くてふらふらになりながらも、とにかく何か食べたくて、フードコートに行きました。独特な匂いのする麺を勧められ、それを食べました。味も独特でしたが、お腹は膨らみました。アデレード行きの飛行機が出発するまで待ち時間が4時間でしたが、派遣生5人で喋っているとあっという間でした。



7月
31日
(水)

香港空港を出て、ようやくアデレードに着きました。オーストラリアは冬なので外は寒かったです。ブラックウッド高校の先生が空港まで迎えに来てくださいり、まず車で学校へ向かいました。オーストラリアを訪れるのは初めてで、街並みが日本とは違い、気になるものばかりでした。学校はとても大きく、驚きました。そして、ついにそれぞれのホストシスター、ホストブラザーに会い、皆で一緒に昼食を食べました。

オーストラリアの家はどこも庭が大きくて、私のホストファミリー宅の庭も大きかったです。

夕食は私の好きな物からラザニアと、デザートにイチゴを用意してくれました。とてもおいしかったです。その夜、日本から持ってきたお土産を渡しました。喜んでくれてとても嬉しかったです。



8月
1日
(木)

ホストシスターと一緒に学校に登校しました。家から学校までは距離があるので、車で登校しました。学校にはアジア系の生徒も多く、驚きました。初めての授業は日本語の授業で、ブラックウッド高校の生徒たちと日本の遊びをしました。他にもネットボールをしたり、ブーメランに絵や文字を書いたりしました。ネットボールはオーストラリアで人気のあるスポーツで、ルーツはバスケットボールだそうです。

放課後には、学校の近くにある公園にスケートボードをしに行きました。日本ではあまり見られない練習場があり、驚きました。しかし、雨のせいで少し濡れていて、あまり滑ることができませんでした。

夜にはカレーを食べに行きましたが、オーストラリアのお米は少しパサパサしていました。



8月
2日
(金)

朝から、初めてオーストラリアの電車に乗り、町の中心部に出かけました。制服で集まつたので、いつもとは違う緊張感がありました。アデレード市長にお会いするという貴重な機会を設けていただき、普段絶対に入れないような場所にも入らせていただき、ガイドの方からアデレード市の歴史やアボリジニについて聞くことができました。市長とお会いした時はすごく緊張していましたが、とても優しく話しかけてくださいました。姫路の代表として来ていることを重く感じました。

その後、セントラルマーケットを訪れました。たくさんの種類のお肉や果物、チーズなどがぎっしり並べられており、大根は“radish”ではなく“daikon”と書かれてあったので驚きました。

その後、ホームパーティーに参加したりと、楽しい1日を過ごしました。



8月3日（土）

ホストシスターのネットボールの試合を応援しに行きました。自分の考察では、ネットボールはバスケットボールのドリブルがなくてボールを持ったら1歩しか動けないバージョンだと理解しました。日本では見たことのないスポーツだったので見入ってしまいました。

試合の後、昼食を食べに連れて行ってもらったのが、なんとお寿司屋さんでした。日本のお寿司とは少し違っていて、生魚が少なかったです。そして、サイドメニューが多かったです。

その後、ホストファミリーにアデレード市内を案内してもらいました。アデレードには昔ながらの洋風のきれいな建物がたくさんありました。それに、教会が多かったです。この日、アデレードの新たな良さを発見しました。



8月4日（日）

週末で、昨日から別荘に泊まっています。とてもおしゃれな街並みで、「インスタ映え！」とはしゃぎながらたくさん写真を撮りました。

午前中は、近くの海へ行きました。冬なのでさすがに泳ぐことはできませんでしたが、とてもきれいで、水が青く澄んでいました。お腹が空いていたので、そこで食べたアイスクリームは染み渡りました。昼食は、フライドポテトだけでびっくりしましたが、おいしかったです。

午後は、家で映画を見ながら、とてもリラックスした時間を過ごしました。夕食は、家で自分の好きな食材を入れたハンバーガーを作りました。ホストシスターは、ベジタリアンなので野菜のみのハンバーガーを食べていました。



8月5日（月）

オーストラリアやアボリジニの歴史についての授業を受けました。多くの情報を一気に知ることが出来ました。その後、バスに乗ってバスケットウイービングをしに行きました。オーストラリアのバスに乗るのは初めてでしたが、日本と似ていることもあれば違っていることもあります。楽しかったです。

バスケットの編み方を教えてくださったのはアボリジニの女性で、分かりやすく指導してくださいました。バスケット作りは単純な作業でしたが、きれいにつくるのは難しく、私にはあまり向いていないようでした。時間内に完成することはできませんでしたが、持ち帰り、なんとか完成させることができました。



8月6日（火）

ブラックウッド高校の生徒たちと一緒に、ウリンビラ自然保護公園に行きました。そこは、カンガルーやコアラなどを触ることができる動物園です。これまでに見たことがないほど多くのカンガルーがありました。どのカンガルーもとても積極的で、たくさん餌をあげました。その後、グラニット島に行きました。橋を渡って山に登りました。

放課後には、ホストシスターのいとこに会いに行きました。とてもかわいい子たちと一緒にバスケットボールをしたり、木登りをしたり、にわとりに触ったり、初めてのことばかりでした。そして日本の友達のために、たくさんのお土産も買いました。オーストラリアの人たちはとても元気で、いつも過密スケジュールでした。



8月7日(水)

朝から現地のブラックウッド小学校に行き、日本語の授業に参加させてもらいました。教室に入ると、日本語のスター、七夕の短冊が飾られた笹、畳、座布団など、たくさんの日本の物で埋め尽くされている教室を見て驚きました。

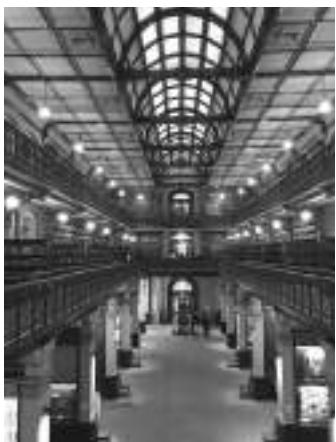
授業では事前に準備していた「はないちもんめ」の発表をしました。時間がなかったので一緒に「はないちもんめ」をすることはできませんでしたが、私たちの紹介を見て、担任の先生がとても喜んでくださっていた姿が印象に残っています。オーストラリアの小学生が日本語を勉強していることに驚くと同時に、とても嬉しくなりました。



8月8日(木)

バスに乗って美術館、博物館、図書館に行きました。美術館、博物館ではアボリジニの展示物をたくさん見て、オーストラリアの歴史に触れました。中でも、私の一番のお気に入りの場所は図書館です。図書館はまるでハリー・ポッターの世界で、とてもわくわくしました。とにかく本がたくさんあって、どれも古い本ばかりでした。本はとてもいい匂いがしました。

昼食は、巨大なピザ3枚を派遣生のみんなでシェアして食べました。少し塩辛かったですが、おいしかったです。その後、お土産をたくさん買いました。この日は嵐が近づいていたせいで雨が降り、風が強く冷たかったので、買い物をするにも一苦労でしたが、とても楽しかつたです。



8月9日(金)

ソーセージロールとロッキーロードを作りました。ソーセージロールは、たくさん作ったのでたくさん食べました。ロッキーロードは、溶かしたチョコレートにクッキーやマシュマロを混ぜ込み、固めたスイーツです。私はラッピングをして、ホストブラザーの妹にプレゼントしました。両方ともとても簡単にできて、おいしかったので、日本でも作ってみたいです。

その後、それぞれのホストシスター、ホストブラザーと一緒に授業を受けました。授業でパソコンを使うということが新鮮でした。

夜は、フェアウェルパーティーがありました。姫路についてのプレゼンは、「とても良かったよ」とホストファミリーに言ってもらい、とてもうれしかつたです。さらに派遣生、それぞれのホストシスター、ホストブラザー10人の仲が深まり、楽しい夜となりました。しかし、だんだんとホストファミリーとのお別れを感じ、寂しくなりました。



8月10日(土)

今日は最後の週末でした。この日は激しい雨が降ったりやんだりと変わった天気でした。ショッピングしたいと伝えると、ホストマザーが連れて行ってくれました。洋服のお店からお土産屋さんまでゆっくりと自分のペースでまわることができました。

昼食は、フードコートに行きました。地下なのに、フードコートの天井には鳥がいて驚きました。そこで、フィッシュアンドチップスを食べました。量は多かったですが、おいしかったです。行ってみたかったショッピングセンターの“K-MART”にも行けて良かったです。

夕食後、ホストファミリーに姫路へのビデオメッセージをお願いする時に、なかなかうまく伝わらなくて大変でしたが、最後には何とかきちんと撮れて良かったです。



**8月
11日
(日)**

オーストラリアを出発する日です。最後というのが悲しくて、朝からあまり話すことができませんでした。しかし、ホストシスターがいろいろと話しかけてくれました。ホストシスターは用事があったので、家でお別れをしました。空港まではホストマザーともう1人の派遣生とそのホストファミリーと一緒にきました。とても悲しくてたくさん泣いてしまいました。ホストシスターとはまた10月に会えるので、それまでに英語力を上げて、今回よりも話せるようになりたいと思います。

空港では、買い忘れていたお土産の購入など、自分のしたいことをすることができます。乗り継ぎの香港ではラウンジに行き、マッサージをしてもらい、体をゆっくり休めることができました。



**8月
12日
(月)**

香港空港を夜中の1時50分に出発し、朝の6時30分に関西空港に到着しました。香港空港に着いた時にも感じたのですが、オーストラリアの澄んだ空気がとても恋しくなりました。しかし、関西空港で食べた牛丼のおかげで、やはり日本のお米が一番だなと感じました。その後、バスで姫路へ向かいました。

あっという間に過ぎた2週間、充実したかけがえのない時間でした。このメンバーでオーストラリアに行けて、そして無事に帰ってくることができて嬉しかったです。



アデレード市引率者感想　スコット 基子

女子高生5名の引率として、オーストラリアで2週間を過ごしました。派遣生5名は出発前から既に仲良く助け合い、現地でも同様に素晴らしいチームワークで日々の生活を送っていました。全員が高校1年生だったのも功を奏したかもしれません。各々の得意分野や個性を活かし、役割分担もなされていましたように見受けました。真夏の姫路から真冬のアデレードへ！大きな気温差にも順応し、雄大な自然とゆったりとしたオーストラリアの生活を楽しんだ派遣生たち。きっと、多くの「初めて」に出会い、大きく成長したことでしょう。お世話になったホストファミリーの方々と末永く交流を続けて、より深い関係を築いてほしいと願います。滞在中お世話になったブラックウッド高校の先生方、担当のキャリン先生、姫路で再会を果たしたお2人の先生方、私たちの滞在を有意義なものにしていただき、心から感謝しています。



驚きだらけの毎日

兵庫県立姫路東高等学校 1年生 市村遙

この14日間でたくさんの違いを発見しました。タイトル通り、毎日が驚きの連続で、私たちの口癖は「オーマイガー！」でした。

学校では、美術とツーリズムの2つの授業に参加しました。美術では、先生がテーマを出し、それに沿って描くのかと思っていましたが、「何でも自由に描いたらいいんだよ」と言われ、びっくりしました。ホストブラザーのエディはキャラクター、岡山さんのホストシスターのルーシーは好きな車を模写していました。描かされている感じがなく、伸び伸びと描いていて、これが得意なことを伸ばすということだと感じました。ツーリズムの授業では、パソコンを使って旅行計画を立てました。実用的で、日本では考えられない面白い授業でした。

しかし、伝えたいことがなかなか伝わらないこともあります。私が、「今日は寒いからマフラーを持って行ったほうがいい？」と聞くときに、英語でマフラーのことを「スカーフ」と言う、と知らなかつたので「Do I need to take my muffler?」と聞いても、全く伝わりませんでした。でも、実際にマフラーを見せて聞いてみると伝わりました。このように、時間をかけてでも伝わった時は達成感を感じて、もっとたくさん話したいと思いました。

また、写真を撮るときは、加工アプリを使ったりせず、いつも普通のカメラでした。最初は「えっ？！」と、戸惑いましたが、見た目にこだわるのではなく、中身を大切にする、ありのままが良いという考え方とてもいいなと思いました。

これからは、アデレードで学んだことを活かしながら生活し、大好きなホストファミリーの元に戻れるように、英語を勉強したいです。素敵な14日間をありがとうございました。



アデレードで学んだこと

賢明女子学院高等学校 1年生 伊藤陽香

7月末から8月にかけて、オーストラリアのアデレード市に行きました。私はこの派遣で一番、現地の学校に行くことが楽しみでした。日本とどういう所が違っているのかが気になって、わくわくしていました。

まず、学校の規模の大きさに驚きました。ブラックウッド高校には、インターナショナルクラスがあり、中国や日本などさまざまな国から来た生徒がいました。やはりオーストラリアは多民族国家だと思いました。また、子どもたちが集まってライブをしたり、一緒に歌ったり、キリスト教について学んだり、ネットボールというオーストラリアで人気のスポーツをしたりする場所に行ったときにも同じように感じました。そこで知り合った人は、アメリカ人とのハーフ、ヨーロッパやアジアから来た人たちとさまざまでした。

オーストラリア人であるかに関わらず、アデレードで出会った人は、その日初めて会った私に対しても、とてもフレンドリーに話しかけてくれたり、英語が聞き取れず何度も聞き返しても、怒らず優しく話してくれました。その時に気付いたのは、オーストラリアの人はよく「私はこう思う」と言ってから話すことです。それは自分の意見をしっかりと持っているからこそだと思います。私は優柔不断で、自分の意見をしっかりと持っていないので、私も自分の意見を持ち、それを話すことができるようになりたいと思いました。この姉妹都市派遣は私にとって学ぶ点が多くあり、とても貴重な経験になりました。



オーストラリアで学んだこと

姫路市立琴丘高等学校 1年生 岡山未来

私は英語で話すのが苦手なので、2週間やつていけるかとても不安でした。しかし、ホストシスターが簡単な英語で話しかけてくれたり、しっかりと伝わるまで聞いてくれたりして、何とか2週間過ごすことができました。授業ではオーストラリアで人気があるスポーツのネットボールを体験したり、放課後や週末にはホストシスターのネットボールの試合を見に行ったり、国立公園にカンガルーーやクカバラ（ワライカワセミ）を見に行ったりと、日本ではできないことをたくさん経験できました。

オーストラリアに行って日本との違いを見つけることもできました。1つ目は、学校生活です。オーストラリアでは規則が厳しくなく、遅刻したり、授業中に携帯電話を触っても注意されていませんでした。そして驚いたことはリセスがあるということです。リセスとは、10時くらいに軽食を食べる時間のことです。りんごなどを丸かじりしていました。2つ目は、家のことです。家には土足で入りまます。土足なので床が少し汚れているのかなと思ったら、全く汚れていないくて驚きました。就寝時間は日本よりも早く、10時くらいにみんな寝てしまいます。そして、驚いたことは、庭の木にコアラがいたことです。毎日いるわけではなく、見られたことは、とてもラッキーだったそうです。



私は、2週間のホームステイでオーストラリアと日本の違いを見つけることができました。そして、多くの良い経験をさせていただきました。本当の家族のように接してくれたホストファミリー、財団の皆さん、このプログラムに関わってくださった全ての方との出会いに感謝しています。ありがとうございました。

オーストラリアに行って感じた、驚いたこと

兵庫県立姫路東高等学校 1年生 木下ひなた

オーストラリアに到着し、空港を出てまず感じたのは空気がおいしいということです。とても澄み切っていました。帰国した際も、ホストファミリーが恋しくなるのと同じくらいオーストラリアの空気が恋しくなりました。

驚いたのは想像していたよりも日本文化が浸透していたことです。ショッピングに行くと、寿司屋を何度も見かけました。ホストファミリーと一緒にお箸の使い方や日本語の練習をしたりもしました。ホストファミリーは日本人が毎回お箸を使い食事をしていると思っていたようで、食事をする時に、「お箸を使って食べる？」と聞いてくれました。私が「スプーンを使いたい」と言うと、「あなたはいつお箸を使うの？」と聞かれました。また、学校の日本語の授業では、日本語を使ってオーストラリア人の生徒と話すこともあり、日本に興味を持ち、日本語を学びたいと思っている人がいるということが嬉しくなりました。



長いと感じていた2週間も始まってみるとあっという間でした。最初はホストシスターの話しか聞き取れなかったのが、少し早口と感じていたホストファーザーとホストマザーの話も、徐々に聞き取れるようになっていたので、ヒアリングの力はものすごく上がったと思います。しかし、自分が話すとなると難しかったので、もっと英語のスキルを高めたいです。

これ程濃い2週間は過ごしたことがないと感じるくらい充実した体験をすることができたこと、かけがえのない友人、家族ができたこと、姫路市の派遣生として参加させてもらえたことに感謝し、今後の生活、将来に繋げていけるようにこれからいろいろなことに自分から挑戦し、交流の場を広げていきたいです。参加できて本当に良かったです。

日本との違い

兵庫県立姫路東高等学校 1年生 菅原遙香

私がアデレード市を訪問して驚いたことは、町中に普通に野生のコアラやカンガルーがいたことです。日本の町中にいる野生動物といえば、ネコくらいしか思いつきません。日本ではなかなか見られない光景だったのですごく興奮しました。コアラはただ木の上で寝ているか食べているかどっちかだと思っていましたが、実際には歩きます。友達の撮った動画を見ると、歩き方はとてもかわいかかったです。かなりゆっくりと、のそりのそりと歩くような感じでした。そしてコアラの毛は固いのかと思っていましたが、予想に反してふわふわでした。コアラはとにかく可愛かったです。



今回のことでの、コアラをもっと知りたいと思い、調べてみました。コアラはギリシャ語で「袋を持つ灰色のクマ」という意味です。コアラという名前はアボリジニの言葉が由来ともされていますが、詳細は分かっていません。体長は65～82cm、体重は4～15kgで、平均寿命は13～18年だそうです。そしてコアラはストレスに弱く、人間に抱かれることさえストレスになることもあります。そのため、コアラの抱っこを禁止する条例を定めた州が増えています。私はコアラの抱っこを楽しみにしていたのですが、このことを知って納得しました。コアラの食べ物といえば、ユーカリの葉です。ユーカリの葉を食料とするだけでなく、水分補給もしているそうです。ユーカリの葉には「青酸」という強い毒が含まれていますが、コアラは2メートルもの長い盲腸を持っていて、青酸を分解できる微生物がいるため、中毒にはなりません。しかし分解にはかなりのエネルギーが必要なため、1日のほとんどを木の上で寝て過ごすのだそうです。

最後に、貴重な経験をさせてくださった財団の方々、家族、姫路市の皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

派遣後の活動

FM Genki ラジオ出演



海外姉妹都市派遣報告会



ひめじ国際交流フェスティバル参加



アメリカ・フェニックス市コース

フェニックス市派遣生

	学校名	学年
●石塚 ひめな希美	兵庫県立姫路南高等学校	1
大島 葉月	賢明女子学院高等学校	2
○齊田 のどか	賢明女子学院高等学校	2
村松 良馬	姫路市立琴丘高等学校	2

(○:リーダー／●:サブリーダー)



滞在スケジュール

7月20日(土)～8月5日(月)

日時	内容
7月20日	関西国際空港発～口サンゼルス経由～ フェニックス市着
7月21日	ホストファミリーと過ごす
7月22日	北アリゾナ旅行
7月23日	サンクスギビング、タレントショー
7月24日	市長表敬訪問、姫路市プレゼン
7月25日	ホストファミリーと過ごす
7月26日	プロム（ダンスパーティー）
7月27日	ホストファミリーと過ごす
7月28日	ホストファミリーと過ごす
7月29日	お別れパーティー
7月30日 ～8月3日	ホストファミリーと過ごす
8月4日	フェニックス空港発 ～口サンゼルス経由～
8月5日	関西国際空港着

7月
20日
(土)

長いフライトが終わり、現地に着くと空港でホストシスターが待っていてくれました。安心とともにフェニックスに着いたと実感がわきました。

家に着いて家の中を案内してもらった後、夕食にピザを食べに行きました。緊張してなかなか喉を通らなかったのですが、とてもおいしかったです。

ホストファミリーは私のためにたくさんのプランを立てていると言ってくれて嬉しかったです。これから約2週間、どんなことが待ち受けているのかドキドキでいっぱいです。



7月
21日
(日)

今日はホストファミリーと教会に行きました。教会は静かに祈る場所だと思っていましたが、建物に入るとコンサート会場のような造りになっていて、歌を歌って映像を見て祈るという流れで、すごく驚きました。昼食は、フェニックスの日本食レストラン KAWAII に連れて行ってもらいました。日本のお米の方がおいしかったです。ほんの少しだけ、日本の寿司が恋しくなりました。

夕方からウェルカムパーティーを開いてくれて、親戚や友人が集まってチキンやケーキをごちそうしてくれました。みんな温かく歓迎してくれて、すごくうれしかったです。僕の英語力では伝えられないことも多いけれど、積極的に話しかけようと思いました。



7月
22日
(月)

今日は初めて YAEP プログラムに参加する日でした。アリゾナ州の北部にあるフラッグスタッフに行きました。そこにあるアドベンチャーコースで、みんなキャーキャーと叫びながら、綱渡りやターザンロープなどのアスレチックを楽しみました。昼食の時には他国の派遣生とも話しました。初めての会話で少し緊張しましたが、とても優しい派遣生たちばかりで楽しく会話ができました。

また、グランドキャニオンにも行きました。目の前に広がる景色はとても壮大で、まるで絵画を見ているかのようでした。

帰り道に雷が光っているのを見て、ホストシスターたちが興奮していました。私が「日本では、雷神様がおへそを取っていくって信じられているから子どもは雷を聞くとおへそを隠すんだよ」と言うと、とても驚いていました。



7月
23日
(火)

午前中に、日本人派遣生の女子メンバーとホストシスターたちと一緒に、プロムのドレスを選びに行きました。種類が本当にたくさんあり、日本のパーティードレスと違って長かったり、派手だったり、どれも綺麗で選ぶのに時間がかかりました。日本ではみんなでドレスを試着するような機会はあまりないので、新鮮でとても楽しかったです。

午後は、YAEP のプログラムで Thanksgiving (感謝祭) を祝いました。感謝祭ならではの料理があり、とてもおいしくいただきました。タレントショーで日本人派遣生はパフォーマンスを披露しました。とても緊張しましたが、周りのみんながダンスを真似してくれたので嬉しかったです。他国の派遣生のパフォーマンスも楽しく、みんなで盛り上がることができました。私たちは優秀賞をもらえたので良かったです！



7月
24日
(水)

今日は朝から市役所に行き、フェニックス市長と面会しました。市長はとても優しい方で、私たちを快く迎え入れてくださいました。その後に各国の派遣生がプレゼンテーションを行いました。いろんな国の文化を知ることができ、いい機会になりました。

昼からは “zine workshop” といって自分で雑誌から好きなものを切り取って本を作るという作業をしました。それが終わると、私のホストシスターと他の派遣生と一緒に出掛けました。とても楽しかったです。

夕食は中国からの派遣生のホストファミリーの家にお邪魔して、中華料理のもてなしを受けました。とてもおいしかったです。今日も楽しい1日になりました。



7月
25日
(木)

今日はホストブラザーに “Water Park” というプールに連れて行ってもらいました。プールの面積が広いだけではなくウォータースライダーが多くて、アメリカの規模の大きさに改めて気付かされました。すごく楽しかったです。

昼食はホストブラザーのおじいさんとおばあさんにパスタを食べに連れて行ってもらいました。味は日本とあまり変わりませんが、食べ物と飲み物の量がとても多かったです。

夕食はメキシコ料理を食べに連れて行ってもらいました。タコスがとてもおいしかったです。もう少し滞在期間の半分が終わってしまうので、今まで以上に一日一日を大切にしようと思いました。



7月
26日
(金)

一番楽しみにしていたプロムの日。みんなこの日のために用意したドレスやタキシードを着て、とてもきれいでした。予想をはるかに超えた盛り上がりで、日本人派遣生4人も他国の派遣生に負けないくらいノリノリでダンスをしたり歌ったりして、すごく楽しかったです。ただ音楽を流すだけではなく、本物のDJが来てその場に合う曲をアレンジしてくれました。途中、台湾の男子派遣生が「日本ではネクタイをこう結ぶのだろう?」と言って、自分のネクタイを頭に巻いてダンスをしました。それを見て笑ってしまいました。最後はみんなで円になって “Don't Stop Believin'” を大合唱しました。プロムは日本にはないので、日本にもあったらいいのに、と思えるほど楽しめました。



7月
27日
(土)

今日はホストファミリーと一緒にセドナに行きました。セドナはとても有名なパワースポットで、今までに見たことのない赤い山で本当に綺麗でした。セドナの山が見える川で泳いだり、ハイキングをしたりして、アメリカの自然の豊かさを改めて感じることができました。

帰りに有名なパイのお店に寄りました。日本のパイと違ってブルーベリー、ココナッツ、レモンなどさまざまな種類があってとてもびっくりしました。

夜はホストファーザーの手作りのパスタを食べました。日本で食べているパスタよりもお洒落で大人な味でおいしかったです。



7月
28日
(日)

今日はホストファミリーにアリゾナ州の南の方にあるカチュナー・キャバーンズ州立公園にある鍾乳洞へ連れて行ってもらいました。洞窟の中は自然が何百年、何千年と時間をかけてつくった造形美といつても過言ではないほど美しいものでした。ガイドの方は話すのが速くて聞き取るのが難しかったですが頑張りました。

初めて洞窟の中に行きましたがとても幻想的で、まるで夢の中にいるかのように思いました。アリゾナには日本には無いような自然がたくさんだったので、どこへ行っても感動の連続でした。

7月
29日
(月)

今日は午前中にアウトレットに連れて行ってもらい、買い物をしました。日本と値段が変わらないブランドもあれば、安いブランドもありました。

夕方から "Farewell Fiesta" というお別れパーティーがありました。出会って約 1 週間という短い間で仲良くなった世界中の友達と YAEP の T シャツにメッセージを書きあったり、思い出話をしたり、別れを悲しんだりしました。日本の派遣生はプログラムの途中から参加したため、他国の派遣生たちが帰った後もアメリカに残るので、別れがすごく寂しかったです。同じアジア圏の派遣生とは必ずまた会おうと約束しました。このプログラムに参加できて本当に良かったと思いました。

7月
30日
(火)

今日はホストシスターとその友達と一緒にカヤックに乗りに行きました。とてもきれいな湖で、水がとても冷たくて気持ち良かったです。私は初めてだったので、ホストシスターに教えてもらいながら漕ぎました。最初は濡れるのが嫌で動きが小さかったけれど、最後の方になると私もコツをつかみ、ホストシスターと一緒に歌いながら漕いで服がびしょびしょになってしまいました。何事にも思い切りが大切だと実感しました。

英語でのコミュニケーションにも大分慣れ、ホストシスターの友達とも仲良くなれました。私が「発音が難しい単語がある」と言うと 3 人がかりで教えてくれました。おかげで少し発音がきれいになったと思います。

7月
31日
(水)

今日はアイルランドの派遣生たちが帰国する予定だったので、朝に空港まで見送りに行きました。みんな最初から涙を流していて、自分も思わずもらい泣きをしてしまいました。自分たちが帰る日のことを考えると寂しくなりました。

その後、アイスクリームを食べに行きました。アイスクリームにオレオがたくさん入っていて、おいしかったです。

夜は日本人派遣生、ホストファミリーたち、過去の姫路からの派遣生のホストファミリーと夕食を食べました。バイキング形式でお寿司もありました。久しぶりに和食を食べましたが、やっぱり味は少し違うなと感じました。みんなとたくさん話もできて楽しかったです。



8月1日（木）

今日はホストファミリーとカリフォルニア旅行に行きました。ハリウッドに連れて行ってもらつて、映画などでよく見るあのハリウッドサインを見たときは、とても不思議な気持ちになりました。LA LAND の舞台になったところにも行きました。“Walk of Fame”にも行ってアメリカの有名人の名前をたくさん見つけました。その後はビーチに行って、そこで夕食を食べました。カリフォルニアの夕日はとても綺麗だったので、しっかりと目に焼き付けました。水平線もよく見えました。サンタモニカにも連れて行ってもらいました。夜遅いのにとても人で賑わっていて楽しかったです。



8月2日（金）

今日はカリフォルニア州のディズニーランドに連れて行ってもらいました。日本のディズニーランドとの大きな違いは閉園時間です。カリフォルニア州のディズニーランドは、夜の 12 時まで開いていると知りとても驚きました。乗り物の待ち時間も日本と比べるとすごく短く、たくさんの乗り物に乗ることができました。また、アメリカはフレンドリーな人がとても多く、店に入った時やレジでお会計をするときも「How are you? (元気ですか？)」や「Have a nice day. (良い一日を)」などの会話をします。僕はその文化を素晴らしいと思います。そのようなコミュニケーションはとても大事なことだと感じます。

アメリカに行って、日本人はもっとコミュニケーションを意識するべきだと思いました。



8月3日（土）

今日は“Tombstone”という町に行きました。町並みは映画などで見るような景色で、カウボーイや馬車、レトロなドレスを着た婦人が実際に歩いていたので、まるで自分が 18 世紀の西部劇の世界に入ったかのようでした。実際にここで撮影された映画が何本もあるそうです。馬が大好きな 10 歳のホストシスターは馬車を見て、とても興奮していました。

また、“Gunfight”という拳銃による決闘のショーを見ました。出てくる役者さんは全員、カウボーイ特有の訛りのある英語で話していました。ショーでは銃を撃つと大音量の発砲音が鳴り響き、迫力満点でした。会場全体が一体となって笑ったり、悪者に対してブーイングをしたりして本当に楽しかったです。



8月4日（日）

いよいよ日本に帰る日になりました。朝早くから空港に向かい、空港に着くとみんな少し悲しそうな表情で、既に泣いている子もいました。みんなで写真を撮ったり、思い出話をしたり、なかなか別れが言えずにいましたが、みんなで必ず戻ってくると約束してさようならを言いました。5 日に日本に無事到着することができ、安心と共に本当にこの滞在が終わってしまったことに対しての悲しさが込み上げてきました。滞在中は素晴らしい経験がいっぱいです、毎日が新鮮で本当に楽しかったです！

財団の方々や、家族のみんな、受け入れてくださったホストファミリーたち、たくさんの人への感謝の気持ちでいっぱいです。必ずまたフェニックスに行きます！本当にありがとうございました！



アメリカで学んだこと

兵庫県立姫路南高等学校 1年生 石塚ひめな希美

今年の夏に、私はアメリカのフェニックス市に行きました。フェニックスでは9か国もの国から来た高校生と、交流することができました。私がそこで感じたことは、大きく分けて2つあります。

1つ目は英語の重要性です。初め、自分の英語を理解してもらえるか、コミュニケーションが上手くとれるか不安でいっぱいでした。実際に他国の派遣生と過ごす時は全員が英語で、公用語が英語でない国の派遣生も英語を上手に話していました。私は普通の会話はできましたが、自分の言いたいことを英語で上手く伝えることができない時があり、悔しい思いをしました。改めて世界共通語としての英語の重み、重要性を感じました。



2つ目はアメリカでは人と違うことは当たり前で、自分の意見を持っていることです。私は日本とメキシコとのハーフです。日本でそのことを伝えるととても驚かれますが、アメリカではそれが特別なことではありません。たくさんの国の人々が住んでいて、人種も違う人ばかりです。実際に私のホストシスターもイタリア系でした。日本ではハーフ、外国人であることは個性だとよく言われます。しかし、アメリカでは個性以前にそれが当たり前なのです。そして性格、見た目、人と違う考え方を持つことが「当たり前」で、私はアメリカにとても魅力を感じました。

一番重要なのは「自分の意見を持つこと」だと彼らは言っていました。アメリカに行く前は、物事を決めるときはいつも他の人の意見を聞いて決めていました。今回の派遣で、そんな自分の考え方方が大きく変わりました。今回の派遣を通して学んだことや経験したことは、一言では表せないほど私の世界を広げてくれました。支えてくださった方々に本当に感謝しています。

YAEP プログラムを通して

賀明女子学院高等学校 2年生 大島葉月

私はこのフェニックス市コースの YAEP プログラムを知ってから、ずっと興味を持っていました。YAEP とは Youth Ambassador Exchange Program の略で、フェニックス市の姉妹都市9か国の代表の生徒が集まって行われるプログラムです。今年の派遣生に選ばれたときは飛び上がって喜びました。相互交流のため受入れもすることになりました。ホストファミリーをするのは初めてなので、最初は緊張しましたが、お互いに濃い時間を過ごせたと思います。



このプログラムは7月上旬から行われていたのですが、姫路市からの派遣生は夏休みに入ってから参加するので、プログラム後半からの合流でした。そのため他の派遣生たちと仲良くなれるか不安でしたが、そんな心配も無用で、すぐになじめました。このプログラムでは、日本ではできないような体験をたくさんしました。特にプロム（ダンスパーティー）は一番印象に残りました。次の日も、その次の日も余韻に浸っていたくらい楽しかったです。そして一番嬉しかったことは、YAEP を通していろんな国にたくさんの方達ができたことです。台湾や中国の派遣生とは、日本と近いので「遊びに行くね」とお互いに約束しました。彼女たちが来日したときは姫路を案内したいと思います。

フェニックスで過ごした2週間は、自分で何かをやり遂げるという自信になりました。フェニックスへは派遣生だけでの渡航なので、何かあっても自分たちで考えて解決しないといけなかったからです。空港の入国審査もみんなで協力しました。私自身、親に頼っていることが多いということに気付く良い機会になりました。この機会を設けてもらったことに感謝し、少しづつ自立していくこうと思いました。このプログラムで友達になった人とはこれからも連絡を取り合って、交流を続けていきたいと思います。

Unforgettable 2 Weeks

賢明女子学院高等学校 2年生 齊田のどか

フェニックスで過ごした2週間は、私にとって絶対に忘れる事のできない経験となりました。私は今まで海外に行ったことがないどころか、飛行機に乗ったこともなかったので、今回の派遣は初めての連続でした。しかし、英語でのコミュニケーションもとても上達し、最後の方にはホストファミリーのジョークに対して、私もジョークで返せるくらいまでになりました。

私がアメリカで一番刺激を受けたのは「自分の将来についての考え方」です。アメリカでは、高校生の時点でとても専門的な授業を受けます。そのため、自分がどういうことを学びたいのかがはっきりと決まっている生徒が多いという印象を受けました。実際に私のホストシスターは「遺伝子組み換えの実験をした」と言っていました。ホストファミリーとの会話の中でも「将来、どういう職業に就きたいの?」や「大学では何を学びたいの?」という将来に関する質問をされました。この派遣をきっかけに「自分が将来どうなりたいのか」ということについて、よく考えるようになりました。私にはまだ、自分の将来のはっきりとしたビジョンはありませんが、いつかまたフェニックスにいるもう一つの家族に会った時、成長した自分の姿を見せたいです。

今回の派遣を通して、もっと自分から積極的に行動していくことなど、自分の新たな課題をたくさん発見することができました。また、私を支えてくださった方々には本当に感謝の気持ちで一杯です。このような貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



アメリカで学んだこと

姫路市立琴丘高等学校 2年生 村松良馬

アメリカで過ごした2週間は、僕の人生で一番の経験となりました。このプログラムは僕にとって初めての海外渡航でした。入国審査の時、僕は緊張と不安で全く英語を聞き取れず、一緒に行った仲間に助けてもらいました。こんなところでつまずいていて、ホストファミリーの家で2週間過ごすことができるのかと、不安になると共にすごく悔しかったです。そこで、たとえ伝わらなくても積極的に話しかけて、いろいろなことを吸収して帰ろうと決めました。

ホストファミリーはとても歓迎してくれて、さまざまなものに連れて行ってくれました。車で6時間もかけてカリフォルニア州にも連れて行ってくれました。僕は、アメリカ人は家にいるとき、ずっと靴を履いていると思っていたが、ホストファミリーは裸足の時も多くて驚きました。昼食や夕食は、ピザやハンバーガー、メキシコ料理を食べる機会が多かったです。

初めてYAEPのメンバーと会った時、みんなが温かく迎え入れてくれ、すごくほっとしたことを今でも覚えています。他の国の人たちは英語がすごく上手で最初は委縮していました。僕はできるだけ多くの友達を作るために、拙い英語で必死に伝えようとし、伝わったときは自信に変わりました。

一番の思い出はプロム(ダンスパーティー)です。最初は周りの盛り上がりについていけず、日本人はやはり、おとなしいと感じました。しかし、人生で最初で最後のプロムなので、楽しまなければ損だと思い、周りに合わせて踊っているうちに、心から楽しいと思えるようになりました。

今回の派遣は、英語に深く関わる機会を与えてくれ、英語を話すことの大切さと楽しさを教えてくれました。



プログラムを越えた交流

多くの派遣生は、プログラム終了後もホストファミリーと交流を続けています。4月には、ベルギー・シャルルロア市で長年ホストファミリーとして姫路市からの生徒の受入をしてくれている母娘お2人が来姫し、元派遣生と一緒に姫路城を訪ねたり、花見を楽しんだりしながら再会を喜びました。

また、姫路の元派遣生がホストファミリーを尋ねて姉妹都市へ行き、再会を果たすことも少なくありません。このプログラムが素敵な出会いのきっかけであったことを感じます。今後も末永く交流が続くことを願います。



シャルルロア市
ホストファミリー
ニコルさん、カトリーヌさん

キム・ヒチュウさん
平成30年度派遣生として来姫、
松浦さん一家と昌原市で再会

ファン・ヘウンさん
平成30年度派遣生として来姫、
中西さん一家と昌原市で再会

4年ぶりの家族団らん

平成26年度フェニックス市派遣生 亀山琴美

私は、平成30年に大学の姉妹校があるアメリカのケンタッキー州に留学しました。留学中の冬休み期間を利用して、姫路市の海外姉妹都市派遣プログラムが終わってからも連絡を取り合っていたホストファミリーに会うべく、4年ぶりにフェニックス市を再訪しました。ホストシスターの大学に行ったり、バーベキューをしたり、クリスマスにはユニバーサルスタジオハリウッドに連れて行ってくれたりなど、毎日がとても充実していました。また、私の誕生日にはパーティーを開いてくれたり、家族みんなで寝ころびながら映画を見たり、4年前と変わらず、常に家族の一員として接してくれたことが本当に嬉しかったです。

派遣後、ホストファミリーへの感謝の気持ちと、もっともっと彼らと会話を楽しみたかったという悔しい思いが英語を学ぶモチベーションとなり、今まで勉学に励むことができました。実際にホストファミリーから「英語がすごく上手になったね」と驚かれたときは、本当に嬉しかったし、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちがより一層強くなりました。次はホストファミリーが日本に来てくれるそうなので、しっかりと恩返しができるよう、精一杯英語を勉強しておこうと思います。

この派遣プログラムのおかげで、私は忘ることのできない最高の思い出と、最高の第二の家族に出会うことができました。1人でも多くの人にこのプログラムに参加してほしいと思います。きっと人生を変えてくれるような素晴らしい経験ができるはずです。



ホストシスターの
アマンダ・コロナさんと

姫路市交換学生 OB 会の活動

1980 年に 10 名の高校生たちが初めてアメリカ・フェニックス市に派遣されてから 40 年が経ちました。これまでに姉妹都市に派遣された学生は、1,385 名にのぼります。これまでプログラムに参加した派遣生によって組織されているのが「姫路市交換学生 OB 会」です。Facebook などで交流して親睦を深めるとともに、さまざまな形で海外姉妹都市青少年交流事業をサポートしてくださっています。

今年度も、派遣生募集説明会や報告会での受付や写真撮影、また、事前・事後研修での指導補助などに、多くの派遣生 OB がボランティアとして参加してくださいました。OB の方々のご協力のおかげで、派遣事業をスムーズに運営することができたといつても過言ではありません。また、海外姉妹都市からの学生の受入期間中にはイーグレひめじで交流会を開催し、ホストファミリーや学生同士が交流を深めるのに一役買ってくださいました。

今年度の派遣生も、これからは OB としてこの事業をサポートし、さらに盛り上げていってくれることを期待します。



募集説明会



派遣報告会



事前研修
事後研修



交流会① 6月16日 たこ焼きパーティー

来姫中のフェニックス市高校生を招待し、たこ焼きとそうめんを楽しみました。



交流会② 10月6日 手巻き寿しパーティー

来姫中のアデレード市高校生と先生を招待し、手巻き寿しを楽しみました。

**交流会③ 12月22日 クリスマス交流会**

昌原市の派遣生と引率者の来姫に合わせ、キムチ鍋を楽しむ交流会を開催しました。

**派遣生 OB からのメッセージ**

姫路市国際交流センター 主任 濱田祐子

第1期生としてシャンティイを訪問したのは、今から遙か昔のこと・・・。私が中学生の時でした。思えば、このシャンティイ訪問より海外に興味を持ちはじめ、大阪外国語大学を卒業し、いつか国際交流に携わる仕事がしたいと夢見ておりました。市役所に入庁した当時から国際交流センターに配属希望でしたがなかなか配属されず、その間に出産・育児にあけくれ、ようやく2年前に念願がかない国際交流センターに配属になりました。

良き縁と幸運に恵まれ、今年、シャンティイ城と姫路城が姉妹城提携30周年を迎えるこの記念すべき年に、市長を団長とする公式訪問団の一員としてシャンティイを訪問することができました。再びシャンティイに行けるといううれしさと市長に随行するというプレッシャーが混在し、30年ぶりのシャンティイ訪問は、中学時代に訪問した時の印象とは違っていました。シャンティイ城や馬舎など全てが新鮮で、初めて見たように感じました。仕事での緊張感もあり、最初はあまりノスタルジーを感じなかったのですが、シャンティイ市役所表敬訪問時に、当時私とともにシャンティイを訪問した同期生も来ており、初めて生徒だけでホームステイし、皆で楽しく過ごしたあの記憶が蘇り、そのなつかしさで緊張がほぐれました。お互いの近況を報告し合い、派遣後も国際交流に関わる仕事に従事していたことを聞き、感無量になりました。

これからも、多くの生徒の皆さんのが派遣生としてシャンティイをはじめとする海外姉妹都市を訪れ、そこで貴重な経験ができるようサポートしていきたいと考えています。派遣生の皆さんのが今後の活躍を心から願っております。



(1990年度シャンティイ市派遣生)

第3章

海外姉妹都市交流「受入事業」について

第3章

海外姉妹都市から中高生が来姫し、市内見学やホームステイを通して、日本文化や生活習慣、そして姫路について学びます。今年度は、以下の4都市から計27名の中高生が来姫しました。滞在中のホームステイ先は、相互派遣コース（◆）ではペアの姫路市派遣生の家庭、その他のコースでは財団ホストファミリー・ボランティアとして登録されている一般家庭から希望者を募ります。

国・都市	受入日程	期間	中・高	男:女	引率
◆アメリカ・フェニックス市	6月12日（水）～6月27日（木）	16日間	高校生 4名	1:3	なし
中国・太原市	7月10日（水）～7月16日（火）	7日間	中高生 10名	4:6	1名
◆オーストラリア・アデレード市	9月29日（水）～10月11日（金）	13日間	高校生 5名	1:4	2名
韓国・昌原市	12月20日（金）～12月26日（木）	7日間	中学生 8名	0:8	2名

滞在スケジュール ※相互派遣コース（◆）は3、4日間の学校登校あり

平日：財団プログラムに参加（主に9:00～16:00）

土日祝：ホストファミリーと過ごす



財団プログラム

プログラム内容は、滞在期間に応じて決定。市長表敬訪問、姫路城、書写山圓教寺見学、茶道や着物の着付けなどの日本文化体験に加え、市外への一日旅行（奈良・淡路島・広島など）も積極的に取り入れています。

通訳・翻訳が必要な場合は、財団の通訳・翻訳ボランティアや姫路市在住の各国出身者にご協力いただきます。韓国語に関しては、例年「言葉でつながっていこう会（姫路市国際交流センター登録団体）」に依頼しています。

感想文

＜派遣生・引率者＞

各姉妹都市から来姫した派遣生と引率者が、帰国前に感想文を提出します。滞在を終える直前の臨場感ある胸の内が記され、ホストファミリーへの感謝の思いはもちろん、滞在中の彼らの思いを改めて再確認する場でもあります。また、各生徒の日本人や日本文化に対する描写には、大変興味深いものがあります。

母語（英・中・韓）で書かれた文章は、財団の翻訳ボランティアに翻訳を依頼。

相互派遣コース（◆）では、ペアの姫路市高校生も翻訳にチャレンジします。

●太原市 財団の翻訳ボランティア登録者

●昌原市 言葉でつながっていこう会（姫路市国際交流センター登録団体）

◆フェニックス市・アデレード市 ペアの姫路市高校生、翻訳ボランティア、財団



＜ホストファミリー（任意）＞

受入終了後、ホストファミリーが滞在を振り返って書かれた感想文です。受入前～受入後の心境の変化や、受け入れた生徒を通して得られた気づきなどが、さまざまなエピソードと共にづられています。

受入事業まとめ

今年度は、上記の通り、姉妹都市4都市から中高生27名、引率者を含めると32名の受入を行いました。今年度の特記事項としては、フェニックス市高校生の帰国日がG20大阪の開催日程と重なり、関西国際空港付近一帯の高速道路が封鎖という事態に見舞われました。そこで姫路出発を1日早め、空港内のホテルで宿泊し、最終日は空港付近で過ごすという措置を取りました。また、日韓関係の悪化により、12月の昌原市中学生の受入は難しいかもしれないと考えられておりましたが、最終的には、こんな時こそ青少年交流が重要だという関係者の熱い思いから実現し、素晴らしい交流の機会となりました。



アメリカ・フェニックス市コース



6月12日(水)～6月27日(木)



■滞在スケジュール

6月12日	水	来日
6月13日	木	学校登校日① / 欅迎会
6月14日	金	オリエンテーション 茶道体験
6月15日	土	ホストファミリーと過ごす
6月16日	日	ホストファミリーと過ごす
6月17日	月	学校登校日②
6月18日	火	市長表敬訪問 / スポーツチャンバラ
6月19日	水	学校登校日③
6月20日	木	わいわい交流会 / 姫路城見学
6月21日	金	書写山圓教寺 書写の里・美術工芸館見学
6月22日	土	ホストファミリーと過ごす
6月23日	日	ホストファミリーと過ごす
6月24日	月	一日旅行（奈良）
6月25日	火	学校登校日④
6月26日	水	絵手紙体験 / 着付け体験 / 好古園散策
6月27日	木	帰国

今年度は、フェニックスから男子1名、女子3名の計4名が来姫しました。

皆、母国とは大きく異なる日本の文化や風習に興味津々の様子で、こちらの用意したプログラムに精力的に取り組みました。「エアーソフト剣」という柔らかい剣を使って行うスポーツチャンバラでは、本気になりすぎて涙する場面もありましたが、最後には笑顔で記念撮影。抜群のチームワークで笑顔一杯の滞在となりました。

約1か月後には受入をした姫路市派遣生4名がフェニックスを訪れ、彼らとの再会を大いに楽しみました。

■高校生4名

Sophia Alameddin	ソフィア・アラメディン
Monica Brody	モニカ・ブロディ
Bryce Bustamante	ブライス・ブスタマンテ
Natalie Jarrell	ナタリー・ジャレル



受入

フェニックス

フェニックス市高校生



Sophia Alameddin (ソフィア・アラメディン)

姫路への派遣は素晴らしいかったです。日本に来た瞬間から、みんなフレンドリーで親切に迎えてくれました。ホストマザー、ホストファーザーは素晴らしいし、すぐに私を彼らの日常生活に溶け込ませてくれました。

希美は素晴らしいホストシスターで友達でもあり、言葉がうまく伝わらない時も私をサポートしてくれました。ホストファミリーや希美のクラスメート、このプログラムに関わってくださった方々のような素敵な人たちに出会えたことはすごくうれしかったです。

私は神社の見学や奈良の日帰り旅行、書写山に行ったことなど、参加した全ての活動でとても楽しい時間を過ごしました。これら全ての、またとない経験によって、日本の文化をより深く知ることができました。アメリカとは車の走行車線が反対なことや、新しい食べ物を試したこと、興味深いマナーなど、新たなことを学ぶのはとても魅力的でした。

この姫路への派遣は素晴らしいし、信じられないほどのつながりや新たな国を経験する機会を得られたことは、とても幸運でした。私の旅を素晴らしいものにしてくださった皆さんに感謝します！

(翻訳：ホストシスター 石塚ひめな希美、財団)

Monica Brody (モニカ・ブロディ)

「姫路での幸せ」



私はこの夏、2週間日本に滞在し、私と同じ年の、のどかの家でお世話になりました。彼らは私を歓迎してくれるだけでなく、自分たちの子どもの一人として扱ってくれました。ある時のどかのおばあさんがやってきて、「3人の孫（のどか、のどかの妹の楓、私）の浴衣祭りの準備のお手伝いをするのが待ち遠しい！」と言ってくれました。

家だけではなくイーグレでも、まるで自分の学校のように快適に迎えてくれました。財団の職員の方たちは、私たちと一緒に旅行をし、会話をしました。彼らは仕事として私たちの面倒を見てくれていましたが、いつも彼らは業務的な態度ではなく、心から私たちと過ごすことを楽しんでいる印象を受けました。

姫路のレストランや学校、そして私たちが出会った人たちの歓迎は私にとって衝撃的でした。そして、日本にいるだけで幸せだという発見は唯一のカルチャーショックであり、私の滞在をより楽しくしてくれました。

私は日本を去ることを本当に残念に思います。しかし、この思い出をいつまでも忘れないでしょう。そして、いつの日かここに戻ってくることを願っています。

(翻訳：ホストシスター 齊田のどか、財団)



Bryce Bustamante (ブライス・ブスタマンテ)

「姫路での滞在」

私の姫路での滞在はとても楽しいものでした。興味深い文化を体験することは、確かな喜びでした。姫路の人たちはとても親切で、歓迎してくれました。そのうえ、町は手入れが行き届き、清潔で美しかったです。また、たこ焼きや広島風お好み焼のような新しい食べ物に挑戦するのは楽しかったです。

さらに、私にとって姫路市でできた人間関係や思い出、文化の共有は特に重要なものです。忘れられない多くの経験をさせていただき、ありがとうございました。

(翻訳：ホストブラザー 村松良馬、財団)

Natalie Jarrell (ナタリー・ジャレル)

「日本での夏」

私は姫路やホストファミリーとこのような強い関係を築くとは思ってもいませんでした。そして、彼らの寛大なおもてなしには感謝しきれません。姫路市はとても美しい街でした。ホストシスターの学校で新しい人たちと会ったり、ホストファミリーたちとマリオカートをしたり、姫路城のような素晴らしい場所を訪れたり、全ての時間を楽しみました。私の姫路での時間はいつも私の一部になることでしょう。こんな素晴らしい家族にさようならというは本当に心が痛みますが、彼らにはまた会えると思います。

ホストシスターとフェニックスでもっと冒険するのが待ちきれないですが、私はいつも姫路での滞在を懐かしく思うでしょう。

(翻訳: ホストシスター 大島葉月、財団)



フェニックス市高校生ホストファミリー感想文

ホストファーザー 石塚一博

「ソフィアが来てくれました」

フェニックス市からソフィアが我が家に来てくれたことは、大変特別で幸運な出来事でした。恐らく日本に来て最初の数日間は、環境の違いに戸惑ったり、時差の影響で疲れていたと思いますが、そう感じさせない程、彼女はいつの間にか我が家になじんでいたと思います。

アメリカからのゲストを迎えるにあたり、色々心配をしておりましたが、ソフィアに関しては全くと言っていいほど必要ありませんでした。いつも笑顔で新しいことにチャレンジするのを楽しんでいる様子でした。彼女が我が家に来てから色々と質問をしたのですが、面倒くさがる様子もなく答えが返ってきて、とてもうれしく感じました。

今思えば、大変多くのことで共通する部分がありました。私の娘とは身長がほぼ同じで、バスケットボール部に所属していることや、ピアノが弾けてスペイン語が話せること、お互いに家で犬を飼っているということ。彼女が最初に我が家に来た日から、私のもう1人の娘、犬のチエリーともすぐに仲良くなっていました。ですから、彼女は我が家にとつて、大変特別な人物であったと思えるのです。

滞在期間中、彼女が充実した時間を過ごせるように、私たち家族もベストを尽くしたつもりですが、至らぬ点もあったと思います。今、彼女が無事にフェニックス市の家族の元へ戻ったことをうれしく思います。ソフィアが姫路の我が家に来てくれて本当に良かった、会えてよかったと感謝しております。

このような機会を与えてくださった財団のスタッフの皆さん、今回出会うことができ、情報を共有してくださった他の派遣生のご家族の皆さんに感謝しております。間もなく私の娘が他の派遣生たちとソフィアのいるフェニックス市へ旅立とうとしております。是非、何事にも全力でチャレンジしてきてほしいです。



受
入

フェニックス

ホストマザー 村松幸子

3年前、娘がこのプログラムに参加させていただいたときに「僕も高校生になつたら絶対に行きたい！」と言っていた息子が、今回参加させていただくことになりました。

このプログラムに参加させていただき、更に英語への関心が増した娘は、現在アメリカに留学中のため、我が家はほとんど英語が話せない私たち夫婦と、息子の3人での受入となりました。

派遣生の名前は、ブライス君。息子と同じ年とは思えない、とても落ち着いた雰囲気の少年でした。私たちは、知っている限りの単語を並べ、何度も繰り返し聞いたり、翻訳アプリを使ったり、ジェスチャーでコミュニケーションを取りました。「伝えたい！」という気持ちは言葉の壁を越えました！

ブライスを迎えに行き、帰宅してから息子が帰ってくるまでの1時間は、おやつタイムです。ブライスがスーパーで選んだレモネードを毎日2人で飲みながら、彼が好きなワッフルやスイカを食べて、その日体験してきたことや、お昼に食べた物の写真を見せてもらって過ごしました。それが私の毎日の楽しみでした。

日本語は全く知らなかったようですが、2日目にして「こんにちは」「いただきます」など9個の言葉をスラスラ言えるようになりました。そして更に1週間後には「すごい」「多分」「エビの天ぷら」など20個くらいの単語をマスターしていました。私たちが使っている言葉を聞き返して意味を聞き、すごいスピードで習得していく姿には本当に驚きました。

来日前から息子とLINEでやりとりをし、行きたい場所を決めていたので、週末には広島、京都、USJに行きました。そして、ゆかた祭りには、ホストファミリー全員で行き、いつも協力し合いながら楽しめたことに感謝しています。

最後に支援していただいた財団の方々に、深く感謝申し上げます。



ホストマザー 齊田かづ子



5月6日に娘のどかは試験を受け、心の準備もできないまま、あれよあれよと日にちは過ぎて行き、試験に合格してしまいました。本当に6月12日にモニカは我が家に来るのだろうか？信じられない気持ちのまま、家の準備も間に合っているのか？訳の分からぬままその日はきました。娘はインスタグラムやLINEを通じて、モニカとやり取りをし、モニカもそれを頼りに準備をして来日しました。来日前に一度、電話で話をし、娘が物おじせずに話している姿には驚かされました。

イーグレで初めてモニカと対面した印象は、電話の時と変わらない、気さくでお喋り好きな可愛い女の子でした。子どもたちがお互いのペアの生徒たちと仲良く英語で会話し、まるで同じ学校のお友達かと錯覚しそうになるほど打ち解けていてびっくりでした。その日はそのまま各家庭に帰宅、モニカも家に着くなり夕飯となりました。何が口に合うか分からなかったので、カレーを用意したら、意外や意外、これが大好評！モニカは眠さと疲労があったにもかかわらず、たくさんお喋りしてくれて、賑やかな時間となりました。夕食の後も子供たちはUNOをしたりして、小6の妹もコミュニケーションが取れたようでした。モニカの気さくで大らかな性格のおかげで、戸惑うことなくすぐに打ち解けて、私たちは2週間本当に楽しく過ごすことができました。食事も何でもチャレンジして食べてみる！と言ってくれて、刺身もおいしいと言っていました。ワカメや海苔、刺身以外の魚系はやはり苦手なようでした。通訳は娘頼りで、娘が居ないと会話が盛り上がりはず申し訳なかったと、そこは心残りです。我が家はテレビの音だけが流れているような静かな家なのですが、モニカがいた2週間は本当に賑やかでした。娘のチャレンジと財団の支え、他の3家庭のホストファミリーの皆様に助けていただけたこと、そしてモニカとの出会いに感謝いたします。本当に有難うございました。



中国・太原市コース



7月 10 (水) ~ 7月 16 日 (火)



■滞在スケジュール

7月 10日	水	来日 / 歓迎会
7月 11日	木	姫路城見学 / 白鷺小中学校訪問
7月 12日	金	市長表敬訪問 / 茶道体験
7月 13日	土	ホストファミリーと過ごす
7月 14日	日	ホストファミリーと過ごす
7月 15日	月・祝	一日旅行 (淡路島)
7月 16日	水	帰国

今年は太原市外国語学校から、日本語教師の郭先生と10名の中高生が来姫しました。10名は全員、日本語を専攻していて、とても流ちょうに日本語を話す生徒もいました。日本語のみでなく、日本文化にも興味津々で、日本の民話や神話にも詳しく、鋭い質問に返答に困ることもありました。

初日の歓迎会では、「幸せなら手をたたこう」や「世界に一つだけの花」を踊り付きで歌ってくれたり、書道のパフォーマンスを披露してくれたりと、盛り上げてくれました。

姫路城は残念ながら、小雨の降る中での見学となりましたが、ガイドさんから「多羅葉 (たらよう)」というハガキの元になったという文字が書ける不思議な葉っぱを1人1枚ずつもらい、思い思いの文字をしたためました。

一日旅行で行った淡路島では、大迫力の渦潮を見ることができました。海に面していない太原から来た彼らにとって、海岸での水遊びも楽しい時間だったようです。

日本の大学に進学を考えている生徒もいました。是非、夢を叶えて、姫路を訪れてほしいものです。そして、ホストファミリーとも交流を続けてもらえたなら嬉しいです。

■中高生 10 名 + 引率者 1 名

吳亦菲	ウー イーフェイ
任鵬浩	レン パンハオ
賀瑾蕙	フー ジンフオイ
史錦超	シー ジンチャオ
王兆睿	ワン チャオルイ
張紫榮	チャン ズーロン
李璐秋	リー ルーチュ
郝怡然	ハオ イーラン
牛子博	ニュー ズーボー
劉書尘	リュー シューチエン
郭志勤	グオ ジーチン



受
入

太
原

中国・太原市中高生感想文

吳亦菲（ウー・イーフェイ）

「色々感じたこと」

日本に来てからの間、皆さんとても良くしてくれました。私はもともとおしゃべりなタイプではないのですが、会話がたくさんできました。ホストファミリーの皆さんともいっぱい話をすことができました。日本と中国は似ている部分がたくさんありますが、異なる部分も多くあります。文化の面では共通する部分もあり、言葉はどちらも漢字を用いるため、交流しやすいと感じました。聞いて分からることは、漢字を書いて伝えてもらうと、大体は理解することができます。私たちにとって、漢字は言葉のコミュニケーションの架け橋です。

この1週間、さまざまな場所へ行き、たくさんの面白いことがありました。姫路城はとても美しく、市民の皆さんはそれを誇りに思っています。周辺の景色も負けず劣らず美しく、緑でいっぱいでした。それから白鷺小中学校を訪れました。みんなとても温かく迎えてくれて、日本の文化に関する話をたくさん話してくれました。学校のみんなとの交流はとても楽しかったです。日本の部活動はとても意義のあるもので、みんなとても楽しく活動していました。更に、日本の茶道を学びました。茶道は非常に静かな時間で、心が穏やかになっていくのを感じました。先生の点てた抹茶はおいしかったです。また淡路島への旅行ではとても広大な海を見ることができ、渦潮の流れは壮大で素晴らしい眺めでした。

期間中、たくさんのおいしい食事も楽しみました。日本の素麺、ラーメン、そば、それからお寿司、卵かけご飯、月見うどん等々、どれも非常においしかったです。中でも一番おいしかったのは天ぷらです。おいしく食べるということはとても幸せなことです。日本の食べ物はあっさりとしていて、特別の味わいがありました。

たくさんの友達もできました。みんなとても仲良くしてくれました。最初から気まずい雰囲気になることもなく、心から楽しく遊べる友達と出会えたことは本当に嬉しかったです。

ホストファミリーの皆さんもとても親切で、一緒にたくさんの写真を撮りました。ホストシスターの友美子さんとはとても楽しく遊びました。友美子さんはとてもかわいいかったです！ホストマザーもかわいい方で、そして時に我慢強くサポートしていただき、2人で、いつも私が分からない言葉をゆっくり丁寧に説明してくれました。ホストファーザーは口数の多い方ではありませんでしたが、とても心優しい人柄であることが感じられました。1週間、ホストファミリーの皆さんにいっぱい迷惑をかけましたが、皆さんの心遣いに心から感謝します。

財団のスタッフの皆さんもとても素晴らしい、優しくしてくださいました。いろいろお世話になりました。私が日本の昔話に興味を持っていると知り、わざわざ資料を探して渡してくれました。本当にありがとうございました。

この1週間は、すべて忘れられない思い出です。皆さんありがとうございました。

(翻訳 : S.I)

任鹏浩（レン・ベンハオ）

「もっとも大切な感情」

私は初めて日本にきました。とても良い家族に会えて本当に良かったです。みんな優しく、面白く、できる限りのことをして私を世話してくださいました。本当にありがたいと思いました。

日本に来てから、日本語の使い方、例えば「遠慮しないで」という言葉はどんな場合に使うのか、ということをホストファミリーに教えてもらいました。日本の文化については、茶道の「わびさび」や季語のことが少し分かるようになってきました。日本と中国の違いも少しわかるようになってきました。いい勉強になりました。日本料理を食べたり、姫路城などの日本の有名な観光地に行ったり、みんなと一緒に遊んだりして、とても楽しい1週間を過ごしました。

日本に来て、日本の礼儀正しさを感じました。小さいところでも丁寧にしています。それから、日本人はみんな親切で、何か困ったことがあったら、すぐ助けてくださいます。そして、日本の自動化はとても進んでいます。労働力不



受
入

太
原

足も、自動化が進めば解決できると思います。とても便利だし、問題も解決できるし、とてもいい方法だと思います。

この1週間で、最も大切だと感じたのは皆さんとの友情です。ホストファミリーとの友情、他の日本人との友情はとても素晴らしい、中国に帰っても、とても良い思い出になると思います。これからも、皆さんとの交流を続けていきたいです。

(本人が日本語で執筆)

贺瑾蕙（フー・ジンフォイ）

「新しい体験」

まず、この事業の主催者とホストファミリーの皆さんへ、私の感謝の気持ちを申し上げたいです。この1週間、誠にありがとうございました。

時間は早いもので、この1週間は短かかったですが、本当に楽しかったです。ホストファミリーの皆さんに会えて本当に良かったと思います。私が聞き取れなかった時に、ゆっくり言ってくれたり、分からなかった時も真剣に説明してくれたりした姿はずっと覚えています。これはきっと一生忘れない経験になると思います。

日本には、今までに2回来ましたが、ホームステイは今回が初めてです。日本のアニメによく出る家族の様子を自分自身でしみじみ感じた時、まるで夢のようでした。ゆっくりした口調で話してくれるやさしいママ、元気で面白いパパ、かわいくて無邪気な妹、それからおとなしくてしっかりしているお姉ちゃんの姿は、アニメで見たそのままでした。実際にこんな家族に仲間入りして、みんなと一緒に喋ったりするのは楽しかったです。

日本人の繊細さにも感心しました。図書館の本はきちんと分類されていて、本の置かれた場所も分かりやすく、地図に示していました。特に「教科書に出たもの」というコーナーに興味がありました。それから、他人の気持ちに気を配っている点にも気付きました。お店はお客様のためにいろいろ工夫してサービスをしています。家族のみんなも私のことを考えて、いろいろアドバイスをしてくれたりしました。

改めて私の感謝の気持ちを申し上げます。誠にありがとうございました。

(本人が日本語で執筆)

史錦超（シー・ジンチャオ）

「特別な経験」

太原から日本の姉妹都市の姫路に来て、交流しました。ここで、親切なホストファーザー、ホストマザーと会いました。ホストファミリーと財団の方たちのおかげで、1週間を楽しく過ごしました。

私は太原市外国語学校の高校1年生です。中学1年生から日本語の勉強を始めて、今はもう4年目です。小さい時からアニメが大好きでした。例えば、「ドラえもん」「名探偵コナン」が大好きです。アニメで日本についてのことをいろいろ知り、日本語に興味を持ちました。そして、幸いなことに、太原市外国語学校に入り、日本語を勉強しています。せっかく日本語を勉強したので、自分の目で本当に日本を見て、日本人の生活を体験したいと思っていました。

今回の交流は私の願いを満たしてくれました。日本での滞在中にいろいろな人にお世話になりました。特におとうさん、おかあさんはとても親切でした。いろんな場所に連れて行ってくれて、いろいろな食べ物を買ってくれました。お風呂、畳も体験しました。本当の日本人の生活を私に提供してくれました。そして、私と一緒に掬星台、圓教寺、大阪のUSJなど、いろいろな所に行って遊びました。それにJRにも乗りました。うどん、そば、お寿司、ラーメンなどいろいろな食べ物を私に買ってきて食べました。おとうさん、おかあさん、本当にありがとうございました。一緒に食べたり遊んだりして、本当に楽しかったです。

みんなで一緒に姫路城に行きました。白鷺小中学校に見学に行って多くの友達を作りました。市長にも会ってプレゼントをもらいました。それから茶道も体験しました。自分でお茶を点ててみて、楽しかったです。海も見ました。

日本での特別な経験は私の視野を広げ、日本語への興味も深まりました。最後に、私は財団の方々、両親、そして一緒に行った皆さんに「本当にありがとうございます」と言いたいです。

(本人が日本語で執筆)

王兆睿（ワン・チャオルイ）

「姫路市に来てよかったです」

最初、日本の皆さんは私たちに歓迎会を催してくれました。とてもうれしかったです。その後、毎日私たちと一緒にいろいろな観光地や学校に行ってきました。本当にうれしかったです。それから、皆さんと一緒に商店街へ買い物に行きました。途中で、財団の方たちは私たちの写真をたくさん撮ってくれました。本当にありがとうございました。



私のホストファミリーは黒川さん家族でした。この家族の皆さんもとても優しかったです。直樹さんは私のお父さんのようで、加奈さんは私のお母さんのようでした。いつも私に分からぬ文や単語を説明してくれました。そして、毎日おいしい料理を作ってくれました。それから、書写山に連れて行ってくれて、お守りを買ってきました。とてもうれしかったです。そして、稜央ちゃんと緑吹ちゃんもとても可愛い子どもたちでした。スポーツがとても得意で、特にサッカーは上手でした。家では、私たちは一緒にゲームをしました。とてもうれしかったです。それに、毎日加奈さんは洗濯をしたり、お風呂の準備をしたりしてくれました。私は黒川さんの家族が大好きです。黒川家の皆さんは私の家族で、私にとってとても大切な人たちです。私はこの家族を愛しています。滞在中、本当にありがとうございました。

私たちは姫路城を観光して、姫路城の歴史も教えてもらいました。そして、学校にも行きました。中学生と一緒に授業を受けました。多くの人と友達になりました。それから、市長にも会いました。市長は本当に親切な人だと思いました。それに、茶道についても学びました。最後に、私たちにいろいろなプレゼントをくれました。本当にうれしかったです。そして、皆さんは私を助けてくれて、私の日本語の交流能力も上がりしました。ですから、私は皆さんに「本当にありがとうございました」と言いたいです。

(本人が日本語で執筆)

张紫荣（チャン・ズーロン）

「楽しいホームステイ」

日本の「ドラえもん」などのアニメがきっかけで、私は日本が好きになりました。そして、学校の活動でこのホームステイプログラムに参加しました。日本に来るのは初めてではありません。私のおじさんは日本の松山に住んでいます。以前、中国の夏休みと冬休みに広島、北海道、東京に行ったこともあります。

今回のホームステイのおかげで、日本人の生活を体験することができました。知らないことがたくさんありました。この1週間を通してたくさんのこと学びました。日本は環境の良い所で、至る所に緑があります。スーパーの野菜や果物の包装は丁寧で、長ねぎまでもがきれいに並んでいます。ドラッグストアの商品には目がくらんでしまいます。探している風邪薬もシャンプーも、それらのあるべき所にきちんと置かれています。私は商店で日本の整然さを感じました。

空港からのバスを降りると、すぐにホストファミリーが温かく出迎えてくれました。緊張感がなくなり、これから6日間を楽しんで過ごそうという気持ちに変わっていきました。自由に活動する週末の2日間で、ホストファミリーと一緒にきれいな浴衣を着て京都に行きました。京都では浴衣を着ている人が多く、日本の伝統文化を感じられました。京都観光は買い物をしたり、食べ物を食べたりして疲れましたが、とても楽しかったです。

ホストファミリーと一緒に、うどんや天ぷらなど、さまざまな日本料理を食べました。刺身のいかもおいしかったです。最後にホストファミリーに感謝します。いろいろと迷惑をかけましたが、この6日間は楽しかったです。

(本人が日本語で執筆)

受
入

太
原

李璐秋（リー・ルーチュ）



「楽しい思い出」

今回の滞在は本当に楽しかったです。ホストファミリーの菅原家の皆さんには優しくて、とても親切でした。

4日目、奈良に行き、唐招提寺や東大寺や平城宮や法隆寺へ行きました。東大寺の前に道ばたに鹿がたくさんいて少し怖かったです。唐招提寺は中国の鑑真が日本にやって来て建てたそうです。観音菩薩の彫像も見ました。本当にすごかったです。大仏もとても大きくて、素晴らしいかったです。ホストシスターの楓さんいとこのちさとさんと、きょうごさんに会いました。2人ともすごく面白くて、かわいかったです。その日の夕食はしゃぶしゃぶを食べました。おいしかったです。

5日目、カラオケに行きました。私は歌が好きなのでうれしかったです。楓さんといっしょに「朋友」と言う歌を歌いました。ホストブラザーのそうちちゃんは大きな声で歌っていました。ホストマザーのまさみさんとホストファーザーのかしさんは私の好きな「スラムダンク」の主題歌を歌っていました。まさみさんもかしさんも歌がとても上手でした。バームクーヘンとタコ焼きを買ってもらって食べました。タコは少し苦手だったけど、おいしかったです。その後、お寿司を食べました。回転寿司ではなく、お寿司が車で運ばれるシステムで面白かったです。天ぷらのお寿司が一番好きです。うどんもおいしかったです。

最後の日には、太原市外国語学校の友達と先生、財団の人たちと一緒に淡路島へ行きました。船に乗って、渦潮を見ました。天気が良く、景色も良かったです。それから砂浜へ行きました。きれいな石を集めて、気持ち良かったです。将来、もう一度姫路に来たいと思います。

(本人が日本語で執筆)

郝怡然（ハオ・イーラン）

「幸せな思い出」

日本に来たのはこれが初めてだったので、ちょっと緊張していました。私たちは姫路城を見学したり、白鷺小中学校の生徒と一緒に勉強したり、茶道体験をしたり、市長に会ったり、淡路島で渦潮を見たりしました。本当に楽しかったです。動物園へも行きました。動物園にはライオンやカバなどのいろいろな動物がいました。動物についてたくさんの知識も身につきました。

一番忘れられないのは茶道体験です。本当にたくさんの礼儀が分かりました。

私は日本料理を食べたことがあります。日本料理の種類はたくさんあり、おいしかったです。私も自分で日本料理を作りたいです。

ホストファミリーは優しかったです。最初、みんなと交流することがとても難しかったです。ホストシスターのまりこちゃんの話が全く分かりませんでした。しかし、それからまりこちゃんはゆっくり話してくれ、分からぬ言葉を説明してくれました。ほとんど理解できるようになりました。これは大きな進歩だと思いました。

初めての一人旅でした。自分で靴下などを洗ったり、まりこちゃんのお母さんといっしょにギョーザを作ったりしました。本当にうれしかったです。

今回の活動は私にとって、たくさんの学びになりました。よい習慣が身につきました。機会があれば、もう一度ここに来て、もっと勉強したいです。

(本人が日本語で執筆)

受
入

太
原

牛子博（ニュー・ズーボー）



「日本での7日間」

イーグレひめじに到着すると、ホストマザーの久美子さんが見えました。ホストマザーに会って、とても親切な方だと思いました。私は日本語が上手く話せません。久美子さんはとても簡単な言葉を使って親切に私と話してくれ、私はすぐに理解することができました。

日本に来て、初めての日でした。日本の皆さんは盛大な歓迎会を開いてくれました。姫路に来て、日本人と交流した時、一番印象に残っているのはあいさつです。朝は「おはよう」と言います。夜は「こんばんは」と言います。食事をするときには「いただきます」「ごちそうさま」と言います。買い物のときはみんなきちんと並んでいました。私はとても驚きました。

日本はとても美しいです。道は広くて清潔です。都市の緑化はすばらしいです。ここの空気はとてもいいです。中国よりいいです。日本人の第一印象は謙虚です。

姫路には多くの観光地があります。姫路城は有名な世界遺産です。日本のお寺も有名です。お寺では人々は願いごとをすることができます。毎日たくさんの人人がお店を見物します。

私は姫路の科学館と美術館で、自然や宇宙やいろいろなことを勉強しました。とても幸運であると感じています。

(本人が日本語で執筆)

劉书尘（リュー・シューチェン）

「忘れられない滞在」



今回の滞在は本当に楽しかったです。いろいろな日本らしい景色を見て、本当の日本人の生活を体験して、それから学校で習えないことを習って、一生忘れられないと思います。

7月10日の午前、大阪の関西国際空港に着きました。とてもかわいくて、関西らしかったです。姫路に着き、ホストファミリーの皆さんに会いました。優しくて、親切でした。そして、ホストマザーの由衣さんはぜんざいと特別なパンを食べさせてくれました。おいしかったです。

7月11日の午前に日本の国宝であり有名な姫路城を見学しました。すごく壮観で、素晴らしいかったです。午後は白鷺小中学校に行って、生徒たちと一緒に英語の授業を受けて、面白かったです。

7月12日、午前中に市役所へ市長表敬をしに行きました。そこで私は市長さんに「ごみのリサイクル」について質問をしました。緊張しましたが、市長さんはとても優しかったです。午後は自分で抹茶を点てました。

7月13日、ホストファミリーと一緒に日本玩具博物館に行き、いろいろな古いおもちゃを見て、自分で「隠れ屏風」という面白いおもちゃを作りました。すごく楽しかったです。昼食の時、初めてたこ焼きを作りました。とてもおいしかったです。

7月14日、ホストファミリーと一緒に家の近くにある太陽公園に行きました。世界中の有名な観光地、例えば兵馬俑坑、万里の長城、天安門広場、特に、太原市の双塔寺などの様子が見られて楽しかったです。午後に行った水族館はいろんなきれいな魚がいて、珍しかったです。

7月15日は淡路島に行って、すごく大きな渦巻きを見て、楽しかったです。
もし機会があったら、ぜひもう一度姫路に来たいと思います。

(本人が日本語で執筆)

太原市外国語学校 引率 郭志勤（グオ・ジーチン）

「姫路市へホームステイに来て、よかったです」

今回、姫路へ来るチャンスをくださった財団の理事長をはじめ、スタッフの方々にも感謝します。そして、ホストファミリーの畠さんご一家にもいろいろお世話になり、どうもありがとうございました。

この1週間の滞在は短く、あっという間に過ぎました。しかし、本当にいい思い出になつて、忘れられない記憶となりました。

この1週間で、日本のおいしい料理もたくさんいただきました。例えば、オムライス、カレーライス、お刺身や蕎麦など、全て本当においしかったです。

一番印象深かったのは美しい姫路城です。さすが世界遺産で、すごくきれいでいた。ガイドさんが熱心に紹介してくださいましたおかげで、昔の人は本当に知恵があったのだと感じられました。裸足で城内を歩きながら見学するのは大変でしたが、とても良い勉強になりました。古いものを守るために、いろいろとした工夫があり、感心しました。

月曜日、海の日に淡路島へ案内してもらいました。きれいな海を見られたし、壮大な渦潮も見ました。世界で一番長い吊橋である明石大橋を見ながら「すごい、すごい」という言葉も生徒たちから聞こえてきました。

プログラム以外では、京都へ行って、雨の中を歩きながら鴨川を見ました。ちょうど祇園祭中だったので、日本の文化について少し理解しました。

一番感心したことは、ホストファミリーの皆さんです。本当に優しい人たちで、子どもの教育に熱心に力を入れる姿が印象的でした。慣れてきた頃に帰国する日が来てしましました。寂しい！また来たいです。

(本人が日本語で執筆)



太原市中高生ホストファミリー感想文

ホストマザー 黒川加奈



息子達に異文化に興味を持って欲しいなあという思いからホストファミリーに登録させていただきました。

今回、職員の方から「受け入れていただけませんか？」とお電話をいただいた時、すごく嬉しい気持ちになったのを覚えています。中国語も喋ることができず、頼りない英語力で大丈夫かな？と不安に思う気持ちもありましたが、なんとかなるだろう！とホストファミリーをさせていただくことにしました。

どんな生徒さんなのかな？日本語は通じるかな？とワクワクしながら、イーグレに迎えに行きました。初対面の時はお互いに緊張していて、なんともいえない空気が流れましたが、すごく日本語が上手で、ほっとしました。

なるべく特別なことはせず、普通の生活をして過ごしました。息子たちとホームランドームへ行き、サッカーやバスケットボールをしました。息子のお友達が遊びに来た時には、中国語を教えてもらいました。息子たちもお友達も目をキラキラさせながら、中国語を教わっていました。週末は書写山へ行きました。あいにくの天気で少し残念でしたがゆっくりとした時間の流れの中で、彼ともゆっくり話をすることができ、すごく楽しかったです。

1週間という短い期間でしたが、すごく楽しく貴重な時間を過ごさせていただきました。息子たちも「また、ホストファミリーやりたい」と言ってくれて、今回受入をして本当に良かったと思いました。

機会があれば、ぜひまた受入をさせていただきたいと思っています。今回、このような素晴らしい機会を与えてくださった財団の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

受
入

太
原

ホストファミリー 内海家

ホストファミリーとしての受入が決まって、まずメールで連絡をしました。名前の呼び方を聞くと、「『ゴ イヒ』と呼んでください。」と丁寧な日本語で返事がきました。興味のあることや日本でやってみたいことを聞くと、絵を描くことや本を読むことが好きで、図書館に行ったり、買い物をしたり、日本の日常生活を体験してみたいということでした。そして、初めて対面した時は、人懐っこい笑顔に謙虚な人柄で、すぐに打ち解けることができました。到着した日の夜に、イヒさんに通訳をしてもらって、中国のご両親とビデオ通話でお話をしました。

イヒさんは日本語がとても上手で、滞在中はすべて日本語で会話しました。図書館や美術館、歴史博物館では日本の文化に触れ、日本語の勉強になるからと本に見入っていました。科学館では自然科学にも関心を見せていました。あいにくの曇天でしたが、天体望遠鏡を覗き、星空に思いを馳せました。書店では、お目当ての日本の作家の本を購入していました。主人には「日本の古い伝説を知っていますか?」と尋ね、古事記の話もよく知っていました。また日本語の文法の話もしていて、学校でとてもよく日本語の勉強をしていることがうかがえました。他にも好古園散策や和菓子作りを体験したり、うどんや天ぷら、お寿司を食べたり、家で浴衣を着たりと、色々楽しみました。中でもスーパーマーケットでの買い物を一番楽しんでいたのではないかと思います。

蒸し暑い季節の滞在で疲れを出して体調を崩したり、慣れない国で気を遣うこともあったと思うが、そこは若さと前向きな気持ちで、生の日本の日常生活を楽しんでもらうことができたと思います。イヒさんのおかげで、太原市の高校生が日本のことと一緒に勉強していることを知ることができました。そして中国と日本の言葉や食べ物や文化が似ていることがよくわかりました。お隣の国に友達がいるなんてすばらしいです!イヒさん、我が家に来てくれてありがとうございます!



ホストマザー 畠由紀子

太原からの受入は今回で3回目になります。しかし、引率の先生の受入は初めてでした。太原市外国語学校の日本語の先生でしたので、会話での苦労は一切ありませんでした。明るく元気で、気配りのできる先生でした。「迷惑ではないですか?」「大丈夫ですか?」のような言葉が自然に出る方でした。京都の大学に娘さんが通われているところで、週末は電車に乗って京都へ行かれ、親子の貴重な時間を過ごされたようです。

先生と一緒に過ごした夜は、中国語を教えてもらったり、ご家族の話を聞かせてもらったり、楽しい時間を過ごすことができました。先生は「是非、水餃子を食べてほしい!」と、お疲れのはずなのに水餃子を作ってくださり、家族みんなで本場の味をおいしくいただきました。作り方をしっかり教えてもらったので、先生が帰国されてから、手作り水餃子に挑戦しました。滞在時間が短かったので、慣れてきたころにお別れだったのがとても寂しかったです。

お見送りでは、毎回のことですが、涙があふれてしましました。また日本か中国で再会できればいいなと思います。財団の皆様には、色々な素敵なか出会いの機会をいただくことに深く感謝致します。





オーストラリア・アデレード市コース



9月 29 日 (日) ~ 10月 11 日 (金)



■滞在スケジュール

9月 29 日	日	来日 / 歓迎会
9月 30 日	月	学校登校日①
10月 1 日	火	市長表敬訪問 / 茶道体験
10月 2 日	水	姫路城見学 / 武道体験
10月 3 日	木	学校登校日②
10月 4 日	金	書写山圓教寺 書写の里・美術工芸館見学
10月 5 日	土	ホストファミリーと過ごす
10月 6 日	日	ホストファミリーと過ごす
10月 7 日	月	野里小学校訪問 / 日本玩具博物館
10月 8 日	火	一日旅行 (広島)
10月 9 日	水	学校登校日③
10月 10 日	木	わいわい交流会 着付け体験 / 好古園散策
10月 11 日	金	帰国

アデレード市のブラックウッド高校から生徒 5 名と引率 2 名が来日しました。夏の派遣以来約、2か月ぶりの再会となりました。

今回新たなプログラムとして、姫路市立野里小学校に行きました。6 年生のクラスを訪問し、アデレード市のプレゼンテーションをしたり、子どもたちの質問に答えたりしました。休み時間には小学生と一緒に校庭でドッジボールをしました。

一日旅行で訪れた広島では、平和資料館で被爆体験伝承講和を聞き、広島の歴史について学習しました。その後、アデレードから持参した「千羽鶴」を平和公園に奉納し、世界平和の祈りを捧げました。

週末には、ホストファミリーと大阪や地元の秋祭りへ出かけるなど、日本文化を満喫しました。

■高校生 5 名 + 引率者 2 名

Kavitha Anandasivam	カヴィサ・ アナダシヴァム
Lucy Boehm	ルーシー・ボエム
Paige Harrison	ペイジ・ハリソン
Kelsey Murrin	ケルシー・ムリン
Edward Smith	エドワード・スミス
Meri Holt	メリ・ホルト
Kim McGough	キム・マッゴウ



受
入

アデレード

オーストラリア・アデレード市高校生および引率者感想文

Kavitha Anandasivam (カヴィサ・アンダシヴァム)

「私の姫路滞在」



姫路での体験は、私たち皆にとって終わりのない挑戦でしたが、思い出深いものとなりました。グループとして共にその挑戦を乗り越えて成長し、違う文化や生活を体験することができました。日本の文化は、尊敬と誇りの上に成り立っていると知りました。それは、"オーストラリアの在り方"と驚くほど違っていました。交通やトイレなどは、より合理的で清潔です。反対に、ペットボトル飲料から個人の持ち物まで、全てに、必要量以上のプラスチックが使われていたことにはショックを受けました。オーストラリアでは、エコに対する意識が進んでいるので、この日本の状況を知り驚きました。しかし、ビン製品は少なく、ポイ捨ても少ないことが、日本人の価値観を表現していると感じました。

書写山では、とても素敵な経験をしました。騒々しい市街地から離れ、姫路の違う一面に浸ることができました。今回、姫路城や圓教寺の建築を見て、自分は建築家としての道を進みたいと思いました。僧侶に会い、瞑想することで、何が重要なことなのか、自分を見つめ直すことができました。USJは、スリリングな時間で、私自身の心地よい居場所から脱出する機会もありました。友達からのプレッシャーもあり、乗るなんて夢にも思っていなかった乗り物にも乗り、恐怖心を克服しました。広島では、原爆で被爆した方々の地獄のような写真を見たり、証言を聴いたりしました。その後の世代の方々にも壊滅的な影響を与えていたことは目を見張るものでした。そんな風に人が人を傷付けることができるということを知るのは痛々しいことでした。

日本の多くはとても近代化していますが、茶道や芸者、建築物など伝統的な日本の文化が今も残っています。そして、依然として過去に捕らわれている面もあるように感じました。例えば、学校での教え方や、世界が向かい合っている異常気象に対する無関心さなどです。

もし、また日本に来られたら、東京とUSJ、そして自然豊かな場所に行ってみたいです。滞在中、一番楽しんだのは食べ物です。日本で一番恋しくなるのは食べ物だと思います。

(翻訳：十倉若菜)

Lucy Boehm (ルーシー・ボーム)



私の姫路での滞在は本当に素晴らしいものでした。ホストシスターの未来の家族は私をとても歓迎してくれました。姫路での2週間の滞在中にたくさんのこと経験でき、とても幸せでした。姫路滞在で一番良かったのは、書写山に行なったことです。書写山は美しい場所でした。山歩きは楽しく、景色も素晴らしいです。頂上に到着した時には、建造物に圧倒されました。釘を全く使わずに作られていると聞き、驚きました。書写山はとても崇高で美しい場所で、訪れることが出来て良かったです。

また、広島への訪問は感心することばかりでした。訪問するまで、私は広島の戦争の歴史についてあまり知りませんでした。しかし、今は多くのことを知っています。当時、生後4か月だった被爆者の話を聞きました。それは信じられないような話でした。

姫路城は私が今まで訪れた中で一番美しい建物でした。城の外側は細部まで美しかったです。城の中を歩きながら、たくさんの窓から姫路市のさまざまな違う景色を見ました。姫路は山に囲まれたとても美しい場所です。多くの良い所や発見があり、姫路のドライブが楽しかったです。

この旅では、食べ物も大きな楽しみでした。そして、色々なものにチャレンジしました。ホストマザーは毎晩、夕食を作ってくれて感謝しています。彼女はとても料理上手でした。この2週間、未来と未来の素敵な家族と一緒に過ごせたことが一番の経験です。滞在中に彼女たちが私にしてくれたことには、どんなにお礼を言っても言い尽くせません。姫路での滞在は本当に素晴らしい、将来姫路に戻ってくるのが待ちきれません！

(翻訳：ホストシスター 岡山未来、財団)

受
入

アデ
レード

Paige Harrison (ペイジ・ハリスン)



「旅の始まり」

この旅は、私たち全員にとって、初日から挑戦の連続でした。そして、それは私たち一人一人をより強くするものであり、それぞれが異なる方法で成長することができました。関係者の皆様の多大なサポートにより、私はこの旅を本当に楽しみ、多くの思い出を作りました。

「I've planted the seed (種を撒きました)」「Now and Beyond (未来に向けて)」

15歳で外国へ行けるなんて、何と素晴らしい機会だったでしょう。この旅は私に、世の中にあるチャンス、そして私にとっての未開の地を知るきっかけを与えてくれました。この旅は、多くの旅の始まりになるでしょう。できれば、いつかまた戻って来たいと思います。

私たちは多くの興味深い経験をしました。その中でも最高の経験は、姫路東高校に通学したことです。私が学校を楽しんだ理由はたくさんありますが、簡潔に言うと、「日本で勉強したい」と願うほど素晴らしい経験でした。生徒や先生、スタッフの皆さんには歓迎してくれ、とても親切でした。学校以外にも、茶道や書写山での座禅、広島旅行、玩具博物館も楽しかったです。ホストファミリーとも素晴らしい関係を築きました。私は、ここ日本で得た経験と記憶を永遠に覚えていることでしょう。

(翻訳：ホストシスター 菅原はるか、財団)

Kelsey Murrin (ケルシー・ムリン)



「姫路交換プログラム」

この12日間、私は日本、姫路市での生活を本当に楽しみました。これは私にとって、故郷から出て成長するためのとても大きな経験でした。ホストファミリーはとても歓迎してくれました。12日間、彼らと過ごす機会を与えられたことにも感謝しています。中でも夕食の時間が最も楽しかったです。ホストファミリーと一緒に食事をしながら、さまざまな話をしました。また、私はUSJにホストシスターと一緒に行きました。これは、私の滞在の中で楽しかったことの1つです。なぜなら、みんなと一緒に新しいことを体験できたからです。

他にもたくさんのプログラムに参加しました。茶道体験や広島旅行のような興味深い体験もしました。私は、茶道体験の時に「人は何も持たずに生まれ、何も持たずに死んでいくのです」という言葉を聞き、とても印象深く感じました。この言葉から、私自身の人生の中での新しい考え方を得て、実際に大切な物に気付くことができたと思います。また、広島へ行き、たくさんのこと学び、悲しい気持ちになりました。広島の歴史について学び、壊滅的な被爆についても知りました。被爆者から話を聞き、平和記念公園に、私たちが作った千羽鶴を奉納しました。とても印象に残る1日になりました。

(翻訳：ホストシスター 木下ひなた、財団)

Edward Smith (エドワード・スミス)



私たちを受け入れていただき、とても感謝しています。素晴らしい経験となりました。中でも私のお気に入りは姫路城、書写山、USJ、そして広島旅行です。

姫路城はとても美しい場所で、歴史について聞き、美しい建造物の見学を楽しみました。中でも、書写山へ行ったことは私の一番の経験です。美しく静かな自然や寺は素晴らしかったです。また、USJも私のお気に入りの場所の1つです。友達と一緒にジェットコースターに乗ったことが楽しかったです。ありがとう、ぺんぺん（ホストシスターのニックネーム）！

広島旅行も大変素晴らしい、新幹線はとても速かったです。広島の歴史は恐ろしく、悲しく感じましたが、良い経験となりました。私は銭湯や秋祭りに行き、ホストファミリーとも良い時間を過ごしました。他にも、ホストシスターと同じ派遣生のルーシー、ルーシーのホストシスターの未来と一緒にサイクリングしたのも良い思い出です。この宝物の

のような経験を私はずっと忘れないでしょう。この経験を可能にしてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。将来、日本、そして姫路を再び訪れるることを楽しみにしています。

(翻訳：ホストシスター 市村遙、財団)

ブラックウッド高校引率 Meri Holt (メリ・ホルト)

「姫路滞在レポート」



旅行日程とプログラム：

予定されていた学校訪問を含むプログラムは素晴らしい、オーストラリアの生徒たちは様々な本物の日本を体験することができました。私たちが到着したときには、イーグレひめじの前でホストファミリーの方々が私たちの車に手を振ってくれていて、歓迎されているのを感じることができました。ありがとうございました。

●良かったこと：

茶席体験、姫路城、書写山・圓教寺、そして僧侶と座禅（瞑想）をしました。それぞれ、素晴らしい経験でした。広島での被爆者の講話もとても素晴らしいです。その他の全てのプログラムもとても良かったです。広島平和記念公園はもう少し時間をかけたかったです。とても興味深く、生徒たちの歴史の授業としても有益であると感じました。

●情報伝達と体制：

並外れて素晴らしいです。全てのプログラム、食事、移動の段取りは傑出しておらず、スムーズに行われました。プログラムは、その日に何を着ていけばよいのか、何を持って行けば良いのかということも含めて明確に述べられていました。姫路の担当者や、ホストファミリーとの事前のメール連絡においても順調でした。

●ホストファミリー：

畠家族は驚くほど素晴らしいです。移動はとても快適で、時間には常に正確でした。彼らは親切で寛大で、多くの本物の日本文化体験をさせてくださいました。城崎や秋祭りの練習見学、ショッピングに連れて行ってくれました。ホストマザーのユキコさんは日本料理が本当に上手でした。家の設備等はとても美しく、快適でした。またいつか訪れることができればうれしいです。

●オーストラリア側の所感：

長時間のフライトで、滞在初日から生徒たちはとても疲れていました。このことについて、オーストラリア側で検討する必要があると考えます。もう少し短時間で来られる便を利用していたらこの問題は起らなかつたと思います。全ての財団の皆様、生徒達とキム、私に最高に素晴らしい、特別な経験をさせてくださってありがとうございました。また、本当に素晴らしい滞在をさせてくださった畠さんご一家に多大なる感謝を申し上げます。この経験は私たち教師、生徒たちのこれから的人生をより高めてくれるでしょう。そして私が最初の週の月曜日と火曜日、体調が悪くなつた時にも本当に素晴らしい心遣いと治療体制を提供してくださったことにもお礼を申し上げたいと思います。

(翻訳：翻訳ボランティア)

ブラックウッド高校引率 Kim McGough (キム・マッゴウ)

「2019年 姫路への旅」



私は、姫路に滞在中、大変すばらしい経験をしました。すべての体験が本当に有意義なもので、特にホームステイでは、本物の日本の生活に触れることができました。私のホストファミリーは、私をとても温かく迎え入れてくれました。私は、この先もホストファミリーとの友情が続くことを願っています。

あまりにも数多くの素晴らしい体験をさせていただいたので、その中で何が一番素晴らしいのかを挙げることはできません。茶道もしましたし、玩具博物館へも行きました。そして着物も着ましたし、姫路の高校も訪問しました。このように、本当にさまざまな体験をしましたが、その中でも、書写山と圓教寺での経験は特別なものです。書写山一帯の美しい景色にも感動しましたし、あのような特別な場所で、僧侶から直接座禅の指導を受けることができ、自分自

身を見つめながら、このように素晴らしいプログラムに参加でき、私たちがどんなに恵まれているかを考えさせられました。

また、この旅で日本の歴史についてさらに見識を深めることができました。例えば、姫路城見学の素晴らしさが挙げられます。姫路城がどのようにして建てられたのか、なぜ「幸運な城」と言われているのか、それらの事実には大変驚かされました。姫路城は、観光客を惹きつける美しい外見だけではなく、城の内部には、戦いのための備えや防御システムが準備されている素晴らしい城であると知りました。

そして広島は、その悲劇の歴史から、我々に重要なメッセージを伝え続けている特別な場所です。被爆者から直接話を聞くことができたことは、大変幸運でしたし、私自身、そして将来を担う生徒たちにとって、忘れられない経験となりました。

最後に、この場をお借りして、私たちのために、大変有意義なプログラムを用意し、滞在中のサポートを親切にしてくださったスタッフの皆様にお礼を申し上げたいと思います。また、生徒と私を心から受け入れてくださった、小島さんをはじめとするホストファミリーの皆さんにも、心からお礼申し上げます。

(翻訳：弓削智晴)

アデレード市高校生および引率者ホストファミリー感想文

ホストマザー 市村喜久子

アデレード市からやってきた高校2年生のエディー君はひらがな、カタカナを学習してきており、看板の文字を読むことができ、食事はすべてお箸で挑戦し、日本のことと積極的に知ろうとするところが伺え、感心しました。また、エディー君の普段の生活についても教えてもらいました。「学校に持っていくのはノートパソコンだけ」「自分の車をいじっている」など、日本の高校生の生活との違いに驚きの連続でした。そして、私たちが「姫路や日本のおすすめは○○」という話をすると、「なぜそう思うのか?」「どんなところが良いのか?」とつっこまれ、何となく日本的だからというあいまいな感覚で提案するのではなく、自分たちの文化の背景や生活様式について、今一度、興味を持って何がおすすめかを考えてみようと思う場面もありました。

興味深く思ったのは、意見の食い違った時の対応の仕方です。私たち日本人はできるだけカドが立たないように解決しようとするのに対し、彼らは問題点をはっきりさせ、面と向かって解決することに躊躇しないようです。逆に彼らからすれば、日本人はそんなことでためらうのかと驚いたかと思います。

異なる文化や言語を持つ人たちと交流するときには少し踏み込む必要があり、「違うのだから理解できなくて当たり前」と思わずしてその都度、ちょっと立ち止まって考える時間がいるのではないかと感じます。この時間を持つことができるのがホームステイ受入の良いところではないでしょうか。エディー君と高校1年生の娘が、前の晩にはもう話したくないくらいに険悪だったのに、翌朝にはまた一緒にゲラゲラ笑っているのを見て、そんなふうに思いました。

エディー君と過ごしてみて、私たちの考えも少し柔らかくなったように思います。またいつでも姫路に来てね、エディー君!



ホストマザー 伊藤弘美

娘が「オーストラリアに行ってみたい！」と言ったその希望から「初めてのホストファミリー」を体験することとなりました。相互受入ということもあります、お世話になったのだから「一宿一飯の恩義」をお返ししなければ！という極めて日本人的な「おもてなし」の発想もありました。

「英語が話せなくても大丈夫ですよ」と言われても、全く話せず、そして仕事もあり、うまく受入ができるのだろうかと不安しかありませんでした。



実際のホームステイ受入は「ようこそ！」の気持ちを込めたウェルカムボードで出迎え、お互いに緊張した顔つきのまま外出、そして歓迎会となりました。そして、日々の生活が始まりました。餃子やたこ焼きと一緒に作り、彼女もスリランカカレーを作ってくれました。日常生活を共にすることで、言葉の壁を超えることができる「こころの繋がり」ができたのではないかと思います。

無我夢中で過ごした2週間はまたたく間に過ぎてしまいました。今回の経験で他国に新しい友人ができ、人と人との繋がりは言葉だけではないということを発見させていただきました。

ホストマザー 畠由紀子

アデレード市からの先生の受入は今回で2回目となります。

私たちの家はMeriという引率の先生を受け入れることとなりました。Meriはとても明るく愉快な方で、楽しい2週間になると思っていました。

2日目の朝、朝食の準備をしているとMeriが2階から呼んでいました。そして、体調が悪いと私に伝え、何度もトイレで嘔吐していました。顔色が悪く憔悴しているようで、異国の地で不安だろうと、とても心配になりました。昼過ぎには少し落ち着き、家から近いマリア病院へ行くことになりました。病院で検査を受け、適切な処置をしていただいたおかげで、帰る頃には顔色が良くなり、ほっとしました。Meriは、迷惑をかけたと何度も謝っていましたが、なかなか来ることのできない日本！私は、1分でも1秒でも早く、120%楽しめるように快復することだけを心から願っていました。食事がとれない間はとても心配でしたが、回復してからは、私の料理をほめてください、朝食に出したアーモンドトーストがとても気に入り、毎朝食べていました。私の地域では播州秋祭りの時期で、地元の練習や、隣村にある獅子舞の練習を見に、Meriを連れて行き、彼女は興味深く見ていました。地域の人にも温かく受け入れてもらい、バチをもって太鼓を叩かせてもらったり、説明をしてもらったり、日本の伝統ある祭りに触れることができました。夜は主人と3人で晩酌です。Meriは特にレモンチューハイが気に入ったようで、「レモンサワー飲みましょう！」と楽しく飲んで話をするのが日課でした。週末は、生野銀山と城崎に日帰り旅行をしました。Meriはお昼に食べたお寿司がおいしかったようで、「もういつ死んでもいいわ～」なんて言っていました。温泉も一緒に入り、城崎の風情も気に入ってくれた様子でした。

2週間という期間は長いように思いますがあつという間で、まだまだ時間が足りない！もっとおいしい食事を作って食べてもらいたかったし、もっと時間を共有したかったと感じます。しかし、容赦なく時間は過ぎていきます。よく、受け入れるのは大変でしょう？と言われますが、私にとっては大変というよりワクワクできる、お金では決して得ることのできない貴重な時間であり、出会うことの無かったかも知れない人と出会える素晴らしいキッカケの場です。受入をすることにより、家族もMeriの為に一生懸命協力してくれ、家族一丸となれるすばらしい時間となるのです。この出会いにより、これからもずっと続していく交流と、このご縁を大切にしていきたいと思います。財団の方々にはご心配おかけしましたが、Meriが笑顔いっぱい帰ることができ、本当に感謝しています。ありがとうございました！





プログラム講師からのメッセージ（1）

日本武道玉谷道場スポーツ少年団 玉谷康彦

この度、アデレードの高校生に日本文化でもある武道の空手道、居合道、古武道などの指導をさせていただきました。私自身、今までスポーツ指導者として、ドイツ、オランダ、中国に派遣された経験があり、外国の人々は日本の武道にとても興味があり、日本の素晴らしい文化でもある武道を広く知っていただきたいと思っておりました。今回、姫路に来たアデレードの高校生たちに武道体験を通じて日本の素晴らしさを体で感じてもらうことができ、大変うれしく思っております。



「食べてます？」など、思い思いの手紙になりました。武道体験当日、アデレードの高校生たちに子どもたちが書いた手紙を渡しました。手紙は少し読みにくいひらがなばかりの日本語です。その場で財団の職員の方に英訳して読んでいただきました。アデレードの生徒たちが真剣に耳を傾け、その都度笑ったり、頷いたりしている様子を見て、子どもたちの思いが通じたと感じました。また、子どもたちに返事の手紙も書いてくれることとなり、手紙の交流が実現しました。その返事の手紙を後日、道場の子どもたちに渡しました。遠い国の人たちと手紙を通じて交流できたことにみんなびっくりし、とても喜んでいました。そして、返事の英語の手紙を見て「これ何て読むのかな～？」「ほんまに外国人人が書いたん？」「大きくなったらオーストラリアに行きたい～」と夢は大きく膨らむばかりでした。



武道体験のことを日頃道場で指導している子どもたちに話すと、みんな目を輝かせて「オーストラリアは遠い国なの？」「どんな人が住んでいるの？」「カンガルーやコアラがいっぱいいるんかな？」など興味津々でした。武道体験当日は学校があり、子どもたちは会うことができません。そこで、手紙を書こう！ということになりました。子どもたちは未だ見ぬアデレードの高校生を頭に思い描きながら、自分たちの思いを書くことにしました。道場の床を下敷き代わりに寝転がって、鉛筆で書いては何度も消しながら、どうにか書き上げました。「オーストラリアに行ってみたい！」「飛行機でどれくらい時間かかるの？」「どんなご飯



今回、武道体験の講師としてアデレードの高校生たちに日本文化でもある武道を少しでも体験してもらえたことにより、道場の子どもたちにも遠い外国への夢を持たせることができました。そして、次世代の世界の人々と繋がり、交流できたことに大変感謝しております。今後、子どもたちも、手紙を通じて国際交流ができたことを素晴らしい心の財産として、心も体も大きく成長し、立派な大人になっていくものと信じております。今回このような姉妹都市交流事業に関わる機会に恵まれ、大変感謝しております。今後とも姫路市文化国際交流財団が益々発展し、交流の輪が更に広まるよう願っております。





韓国・昌原市コース



12月20日(金)～12月26日(木)



■滞在スケジュール

12月20日	金	来日 / 歓迎会
12月21日	土	ホストファミリーと過ごす
12月22日	日	ホストファミリーと過ごす
12月23日	月	姫路城見学 / 茶道体験
12月24日	火	市長表敬 / 絵手紙体験
12月25日	水	一日旅行 (ヤマサ蒲鉾工場見学、日本玩具博物館)
12月26日	木	帰国

韓国・昌原市より中学生8名と引率者2名が12月20日から1週間の日程で来姫しました。今回の8名は全員女子生徒でした。

今年度、夏に姫路市から昌原市に派遣された8名の女子中学生も冬休みに入ってからは一緒にプログラムに参加し、終始、賑やかな滞在になりました。

今回は一日旅行で蒲鉾工場を見学し、蒲鉾やちくわの製造工程を見ました。見学後、クリスマスツリーの形の蒲鉾を作る体験をし、思い思いのデコレーションを楽しみました。どれも力作ぞろいで、食べるのが勿体ないほどの出来栄えでした。そして、工場内にある「足湯」も体験しました。午後は福崎の辻川山公園を訪れ、河童などの妖怪たちを見物しました。水中から飛び出る3体の河童の姿に大興奮でした。

今回の受入は、日韓関係の改善が見通せない中、実現するのかどうか全くわからない状態が長く続きました。しかし、「こんな時だからこそ、青少年交流を中止するわけにはいかない！」という両市の熱い思いで、実現したのではないかと思います。これから時代の担い手である彼らが、日韓の架け橋になる日が来るよう願っています。



■中学生8名 + 引率者2名

손예문	ソン・イエムン
임현서	イム・ヒョンソ
오채은	オ・チェウン
황채림	ファン・チェリム
박서희	パク・ソヒ
이승희	イ・スンヒ
홍은서	ホン・オンソ
서예진	ソ・エジン
강무원	カン・ムウォン
최성환	チエ・ソンファン



韓国・昌原市中学生および引率者感想文

손예문（ソン・イエムン）

「初めてのホームステイ」

今年の7月に姫路市の派遣生たちが来たときは、私たちが日本に行く12月がずっと先のように思えて、待ち遠しく思っていましたが、あっという間に12月になり、私たちが日本に行く日がきました。

ホームステイは初めてのことだったのですが、韓国を出発するとき、姫路のみんなに早く会いたかったです。そして、日本の文化を身を持って体験してみたかったです。姫路に到着して、ホストファミリーと会ったとき、本当にうれしかったです。

エスカレーターに乗るとき、全ての人が急いでいる人のために、右側にだけに立っていることが本当に新鮮で、見習わなければいけないと思いました。日本の蕎麦と焼きそばがとても美味しいくて、韓国に持って帰りたいと思いました。ホストファミリーと一緒にたこ焼きを作つて食べました。自分が食べたい具材を自由に入れることができて、とても楽しかったです。

ホームステイが本当に楽しくて、今後もこんなホームステイをする機会があれば、是非参加したいです。

（翻訳：川谷裕子）



임현서（イム・ヒョンソ）

夏に受入の感想文を提出したのが昨日のことのようなのに、また再び感想文を提出する日がきました。今回私は日本に行って、1週間生活することになっていたので、期待もありましたが、緊張感がありました。しかし、ホストファミリーが本当に親切で、その緊張も解けました。そして、ホームステイに慣れてくると、韓国とは違うさまざまな良い文化が見えてきました。その中でもとても印象的だったことは、路上駐車をしないことです。通りには路上駐車が無いので、狭い道でも容易に通ることができ、道路も美しかったことにとても驚きました。それだけではなく、エスカレーターで片側を空けて立つ文化などを見て、私たちも見習いたいと思いました。

今回のホームステイの経験を通じて、隣の国である日本の文化・国民性などに気付くことができ、良い点は実践したいと思わせてくれました。今回のホームステイは私にとって本当に役に立ち、大切な機会であったと考えます。

（翻訳：翻訳ボランティア）

오채은（オ・チェウン）



夏休みに別れた時には、再び会う日をとても遠く感じていたのに、思っていたよりも早く再会できましたように感じました。バスから降りると、すぐにホストシスターの凜と日本の友達たちや、ホストファミリーが歓迎してくれました。その後、車に乗つて凜の家に行きましたが、日本は小さな長い車が多いと感じました。古い住宅も多くありますが、その魅力と風流さを感じました。

エスカレーターでは、右側に立ち、左側は歩いている人のために通路を開けていて、私は不思議に感じました。ショッピングモールの連絡橋でも、左側通行なのをしょっちゅう間違えて、真ん中を歩いてしまいました。

日本はお風呂の文化がありますが、毎日、1日の終わりにお風呂に入つたら、疲れがすっと消えていくようで気分が良かったです。また、ドンキホーテに行って、安くて不思議な物をたくさん買つていると、1万円ほどになつてしましました。買ひすぎかなとも思いましたが、それでもなかつたです。日本の通りは狭いですが、とても美しかったです。高層マンションの立ち並ぶ韓国では見ることが難しい風景だと感じました。

（翻訳：西森桂子）

受
入

昌
原

황채림 (ファン・チェリム)



「似ているようで違う日本の生活」

今回のホームステイを通して、韓国と日本の多様な文化の違いを、身をもって体験することができました。単なる旅行では、感じることができなかった、2つの国の家庭生活の違いから、街に遊びに出て気付いた小さな違いまで、近いけれども遠い日本という国について、今回のホームステイを通してさらによく知ることができました。

ホストファミリーの家へ行きながら気付いたことは、大半が高層マンションからなる韓国とは異なり、日本には、おおむね背の低い住宅が整然と並んでいたことです。また、夜11時でも灯りがついているところが多い韓国とは違って、日本では夜が深まるほど、韓国より早く暗くなっていました。初めてホストファミリーの家に行ったとき、思った以上に家がひんやりと寒く感じました。オンドルという床暖房が標準的に設置されている韓国の家とは違って、日本ではヒーターをつけて寒さをやわらげましたが、韓国の文化に慣れ切っていた私には、一風変わった感じを受けました。その後、初めて日本の家庭の浴槽に入りました。お風呂のお湯を家族で一緒に使うことには、生理的な拒否感はありませんでした。お風呂のお湯は、常に40度に保たれていて、温かくて気持ち良かったです。その時、一気にストレスが緩んだ気分は、まるで辛い食べ物を食べた時と似ているようであり、違っているようでもあり、不思議な感じでした。一般的に浴室に浴槽とトイレが一緒にある韓国とは異なり、日本はそれらが別々にあったので、初めは少し不便だと感じましたが、すぐに慣れることができました。お風呂に入った後、部屋に入ってみると、思った以上に布団が厚くて驚きました。布団の中には、電気毛布まであって、日本人の人は、冬はこうして寝るのだなと感じました。部屋が寒くて、このようにしなければ風邪をひいてしまうなとも思いました。この1週間、日本人の生活の様子を体験できる良い機会だったと思います。

(翻訳：弓削智晴)

박서희 (パク・ソヒ)



「幸せな1週間」

1週間のホームステイの初日はとても緊張したし、日本の家庭に1人で過ごすことが初めてなので心配でした。しかし、ホストシスターの藍子の家族はとても親切に私をもてなしてくれました。

1週間、藍子の家族と一緒に過ごし、日本の色々な場所を訪れ、新しい経験を通じて、日本の多くのことを知ることができました。初めて会う人たちとのコミュニケーションの取り方を学び、お互いの異なる文化を受け入れ、交流することを学びました。藍子の家族と私は、お互いの違いと文化をいつも明るい笑顔で教えあい、それは私にとって忘れられない思い出となりました。ホストファミリーと過ごした週末も、私のためにスケジュールを組んでくれたおかげで楽しく過ごせました。そして、藍子の家族とも仲良くなれるかとても心配でしたが、ホストマザーやホストファーザーが優しく声をかけてくださり、温かく接してくださったので、とても気楽に日々を過ごすことができたと思います。また、私が望んだおいしい日本料理をたくさん食べることができます、とてもうれしかったです。そして、今日、最終日の夜、クリスマスを迎えて、たこ焼きパーティーをして、ケーキも食べるそうです。とても楽しみですが、最後の夜なので悲しくもあります。1週間、私を気遣ってくれた藍子の家族にとても感謝しています。おかげで日本文化を楽しく知ることができました。長いようでもあり、短かった大切な1週間はおそらく、私に多くの影響を及ぼし、多くのことを学ばせてくれた貴重な時間でした。

(翻訳：東由美)



이승희 (イ・スンヒ)

「日本でのホームステイを通して感じたこと」

今回のホームステイを通して、多くの日本文化を体感することができました。その中で最も興味深かったのは、日本の公共交通機関利用時に見られる文化の違いでした。

日本で多くの公共交通機関を利用する機会がありました。私が日本で最初に利用したのは電車でした。電車を頻繁に利用しない韓国とは違い、日本では出勤や通学のような日常生活の中で、多くの人が電車を利用していると感じました。また、韓国の電車とは異なり、日本の電車には吊り革がありました。バスでも両国間の違いが感じられました。韓国のバスは前方のドアから乗車し、後方のドアから降車しますが、日本では反対に、後方から乗車し、前方から降車します。また、料金にも違いがありました。韓国では大人は1300ウォン（約130円）を払うと、どこまで乗っても、乗り換えをしてもそれ以上の料金は発生しません。しかし、日本では乗車距離に応じた料金を支払います。小さくてもはっきりと感じられる公共交通機関の違いが私には不思議に感じられました。

ホストファミリーはとても親切でさまざまな日本の食べ物もおいしかったです。機会があればまた日本を訪れたいと思います。

(翻訳：森充明)



홍은서 (ホン・オンソ)

1週間、日本でホームステイをしました。日本に来る前は少し心配していましたが、来て生活してみると、とても楽しかったです。また、あまり多くの人たちが経験することのできない、このような貴重な体験をすることができて、良かったと思います。実際の日本の家庭で生活しながら、その文化を知ることができ、さまざまな人たちとコミュニケーションを取ることができました。ホストファミリーとは会話をしながら、韓国の文化や気になったことなどを話し合い、お互いに質問しました。

滞在中、昼間は日本文化体験プログラムに参加し、夜はホストファミリーと一緒に過ごしました。どちらも私にとって大切な体験で、とても良かったし楽しかったです。良い経験をすることができ、とても嬉しく、他の国の文化を体験するという怖さは全くありませんでした。また、韓国と違う文化を新しく知ることが非常に楽しく、もっと知りたくなっていました。今度、またこのような機会があれば挑戦してみたいと思います。

(翻訳：蒲田みのり)



서예진 (ソ・エジン)

夏に莉緒に会って韓国で楽しい思い出を作りました。今回、私が日本に来いろいろな日本の文化を知ることができると思ったら本当にワクワクしました。ワクワクしながらバスを降りて、莉緒に会えて本当に幸せでした。ホストファミリーの皆さんのが温かく迎えてくださったので、安心しました。始めはお風呂の入り方や食べ物の違いなどが多くて難しかったです。しかし、時間が経ち次第に慣れてきて楽しくなってきました。

土曜日にはUSJでいろいろな乗り物に乗り、パレードを見ました。壮大なパレードがUSJ全体で繰り広げられていました。おしゃべりをしながら時間の経つも忘れていました。

日曜日は、神戸のショッピングモールで買い物をしました。ホストファミリーがたくさんのお土産を買ってくれて感動しました。

月曜日から水曜日までは日本文化や日本の食べ物などを体験しました。

1週間、日本で生活して成長したように感じました。そして、莉緒の家族は私のもう一つの家族です。このプログラムを手伝ってくださった姫路市、昌原市の方々、ホストファミリーの皆さん、莉緒の家族に感謝しています。ありがとうございました。

(翻訳：中山純子)

昌原市引率　강무원（カン・ムウォン）



「12月　温かかった姫路の思い出」

7日間の姫路訪問は、温かい情を感じができる時間でした。両国間の関係上、今回の訪問は難しく感じられ、訪問前はとても心配をしていました。しかし、そんな心配は無用だったと、姫路に到着した瞬間に分かりました。

頻繁に日本を訪問するのですが、今回多くのやりたいことや見たいものがありました。おいしい食べ物も味わいたかったし、姫路市の生徒たちが来るたびに見せてもらっていた写真を見ながら、姫路城や姫路市街にも行ってみたいと思っていました。姫路では思っていた全てのことができ、心地よい時間を過ごしました。私の7年間の国際交流担当期間中最も幸せな時間ではなかったかとの想いに至っています。

生徒たちの目の高さに合わせて共に食事をしてくださり、格式張らない対話の場を設けてくださった清元市長にも心より尊敬と感謝を申し上げます。

忘れられない美しい思い出を作ってくださった財団の全ての関係者の方々に心より感謝を申し上げ、昌原市で再び皆様にお目にかかる日を指折り数えてお待ちしております。姫路の皆様のご健康とご多幸をお祈りします。ありがとうございました。

（翻訳：藤井文子）



昌原市引率　최성환（チエ・ソンファン）

「新たな20周年に向かって」

今回の姫路訪問は、他の海外姉妹都市と違い、通常よりも難しい点が多くありました。韓国と日本の関係が良くない状況で、今年7月、姫路の派遣生は昌原を訪問してくれました。予定されていた日本の各姉妹都市との交流の大部分が中止され、青少年交流の責任者として、姫路市との交流をつなぎ留めようとしたが、容易なことではありませんでした。大変な状況の中、今回の交流が決定され、引率者として、カン・ムウォン主事と同行することになりました。期待よりも心配なことの方が多かったのですが、関西国際空港で財団の担当者と会ったとたん、何故か不意に笑顔になりました。今回の交流はうまくいくという気持ちになり、心配が期待へと変わりました。

歓迎会のあいさつで、財団の副理事長は、両国の関係が大変な中、昌原市の派遣生が姫路市を訪問したことについて、感謝の言葉をおっしゃいました。私たちも、青少年交流の重要性を誰よりも理解している者として、このような難しい関係であるからこそ今回の訪問を決定したと申し上げました。

12月24日、清元秀泰姫路市長を訪問しました。市長は国際交流の重要性をよく理解されていると感じました。両国間の青少年が若いころから多くの経験をし、たくさんの国を訪問し見聞を広げられたらいいとおっしゃいました。早いもので、1週間が過ぎ、最終日となりました。財団の担当者の配慮により、無事に交流を終えることができたことに、心から感謝申し上げます。そして、私たち訪問団を受け入れてくださった財団の国際交流担当の皆様に心よりお礼申し上げます。

（翻訳：林由美）

昌原市中学生ホストファミリー感想文

ホストマザー　中村尚子

「次はいつ？」

12月20日からの1週間、本当にあっと言う間の出来事でした。一時は、日韓間の交流が中止になっている地域もあり、姫路も中止になるのかと、成り行きに任せしかありませんでした。

来姫決定の連絡があった日から、前日の怪我の連絡、そして当日まで、少しの不安とそれ以上にソヒにやっと会えることへのワクワク感でいっぱいでした。

来姫したソヒは、初めのうちは緊張した感じでしたが、翌日から週末でいきなり家族での行事を行えたのが良かったのか、比較的早く打ち解けられたと思います。道中も、多くの場所を回りたかったので車移動としたことで、周りを気にすることなく車中で楽しく、時折翻訳機を駆使しながらも会話ができたのかなと思います。

特にUSJ、京都の清水寺～金閣寺～嵐山と、足が痛い中連れ回してしまったことが気になりつつも、娘が増えた感じがして、いつも以上に賑やかで楽しいひとときを過ごさせてもらいました。

ソヒが夕飯に韓国料理を作ってくれたこと、お土産を買いにメガドンキに行ってカゴいっぱいにお菓子を積み上げていたこと、最終日前日、たこ焼きパーティーでひっくり返すのを苦戦しながらも楽しく焼きながら食べたこと、一緒に過した時間が、ひとつひとつ今でも心に思い浮かびます。

最終日、最後にソヒにかける言葉に「さよなら」「また会おう」ではなく、「次はいつ?」という言葉を選びました。最初は「えっ? 次?」とビックリしつつも、「今度は家族で」「家族で韓国へおいでよ」と言ってくれ、別れの寂しさよりも次に会う楽しみを思い浮かべて見送りました。

この先、いろんなことがあると思いますが、家族のような良き友人として今後も交流が続くことを切に願うばかりです。ありがとうございました。



プログラム講師からのメッセージ（2）

あかり工房 大西真紀

～絵手紙ワークショップをさせていただいて～

3年前から4回にわたり、海外姉妹都市の中高生と日本の生徒さんを交えての絵手紙ワークショップをイーグレひめじでさせていただきました。

初めてのときには、言葉が違う生徒さんに大事なことを伝えられるだろうかとドキドキしましたが、実際にやってみると、言葉は違っていても、心は通じることを実感しました。

2017年には、韓国の昌原市の生徒さんと、翌年の干支の「戌」をテーマにカレンダーを作りました。筆を使わずに指で絵を描くことも提案してみると、こちらがびっくりするような個性的で素晴らしい作品を仕上げました。また、日本の生徒さんが韓国の言葉をお



互いに学びながら大きな筆で文字を書く姿をみると、これぞ国際交流だと感じ嬉しくなりました。

2018年には、フェニックスの生徒さんと、竹ようじに墨汁をつけてイラストを描いたり、着物の生地をハサミでカットして好きなように貼り絵をしたりと、楽しみました。

2019年にも、同様にワークショップをさせていただきました。

うまく描くことだけに重きを置かず、物をよく観察することや、自分の個性を発見し、のびのびと楽しんでいただけたらと願っています。素敵なお大人になることも！そして、私自身が学ばせていただいたことは絵を描く、ものを作る表情はキラキラと輝いていて、楽しむ心は世界共通！

大きな学びに感謝しています。ありがとうございました。





ホストファミリー報告会およびアンケート

◆得られたこと・良かったこと◆

全コース共通

- 家族の絆が深まった。
- 日のことについて改めて考える良い機会になった。
- 普段は夕食の時間がバラバラだが、受入中はなるべく家族そろって食事をするようにし、家族団らんの時間が増えた。
- 家族全員の視野が広がり、文化や言葉の違いに関係なく、人ととの繋がりを感じることができた。
- 言葉の壁を越えて、コミュニケーションが取れるということが分かった。
- 外国の様子をメディアを通してではなく、直接聞くことができた。
- 我が子が増えたような嬉しい気持ちになった。
- 子供たちが海外へ興味を持つきっかけとなった。

フェニックス市

- 日米の文化の違い、フェニックスのことを知ることができた。
- 先に受入をしたことで、姫路市とフェニックス市の8人がとても仲良くなり、安心して7月にフェニックス市に送り出すことができた。
- 将来、家族でフェニックスに行くという目標ができた。

太原市

- 日本与中国の文化や言葉の似ているところが分かり、隣の国だという親近感が強まった。
- 中国の遊びや料理を教えてもらえてよかったです。
- 中国と私たちの距離を縮めてくれる良い機会になった。
- 今回で3度目の中国の生徒の受入ですが、中国の変化の様子を肌で感じることができた。

アデレード市

- 日常会話の英語に触れることができて良かった。
- 英語の発音や文法に関する質問にも丁寧に答えてもらい、勉強になった。
- オーストラリアの人は考え方そのものが日本と違い、穏やかでのびのびしていると分かった。

受
入

昌原市

- 日本の音楽は韓国でも人気があり、日本の曲をピアノで弾いてくれて親近感がわいた。
- 歴史や政治と様々な問題はあるが、中学生同士の交流で新たな輪が広がることを学んだ。
- 韓国語の勉強をしているので、会話の勉強、練習ができた。

◆困ったこと・苦労したこと◆

全コース共通

- 送迎時間の調整。祖父母、親戚、ホストファミリー仲間に頼んだり、財団側に時間変更などの協力をしてもらった。
- 言葉が通じず、コミュニケーションをとるのに苦労した。
- 翻訳アプリなどを使用したが、正確に伝わっていたのかが分からず、もどかしい思いをした。
- 食べ物の好き嫌いが多く、メニューを決めるのに困った。

フェニックス市

- ピザやパスタなど好きな物を1品、メニューに加えるようにした。
- 洗濯物はなかなか出してこなかった。何度も出すように言ったら、帰国前に少し出してくれた。
- ホームステイ後半で、食事の量が減ってきて心配したが、受入生徒になじみのある料理を取り入れることで食欲が復活したようすだった。

太原市

- ・絶対にやりたいこと、行きたい場所、買いたいものは、事前もしくは初日に聞いておくのがベスト！
(滞在期間が短いので、後から聞いても対応できない場合がある)
- ・トイレの使い方を説明したが、流し忘れが多かった。
- ・期間も短く、夏の暑い時期でもあるので、疲れが出やすい。少しでも早く寝てゆっくりしたスケジュールを心掛けた。

アデレード市

- ・アレルギー対応。
- ・英語の理解のためにポケトークを使用した。

昌原市

- ・夜寝るのが遅く、朝起きるのが遅くなることが多かった。
- ・期間が短く、スケジュールを組むのが難しかった。
- ・寒さ対策に苦労した。

◆その他（希望など）◆

- ・日本に来て何がしたいのか、何を食べたいかなど、具体的に提案してもらえたなら、それに合わせて予定が組めるので助かる。
- ・素直な気持ちとマナー、姫路や日本のことを知りたい、仲良くなりたいという気持ちがあれば良い！
- ・日本文化や日本での生活に関心があり、さまざまな体験をしたいと思っている人に来て欲しい。
- ・日常生活で使う簡単な日本語くらいは話す努力をしてほしい。

**◆経験者として今後ホストファミリーをされる方へのアドバイス◆****事前準備**

- ・ホストファミリー同士のLINEグループを作り、事前に情報交換をしたり、相談できる関係を作つておくと心強い。
- ・体調や天候などで予定が変更になることもあるので、予定を入れすぎず、余裕を持たせるとよい。
- ・事前の準備をすればするほど、受入中スムーズに進むと思う。（トイレの使用方法や洗面所のタオルの位置、お風呂のドアの開閉方法、各部屋の使用者など、全てを細かく記入した付箋を各場所に貼っていた）
- ・日本について聞かれた時のために、自身の知識を増やすことも大事だと思う。
- ・相手の言葉を少しでも勉強しておくと喜んでもらえるし、お互いの距離が縮まる。（簡単なあいさつなど）

滞在中

- ・自ら希望して日本に来るからと言って、ゲストの生徒が必ずしも積極的で活発だとは限りません。多くのティーンエイジャーは日本人と同様、初めて会う外国人（ホストファミリー）に対して内気で人見知りです。こちらから積極的にコミュニケーションを取ることで、距離が縮まることも多くあります。
- ・あまり重く考えず、気軽にみてはどうでしょうか？まさに案ずるより産むが易し。
- ・ゲストというよりは、新しい家族のつもりで、飾らずありのまま接するとよい。
- ・ホストファミリー同士の横の繋がりもでき、良い友人を得られる機会でもありますよ！
- ・家族だけで受入していると思わずに、周りの方を巻き込んで、気を抜くところは抜いたらいいと思う。
- ・ゲストには1人の時間、ホッとできる時間を作つてあげるとよい。
- ・特別遠くに出かけたりする必要はない。近場や普段の生活の中で無理なく日本を知つてもらうのがいいと思う。
- ・全く違う国から来た人と一緒に生活するので、不安や、「あれ？」と思うことは当たり前。我慢せずに話をしてみるとお互いに気持ちよく、より一層深い経験ができると思う。
- ・言葉が通じなくても、笑顔と便利なスマホでどうにかなりました。受入をすることで視野が広がり、考え方も変わつた気がします。疲労感はありますが、充実感の方が大きく、やって良かったと感じています。

新聞に掲載されました

和文化体験楽しみ

جیلزیں

1

(神戸新聞 10月5日)



開示未済行権低減したアレード債の償還比率

米国の高校生が
もてなしに感謝
中長を表敬訪問



吉田博士は、この大河の水質を監視する機関がまだない、そのため、吉田博士は、この水質を監視する機関を作らなければならぬと考へた。そこで、吉田博士は、この水質を監視する機関を作らなければならぬと考へた。

(神戸新聞 6月19日)

1



このレポートの内容について、ご意見やご感想などございましたら、本財団までお知らせください。
これからのレポート制作の参考にさせていただきます。

令和元年度（2019 年度）海外姉妹都市青少年交流事業報告書

発行 令和 2 年（2020 年）3 月

公益財団法人 姫路市文化国際交流財団（国際交流担当）

〒670-0012

姫路市本町 68 番地 290 イーグレひめじ 3 階

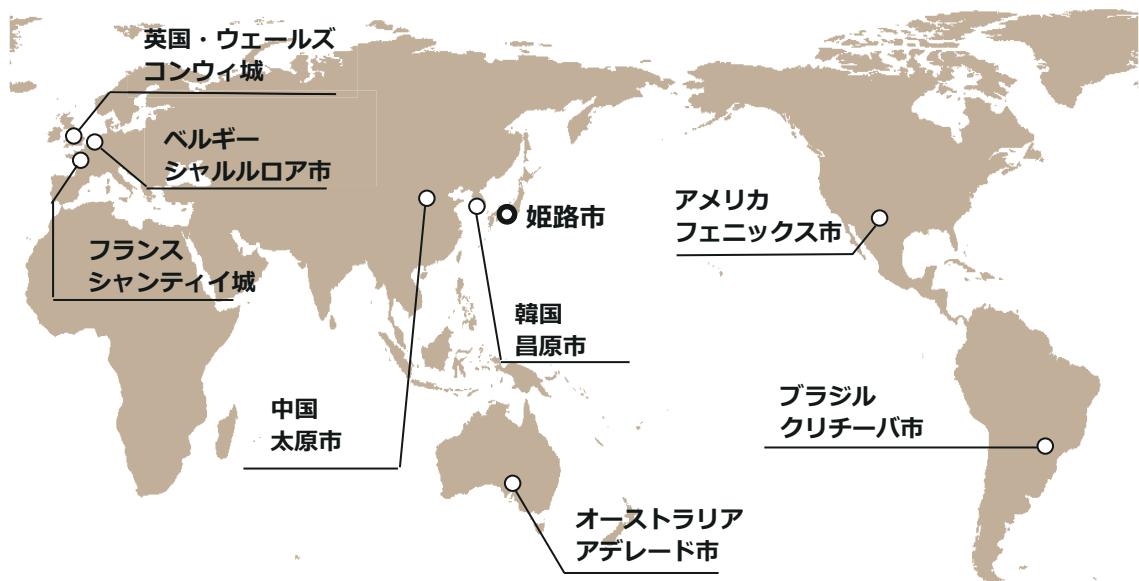
TEL 079-282-8950 FAX 079-282-8955

E-mail info@himeji-iec.or.jp

青少年交流の詳しい様子は公益財団法人姫路市文化国際交流財団（国際交流担当）

ホームページでご覧いただけます。

<http://www.himeji-iec.or.jp>



姫路市の海外姉妹都市（6都市2城）

公益財団法人
姫路市文化国際交流財団
HIMEJI CULTURAL AND INTERNATIONAL EXCHANGE FOUNDATION